

“暮らしつづける”想いが叶うまち かわにし



令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 川西市社会福祉協議会

目 次

令和4年度 事業報告

令和4年度事業の総括報告	1
令和4年度重点事業方針の内容と実績	2
A 法人運営事業	3
B 地域福祉事業	
B1 地域福祉活動推進事業	7
B2 ボランティア活動センター事業	13
B3 日常生活自立支援事業	19
B4 成年後見支援センター事業	21
B5 民生委員児童委員協議会連合会事業	26
B6 共同募金配分金事業	27
B7 基金事業	29
B8 資金貸付事業	31
B9 善意銀行事業	33
B10 包括的支援体制整備事業	34
C すこやかサービスセンター事業	36
D 障がい者相談支援事業	40
E 障がい者施設	
E1 小戸作業所	44
E2 川西作業所	48
E3 ひまわり荘	51
F 障がい児施設	
F1 川西さくら園	53
F2 さくらんぼ	60
G 養護老人ホーム 満寿荘	63
H 老人福祉センター	
H1 一の鳥居老人福祉センター	68
H2 緑台老人福祉センター	71
H3 久代老人福祉センター	74
I 子育て支援	
I1 久代児童センター	77
I2 ファミリーサポートセンター	80

令和4年度事業の総括報告

令和4年度も新型コロナウイルス感染症による行動制限や感染予防策が継続され、日常生活や社会活動に大きな影響があった。川西市社会福祉協議会（以下「本会」という）でも利用者や職員に陽性者や濃厚接触者が出ることが続き、事業運営にも少なからず影響が生じた。地域活動も制限を受け、コロナ禍での事業継続の難しさと、人と人との「つながり」の大切さを改めて痛感し、その再構築をいかに成すかについて試行錯誤の1年であった。

このような中、円滑な事業運営に向けては、感染症対策を十分に講じながら極力通常の運営を継続できるように努めた。ICTの活用により、会議や面談、新型コロナウイルス感染症に起因する理由でお休みされている施設利用者への在宅支援、関係機関や市民に向けての研修会等を実施した。また、施設や組織の業務継続計画（BCP）を感染症対応・自然災害対応それぞれについて作成し、感染症対策を踏まえた災害ボランティアセンターマニュアルの改訂にも取り組んだ。

相談支援においては、生活困窮や社会的孤立、ひきこもり、児童虐待やDV、高齢者や障がい者への虐待等複合化・複雑化した生活課題の表出は令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く、新型コロナウイルス感染症対策の特例貸付は年度途中で終了したものの、本会内のみならず行政や多機関との連携により当事者の支援を行った。

地域活動支援においては、感染症対策を講じつつも人と人との「つながり」を絶やさない活動の在り方を地域の方々と模索し、「ウイズコロナ」を念頭に置きながら縮小していた活動の再開や住民相互の助け合い活動創出の働きかけ、ICTを活用した新たな繋がりづくりを行った。

特に、「訪問型助けあい活動」に代表される地域内での家事等の支え合いの取組においては、前年度と比較して述べ活動回数が800回増となっており、益々活発になってきていることは特徴的と言える。

以下、令和4年度に本会が実施した事業について報告する。

令和4年度 重点事業方針の内容と実績

	方針項目	取組み内容と実績
1	地域共生社会の実現に向けた総合的・重層的な相談支援体制の確立	令和3年度に引き続き、地域住民の複合化・複雑化した地域生活課題や支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築をめざし、相談支援包括化推進員を1名配置。年齢や属性を問わない相談支援、参加支援及び地域づくり支援が一体的に実施できるよう行政主催の事例検討会や地域連携支援チーム会議へ事例を提供するなど中心的な役割を果たした。また、本会内での連携体制構築に向け、定期的な協議や連携の場を設け、組織のあり方についても検討し、令和5年度の組織改編につながった。
2	総合相談機能の充実	<p>成年後見支援センター「かけはし」は令和3年度に中核機関を受任し、従来の事業に加え、令和4年度は「地域連携つながりネット協議会」を発足させ、利用者一人ひとりに寄り添った権利擁護支援体制を検討した。</p> <p>基幹相談支援センターは、今年度「障がい者自立支援協議会」事務局を受託。その運営をはじめ、各種部会での協議、地域課題の抽出を通じ、障がい者の相談の中核基幹という役割を果たしながら、その解決に向けた仕組み作りに取り組んだ。</p>
3	生活支援体制の市内全区域の整備に向けた取組み	地区担当職員を令和6年度には各中学校区に1名配置することを目指し、令和4年度は前年比1名増の配置。各地区の福祉ネットワーク会議開催を働きかけ、日々の地域支援や相談支援等を通して把握した地域生活課題や支援ニーズを共有。各地区の課題解決に向け連携と協働により、ICTを活用した新たなつながりや子どもの居場所づくり、住民相互の助け合い活動の立ち上げなど、その福祉活動を支援した。また、第一層協議体に参画し、地域課題の解決に向けた提言を行った。
4	地域福祉人材の確保と育成	地域福祉活動の担い手の慢性的な不足や高齢化は積年の課題であり、市地域福祉課や介護保険課、参画協働課等と人材確保策について意見交換を行った。新たな人材確保策の「待ちんぐカードづくり」の取り組みをボランティア連絡協議会や地区福祉委員会連絡会で試行し、今後の人材確保につなげた。
5	第5次川西市地域福祉推進計画の策定開始	新型コロナウイルス感染症への対応のため、市の地域福祉計画の計画期間が1年延長されたことに伴い次期計画の策定は延期となったが、計画策定の基礎となる市民アンケート内容の協議に参画、第4次計画の振り返りに着手するなど策定準備を進めた。また、理事会・地区福祉委員会連絡会で社協のあり方や現計画について意見交換を行った。
6	指定管理施設における支援の充実	<p>9箇所の福祉施設について、小戸作業所・川西作業所・川西さくら園・ひまわり荘・満寿荘については今年度より5年間、久代児童センター、久代老人福祉センター、緑台老人福祉センター、一の鳥居老人福祉センターについては3年間の市から指定管理を受託。本会ならではの取り組みで他事業所と差別化を図り、利用者の確保と満足度の向上に努めた。</p> <p>老人福祉センターについては、2年後の機能廃止について周辺地域の利用者との意見交換を行った。また、入浴事業は年度末をもって廃止した。</p> <p>また、地域の福祉拠点としての役割について検討した。</p>

A	法人運営事業	決算科目	法人運営事業
---	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>第4次川西市地域福祉推進計画に基づき、引き続き、感染症対策を徹底しながら、各事業を実施すると共に、内部監査を継続実施し、法令遵守を徹底、その結果を共有することで職員の意識向上に努めた。</p> <p>また、本部会議の情報・事務局での決定事項・各事業所でのヒヤリハット・事故報告書など、職員間で情報共有した。職員全体研修を実施し、社協のあり方について再考する契機とした。</p> <p>理事会等の機能強化のため、本会のあり方についてのご意見を広く求めるとともに、課題の整理を行った。</p> <p>第5次地域福祉推進計画の策定については、各部署より推進員を任命し、部署単位で検討した内容を持ち寄り策定していく仕組みとした。</p>

今後の課題
<p>① 本会の事業内容が市民にとって分かりづらいものとなっているため、広報媒体の魅力アップや出前講座の積極的な実施が必要である。</p> <p>② 自主財源確保に向けた、情報発信のあり方を検討・実施するとともに、会員会費の新たな納入方法の選択肢を確保する。</p> <p>③ 計画的な職員育成が不十分であり、組織の将来を見据えた職員育成を行うため、職員研修の強化に取り組む必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	120,703,926	93,022,487	△ 27,681,439
会費収入	7,581,068	7,296,909	△ 284,159
経常経費補助金収入	65,223,050	64,604,881	△ 618,169
その他	47,899,808	21,120,697	△ 26,779,111
(支 出)	120,855,201	92,134,488	△ 28,720,713
人件費	80,846,485	56,717,219	△ 24,129,266
事業費	898,006	427,385	△ 470,621
事務費	4,753,019	3,816,643	△ 936,376
積立資産支出	20,100,096	20,100,098	2
拠点区分間繰入金支出	12,986,640	6,124,146	△ 6,862,494
その他	1,270,955	4,948,997	3,678,042

当期資金収支差額	△ 151,275	887,999	1,039,274
前期末資金収支残高	1,161,892	1,010,617	△ 151,275
当期末支払資金残高	1,010,617	1,898,616	887,999

主な増減理由
<p>① その他の収入は、大型寄付等が無かったことに伴う減</p> <p>② 人件費支出は、定年退職に伴う減</p> <p>③ 事務・事業費は、生活支援体制整備事業との新たな按分に伴う減</p> <p>④ 拠点区分間繰入金支出は、キャリアアップ数減に伴う減</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年5月理事会にて、「地域福祉及び社協の課題」についてグループ討議を行い、課題抽出を行った。抽出した課題は一覧表にまとめ整理し共有した。課題解決のため、第5次川西市地域福祉推進計画の策定に活用していく。 			

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	福祉情報の受発信に対する取組みの強化	取組項目	①
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 地域の活動(子どもの見守り活動、子どもの学習サポート等)にスポットを当てた広報紙面の作成や赤い羽根・歳末たすけあい募金の取組みを詳しく紹介し、支援者の輪が広がるような紙面とした。 広報紙で紙面についてのWEBアンケートが出来るようにし、住民の意見や考えが社協に伝えられる仕組みを整えた。 			
(2)	社協職員一人ひとりの情報発進力向上のための取組み	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 企画調整会議や所属長会等の会議の内容、事務局内での決定事項、各事業所でのヒヤリハット・事故報告書など、共有が必要な情報については、パソコンの内部ネットワークを通じて情報発信を行い、各部署で共有する取組みを行った。 			
(3)	ホームページや広報紙、情報紙等の充実	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 広報紙の紙面を再構成するとともに、ホームページの更新にも努めた。また、LINEでの情報発信を増やすことで、WEBで情報を得る住民への対応を強化した。LINEの登録人数増加には、配信契約を変更し対応した。 			

3	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4																																																								
(1)	各種自主財源のあり方検討	取組項目	①																																																								
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 社協会員会費・赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金ともに、引き続き減少している。自主財源確保が課題である。歳末たすけあい募金においては、新たに生活困窮者に向け、おせち料理の配布や、食料品の提供を実施した。 <p>①会員会費実績 ・地区福祉委員会別会員会費集計表 (単位:円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>金額</th> <th>地区名</th> <th>金額</th> <th>地区名</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>久代小</td> <td>342,653</td> <td>明峰小</td> <td>866,412</td> <td>けやき坂小</td> <td>56,836</td> </tr> <tr> <td>加茂小</td> <td>566,450</td> <td>多田</td> <td>286,870</td> <td>東谷</td> <td>366,543</td> </tr> <tr> <td>川西小</td> <td>511,020</td> <td>多田東</td> <td>409,913</td> <td>大和</td> <td>538,075</td> </tr> <tr> <td>桜小</td> <td>222,070</td> <td>グリーンハイツ</td> <td>1,697,994</td> <td>北陵</td> <td>297,106</td> </tr> <tr> <td>北小</td> <td>216,140</td> <td>清和台</td> <td>808,827</td> <td>その他</td> <td>109,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>7,295,909</td> </tr> </tbody> </table> <p>・年度別会員会費の推移 (単位:円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>9,542,841</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>9,552,982</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>9,284,769</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>8,219,910</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>7,581,068</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>7,295,909</td> </tr> </tbody> </table>				地区名	金額	地区名	金額	地区名	金額	久代小	342,653	明峰小	866,412	けやき坂小	56,836	加茂小	566,450	多田	286,870	東谷	366,543	川西小	511,020	多田東	409,913	大和	538,075	桜小	222,070	グリーンハイツ	1,697,994	北陵	297,106	北小	216,140	清和台	808,827	その他	109,000					合計	7,295,909	年度	金額	平成29年度	9,542,841	平成30年度	9,552,982	平成31年度	9,284,769	令和2年度	8,219,910	令和3年度	7,581,068	令和4年度	7,295,909
地区名	金額	地区名	金額	地区名	金額																																																						
久代小	342,653	明峰小	866,412	けやき坂小	56,836																																																						
加茂小	566,450	多田	286,870	東谷	366,543																																																						
川西小	511,020	多田東	409,913	大和	538,075																																																						
桜小	222,070	グリーンハイツ	1,697,994	北陵	297,106																																																						
北小	216,140	清和台	808,827	その他	109,000																																																						
				合計	7,295,909																																																						
年度	金額																																																										
平成29年度	9,542,841																																																										
平成30年度	9,552,982																																																										
平成31年度	9,284,769																																																										
令和2年度	8,219,910																																																										
令和3年度	7,581,068																																																										
令和4年度	7,295,909																																																										

②川西市共同募金委員会への協力

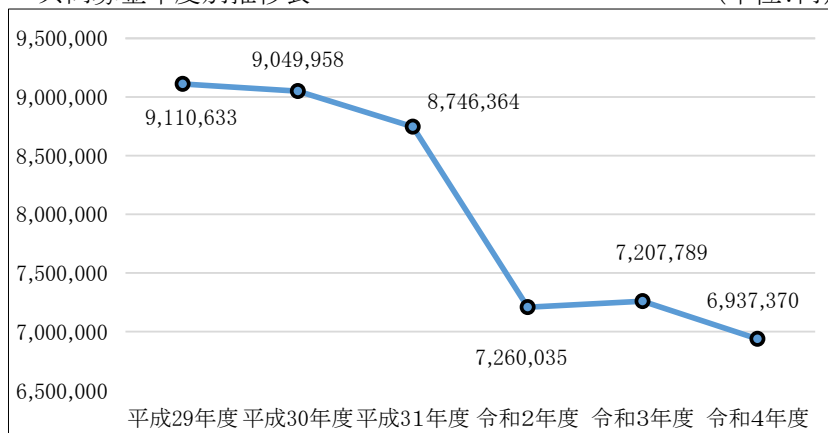
・共同募金実績

(単位:円)

広域目標額(円)	地域目標額(円)	目標額計(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了日
2,618,000	5,882,000	8,500,000	6,937,370	81.6%	令和4年12月31日

・共同募金年度別推移表

(単位:円)

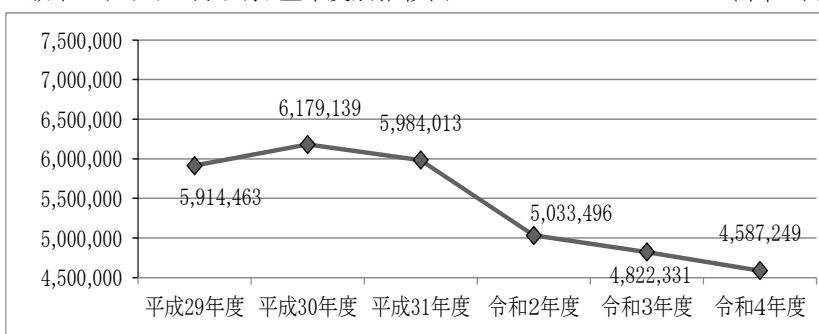


・歳末たすけあい運動持ち寄り金実績

目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了年月日
5,600,000	4,587,645	81.9%	令和4年12月31日

・歳末たすけあい持ち寄り金年度別推移表

(単位:円)



(2) 新たな収益事業の検討

取組項目 ②

【実績と成果】

収入増に向けて、既存のワンクリック募金について情報収集し、本会での実施について検討を行った。令和5年度内実施に向けて取り組みを進める。

4 ほっとかない、あきらめない支援の強化

活動項目 3-2

(1) 職員の資質向上

取組項目 ②

【実績と成果】

- ・施設では個別研修計画に基づき研修を実施した。法人においては、全5回の職員全体研修を実施し、社会福祉法人のあり方や、重層的支援体制整備に向けての取り組みについて学んだ。オンラインを活用したe-learningの導入について川西市と協議し予算化した(令和5年度より)。
- ・職員の働き方改革について職員提案を試行的に実施したが、具体的な提案がなかった。令和5年度は、提案がなかった理由を探り職員の意見を吸い上げることができるよう改善し実施する。

5	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	市内の社会福祉法人との連携	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 市内16法人からなる川西市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネットかわにし)の地域貢献事業として、フードドライブを実施した。地域の皆様・施設ご利用者・職員の皆様からお寄せ頂いた食品を、子ども食堂・フードパントリー実施事業所に配分した。(実績 503kg) 今後も継続して取り組む。 川西市社会福祉法人連絡協議会の研修会として「災害時の対応と社会福祉施設に求められる役割について」を実施した。 			

その他

事業項目	①第4次川西市地域福祉推進計画の進行管理		
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 第4次地域福祉推進計画をもとにした年度計画にしたがい事業を実施した。第5次地域福祉推進計画の策定に向け、各事業で現計画の実施状況を確認するとともに、各所属から推進員を選定し、第4次地域福祉推進計画の振り返りと全体の構成について検討し、その内容をまとめた。 			
事業項目	②法令遵守体制の確立		
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> インボイス制度導入に伴い、事務担当及び会計責任者を対象に研修会を開催した。また、事業運営等については事業所ごとの内部監査を継続実施し、監査結果を全職員で共有することで、法令遵守の徹底を図った。 			
事業項目	③福祉避難所開設・運営マニュアルに基づく訓練の検討		
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に、県下で福祉避難所にかかる取り扱いの変更があるため、地域福祉課・危機管理課とのマニュアルの見直し・訓練の実施については次年度に行う。 			

B1	地域福祉事業	決算科目	地域福祉活動推進事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
<p>小学校区単位の子ども食堂、町や丁単位の住民座談会の議論から居場所、自家用自動車を活用した付き添い支援などの新たな活動が立ち上がった。その他居場所、助けあい、見守り活動が推進された。</p> <p>夏休みを利用した福祉教育について小学校と協議を重ね、令和5年度の実施に向け、プログラムの検討を行った。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	45,574,945	44,130,310	△ 1,444,635
経常経費補助金収入	24,962,933	15,529,520	△ 9,433,413
受託金収入	12,483,388	19,762,598	7,279,210
その他	8,128,624	8,838,192	709,568
(支 出)	44,303,500	46,069,866	1,766,366
人件費	36,227,117	34,710,413	△ 1,516,704
事業費	2,014,308	1,532,907	△ 481,401
事務費	640,622	770,496	129,874
助成金支出	4,736,640	4,802,538	65,898
その他	684,813	4,253,512	3,568,699

今後の課題
<p>① 多様な主体が関わる地区福祉計画の策定</p> <p>② 居場所・助けあい・見守りなど、住民主体の地域福祉活動の立ち上げや運営支援</p> <p>③ 地縁組織の維持が難しくなる中、各小学校区ごとに多様な主体との協働・連携を図り、地域に横のつながりを構築する。</p>

当期資金収支差額	1,271,445	△ 1,939,556	△ 3,211,001
前期末資金収支残高	1,889,099	3,160,544	1,271,445
当期末支払資金残高	3,160,544	1,220,988	△ 1,939,556

主な増減理由
<p>① 補助金収入・受託金収入は、配分手法変更に伴う増減</p> <p>② 人件費は、人事異動などに伴う減</p> <p>③ その他支出は、積立資産支出増に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1-1																											
(1)	住民主体の「福祉デザインひろば」づくりの推進	取組項目	①																											
【実績と成果】																														
<ul style="list-style-type: none"> ゼミ形式で、地域福祉活動の実践における価値や介護保険法など法制度の知識を学び、コミュニティワークの質を深めた。 実施回数 8回 一つの地区を複数のワーカーで支援する体制を整えるとともに、日々の終礼時に職員間で各地区の取り組みや事例など意見交換することで互いにアドバイスや指導を行い地域支援の充実に努めた。 歳末助けあい運動持寄金を活用したつながりサポート事業助成を行い、新たに4地区の環境整備を行った。 コミュニティワーカーの地域支援活動状況 																														
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">活動内容</th> <th style="width: 15%;">活動件数 (令和4年度)</th> <th style="width: 55%;">活動内容詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会議・行事等参加</td> <td>567 件</td> <td>定例会等での助言・提案、各種活動への支援等</td> </tr> <tr> <td>会議の主催・講義の実施等</td> <td>57 件</td> <td>地域活動支援に資する会議の主催や研修会での講話等</td> </tr> <tr> <td>相談対応</td> <td>337 件</td> <td>活動及び個別支援に関する相談対応</td> </tr> <tr> <td>連絡調整</td> <td>862 件</td> <td>活動に関する連絡調整</td> </tr> <tr> <td>情報共有</td> <td>224 件</td> <td>他地区の活動紹介など</td> </tr> <tr> <td>ネットワークづくり</td> <td>36 件</td> <td>ネットワークづくりを目的とする地域との関わり</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>23 件</td> <td>上記以外の活動</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,106 件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				活動内容	活動件数 (令和4年度)	活動内容詳細	会議・行事等参加	567 件	定例会等での助言・提案、各種活動への支援等	会議の主催・講義の実施等	57 件	地域活動支援に資する会議の主催や研修会での講話等	相談対応	337 件	活動及び個別支援に関する相談対応	連絡調整	862 件	活動に関する連絡調整	情報共有	224 件	他地区の活動紹介など	ネットワークづくり	36 件	ネットワークづくりを目的とする地域との関わり	その他	23 件	上記以外の活動	合計	2,106 件	
活動内容	活動件数 (令和4年度)	活動内容詳細																												
会議・行事等参加	567 件	定例会等での助言・提案、各種活動への支援等																												
会議の主催・講義の実施等	57 件	地域活動支援に資する会議の主催や研修会での講話等																												
相談対応	337 件	活動及び個別支援に関する相談対応																												
連絡調整	862 件	活動に関する連絡調整																												
情報共有	224 件	他地区の活動紹介など																												
ネットワークづくり	36 件	ネットワークづくりを目的とする地域との関わり																												
その他	23 件	上記以外の活動																												
合計	2,106 件																													

(2)	地域のニーズに合わせたふれあい交流事業の推進～ふれあい～	取組項目	②
-----	------------------------------	------	---

【実績と成果】

- 小地域の住民座談会などの協議から身近な歩いて行ける居場所が広がった。
- 認知症高齢者がサロンの中で役割を担うなど、当事者の社会参加が広がった。

・居場所・通いの場(月1回以上の開催)		開催場所	延開催回数	延参加者数
①誰もが参加可能な居場所の開催(②+③+④)		22 カ所	1,892 回	27,352 人
②ふれあいサロン		12 カ所	1,212 回	13,655 人
③コミュニティカフェ		9 カ所	659 回	12,922 人
④コミュニティレストラン		1 カ所	21 回	775 人
⑤認知症の方やその家族を主たる対象としたカフェなどの開催		8 カ所	74 回	1,308 人
⑥障がい者やその家族を主たる対象としたカフェなどの開催		6 カ所	89 回	1,199 人
⑦高齢者対象のサロンやカフェの開催		4 カ所	81 回	1,250 人
⑧介護予防に関する通いの場の開催・開催支援(各種体操、まちの保健室、認知症予防事業など)		7 カ所	395 回	3,922 人
⑨子育てサロンの開催・支援		9 カ所	89 回	987 人
⑩子ども食堂の開催(フードパントリー含む)		2 カ所	34 回	847 人
⑪上記以外の居場所・通いの場の開催		7 カ所	485 回	1,918 人
・住民交流(月1回未満の開催)		開催場所	延開催回数	延参加者数
⑫高齢者のつどいなどの開催(ひとり暮らし高齢者対象含)		12 カ所	82 回	2,334 人
⑬ひとり暮らし高齢者の会の育成・支援		4 カ所	14 回	487 人
⑭介護予防に関する事業(認知症予防含)の開催・支援		5 カ所	59 回	957 人
⑮三代交流を目的とした行事(バザー含)の開催		11 カ所	28 回	15,912 人
⑯障がい者との交流を目的とした行事の開催		6 カ所	9 回	472 人
⑰防災に係る活動の開催・参加・協力		6 カ所	37 回	1,722 人
⑱上記以外の住民交流を目的とした行事の開催		8 カ所	33 回	1,197 人

(3)	地区相談窓口の実施支援～支えあい～	取組項目	③
-----	-------------------	------	---

【実績と成果】

- ・ 相談窓口の在り方について、地区福祉委員会との協議を行った。また、相談員研修などを実施し、相談員の資質向上に努めた。
- ・ いくつかの相談窓口は訪問型助け合い活動の受付と統合し、「困りごと」が「依頼」という形で届くことで住民ニーズの把握が進んでいる。また、依頼に対応することにより、新たな困りごとの把握にもつながっている。

・地区相談窓口(単独設置・サロン等併設型問わず)

年度	開催箇所	延開催日数	延相談件数
令和4年度	14 カ所	627 日	510 件

・訪問型助けあい活動

年度	訪問型助けあい活動実施地区数	ボランティア登録者数	延活動回数	延活動者数
令和4年度	12 地区 ※	611 人	4,636 回	5,695 人

※ 12地区中、地区福祉委員会の内部で組織化して実践しているのは7地区

内容	実施地区数	貸出し延回数	貸出し延人数
車いす貸出し(地区福祉委員会対応)	14 地区	212 回	212 人

(4)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④																								
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 福祉ネットワーク会議を中心とした第2層圏域における協議の場の開催を各地区へ働きかけた。 福祉ネットワーク会議から抽出した課題解決の取り組みを進めるため、多様な地域組織や福祉の専門職が参画する実行委員会立ち上げをサポートし、訪問型助けあい活動の組織化や社会参加の場としての子ども食堂の新たな開設に向け、協議を重ねた。 <p>・第2層圏域における協議の場</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>実施地区数</th> <th>延開催回数</th> <th>延参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉ネットワーク会議・第2層協議体等の開催</td> <td>9 地区</td> <td>23 回</td> <td>296 人</td> </tr> <tr> <td>座談会・懇談会などの開催</td> <td>3 地区</td> <td>37 回</td> <td>256 人</td> </tr> <tr> <td>理事会、役員会、部会等の開催</td> <td>14 地区</td> <td>309 回</td> <td>4,453 人</td> </tr> <tr> <td>個別支援に関する話し合いの場の開催、参加</td> <td>3 地区</td> <td>8 回</td> <td>59 人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>29 地区</td> <td>377 回</td> <td>5,064 人</td> </tr> </tbody> </table>				活動内容	実施地区数	延開催回数	延参加者数	福祉ネットワーク会議・第2層協議体等の開催	9 地区	23 回	296 人	座談会・懇談会などの開催	3 地区	37 回	256 人	理事会、役員会、部会等の開催	14 地区	309 回	4,453 人	個別支援に関する話し合いの場の開催、参加	3 地区	8 回	59 人	合計	29 地区	377 回	5,064 人
活動内容	実施地区数	延開催回数	延参加者数																								
福祉ネットワーク会議・第2層協議体等の開催	9 地区	23 回	296 人																								
座談会・懇談会などの開催	3 地区	37 回	256 人																								
理事会、役員会、部会等の開催	14 地区	309 回	4,453 人																								
個別支援に関する話し合いの場の開催、参加	3 地区	8 回	59 人																								
合計	29 地区	377 回	5,064 人																								

(5)	子育て支援の推進	取組項目	⑤
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会や活動に興味のある住民とともに子ども食堂の立ち上げに向け、協議を行った。 子ども食堂では活動を通して困りごとのある世帯に対し、住民とともに関わりを続けた。 企業や市内の社会福祉法人などとフードドライブを実施し、子ども食堂やフードパントリー実施団体への寄付を行った。 新設された子ども食堂等実施団体も含めた連絡会を開催し、情報交換を行うことで団体間の具体的な連携が生まれた。 			

(6)	地区福祉委員会事業へのより幅広い住民の参画推進	取組項目	⑥
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 福祉講座や多様な学びの場での講話などにより、地域福祉や地区福祉委員会活動への理解者を増やすことに努めた。 地区福祉委員会役員に対し、役員研修を行い、具体的な人材募集のツールについて学びを深めた。 社協会員会費の募集の際、コミュニティ協議会や自治会の会議の場で説明の時間をもらい、本会や地区福祉委員会の活動の周知に努めた。 			

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1-3												
(1)	関係団体との定期的な協議・検討	取組項目	①												
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者支援の登録者を中心に民生委員と福祉委員などが日常の見守りの中で感じている生活状況を共有する場にコミュニティワーカーも参画し、住民の気づきが早く専門職に伝わるよう取り組んだ結果、参加する住民の見守りの意識が高まった。 <p>見守り訪問</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>実施地区数</th> <th>対象者延人数</th> <th>活動者延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問活動(手紙等、間接的な訪問も含む)</td> <td>6 地区</td> <td>3,326 人</td> <td>3,768 人</td> </tr> <tr> <td>住民主体の見守り会議等</td> <td>1 地区</td> <td>28 人</td> <td>432 人</td> </tr> </tbody> </table>				活動内容	実施地区数	対象者延人数	活動者延人数	訪問活動(手紙等、間接的な訪問も含む)	6 地区	3,326 人	3,768 人	住民主体の見守り会議等	1 地区	28 人	432 人
活動内容	実施地区数	対象者延人数	活動者延人数												
訪問活動(手紙等、間接的な訪問も含む)	6 地区	3,326 人	3,768 人												
住民主体の見守り会議等	1 地区	28 人	432 人												

3	地域資源の開発(生活支援体制整備事業の推進)	活動項目	1-4
(1)	ニーズに応じた地域福祉資源の開発	取組項目	①
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 町や丁目ごとの小地域単位の座談会での協議から居場所を開設した。 自家用車を活用した付き添い支援が開始された。 その他、訪問型たすけあい活動や子ども食堂など、活動の立ち上げに向けた協議を重ねている。 			
(2)	身近なエリアでの見守り・支えあい活動の推進	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> あらゆる地域福祉活動が見守りを兼ねていることなどを適宜学びの場で啓発した。 地域福祉活動に適宜参加し、困りごとを抱える住民の参加状況や住民同士のつながりを把握するとともに、コミュニティワーカーが困りごとを抱える住民と関係を作ることに努めた。 			
(3)	地域におけるコーディネーター機能の強化	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク機能を強化するため、法人内でゼミを実施し、学びを深めた。 総合相談・権利擁護チーム主催のケースカンファレンスでは、個別支援と地域支援の視点の違いを双方が理解する場となった。 			
(4)	協議の場の充実	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 第2層協議体(福祉ネットワーク会議)は開催前の協議から関わり、地域課題を解決する協議の場となるように働きかけた。 特定の協議の場を第2層協議体とするのではなく、小学校圏域で多様な協議の場が生まれ、つながるよう働きかけた。 			

4	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1								
(1)	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①								
【実績と成果】											
<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会役員研修を通して、人材確保のツールとなる「待ちんぐカードづくり」を学んだ。 地区福祉委員会のブロック連絡会などで人材確保について協議し、地区ごとの工夫について情報交換を行った。 地区福祉委員会への毎月の報告事項の中に人材確保の仕組みやその工夫についてコラムとして掲載し、情報提供を行った。 											
(2)	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤								
【実績と成果】											
<ul style="list-style-type: none"> 各地区ごとに福祉委員研修や福祉講座を実施し、地区福祉委員会や福祉委員の役割、活動の意義などを伝えた。 全市的な助けあい活動の推進を目的にシェアはぴ講演会を開催した。活動を実施している地区にとっては、活動の意義や大切にすべき視点などを再確認する場となった。 											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施地区数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉委員対象の研修(部会研修含む)</td> <td>11 地区</td> <td>26 回</td> <td>769 人</td> </tr> </tbody> </table>				内容	実施地区数	実施回数	参加人数	福祉委員対象の研修(部会研修含む)	11 地区	26 回	769 人
内容	実施地区数	実施回数	参加人数								
福祉委員対象の研修(部会研修含む)	11 地区	26 回	769 人								

5	福祉情報の受発信	活動項目	2-2								
(1)	地区福祉委員会などと連動した福祉情報の受発信	取組項目	④								
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会の定例会にて配布している「社協からのお知らせ」をリニューアルし、他地区で行われている好事例を掲載し、情報共有を図った。他地区の活動を知る機会が増え、良くなったとの声も聞かれた。 地区福祉委員会単位の広報紙がより良い情報発信となるよう、記事の内容などを協議する場にも参加し、助言を行った。 											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>発行地区数</th> <th>発行回数</th> <th>部数/1回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報紙(地区ニュース)の発行</td> <td>14 地区</td> <td>59 回</td> <td>77,140 部</td> </tr> </tbody> </table>				内容	発行地区数	発行回数	部数/1回	広報紙(地区ニュース)の発行	14 地区	59 回	77,140 部
内容	発行地区数	発行回数	部数/1回								
広報紙(地区ニュース)の発行	14 地区	59 回	77,140 部								

6	福祉教育の推進並びに学習機会の提供	活動項目	2-3																
(1)	地区福祉委員会と連携した研修会などの開催	取組項目	③																
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 一部の小学校とは福祉教育の実施に向け、人権学習の見学などを通して学校との関係づくりを行った。その後の調整などから、令和5年度夏休みの実施に向け、内容や手法などについて協議を進めることとなった。 若年性認知症の当事者の方に福祉講座の講師になっていただくコーディネートを通して、参加者の理解を深めた。 																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施地区数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域住民対象(車いす体験学習、公民館共催講座含)</td> <td>10 地区</td> <td>22 回</td> <td>778 人</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座(主催・共催)</td> <td>10 地区</td> <td>20 回</td> <td>404 人</td> </tr> <tr> <td>上記以外の啓発活動(SOS訓練など)</td> <td>8 地区</td> <td>10 回</td> <td>271 人</td> </tr> </tbody> </table>				内容	実施地区数	実施回数	参加人数	地域住民対象(車いす体験学習、公民館共催講座含)	10 地区	22 回	778 人	認知症サポーター養成講座(主催・共催)	10 地区	20 回	404 人	上記以外の啓発活動(SOS訓練など)	8 地区	10 回	271 人
内容	実施地区数	実施回数	参加人数																
地域住民対象(車いす体験学習、公民館共催講座含)	10 地区	22 回	778 人																
認知症サポーター養成講座(主催・共催)	10 地区	20 回	404 人																
上記以外の啓発活動(SOS訓練など)	8 地区	10 回	271 人																

7	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 社協会員会費を自治会長へ依頼するだけでなく、コミュニティ協議会や自治会などの会議の場にてその趣旨や用途などを伝える場を作ってもらいように働きかけた。数は少ないが、直接地域住民の話を聞く場を設定することができた。 			
(2)	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会や子ども食堂実施団体など、多様な団体に向けて助成金情報の提供や申請支援を行った。 企画・総務チームと連携し、住民組織が実施する外出支援(自動車使用)に係る助成金制度を善意銀行事業に創設した。 			

8	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	地域福祉活動の推進を通じたニーズ把握	取組項目	①
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の会議などに参画し、常に住民の困りごとの把握に努めた。 ・ スクールソーシャルワーカーなどの専門職との連携が深まり、不登校児童などの個別ケースの相談が寄せられ、連携しながら社会参加の調整を行った。 			
(2)	“我が事”と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地縁組織間にも縦割り意識があることが否めず、地縁組織間の横のつながりを意識した関わりを行った。 ・ 助けあい活動の中にも互助の機能があり、文字どおりの助けあい活動として広がりを見せている。 			
(3)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校児童と住民活動をマッチングし、社会参加の場をコーディネートした。 ・ ㈱ダイエーが実施を検討している移動販売について、具体的実施に向けたニーズ調査や地域との調整を行っている。 ・ フードドライブの取り組みは企画・総務チームと連携して実施し、市内の社会福祉法人が参画した。 			

9	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横断的なケースカンファレンスに参加した際には地域福祉活動とのコーディネートや住民同士のつながりを意識して関わった。 ・ 対応に悩むケースはコミュニティワーカー間で協議した上で、包括化推進員につなぐなど、法人内の多職種による協議につないだ。また、コミュニティワーカーのケースワークの質の向上に努めた。 			

10	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流を目的とする地域福祉活動も再開となるものが多くなり、つながりが広がるような実施方法を地区福祉委員会などと協議した。 			
(2)	自治会やコミュニティ組織への支援	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意識的に自治会との関わりをもつことでコミュニティワーカーの存在を理解してくれる自治会が増え、困りごとやコーディネートの相談が寄せられるようになってきている。 			
(3)	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的な相談支援体制を構築するための内部協議の場に参加し、相互の役割の理解や個別ケースの対応方法などを協議し、その成果としてフロー図が完成した。 ・ 必要に応じてケースカンファレンスなどに参加し、住民活動との調整を行った。 			

B2	地域福祉事業	決算科目	ボランティア活動センター事業
----	--------	------	----------------

主な事業内容・成果
<p>災害ボランティアセンターマニュアルの改訂に伴う協議の場を開催し、災害時における本会の組織体制や関係団体との連携・協働体制の整備を行った。</p> <p>関係機関との連絡会に定期的に参加し、人材確保・育成に係る意見交換や情報共有を行うとともに関係機関と連携し、ボランティアグループに対して、人材確保に向けた研修を実施した。</p>

今後の課題
<p>① 人材発掘・育成における小中学校等の福祉学習において、疑似体験や技術取得を目的とした体験学習は行っているが、メニューが固定化しているため、新たなメニューの開発や既存の体験学習の内容について検討が必要である。</p> <p>② 災害時に災害ボランティアセンターとして、迅速に対応できる体制作りを行うため関係機関、ボランティアグループ等と連携して災害VC設置訓練を行う必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

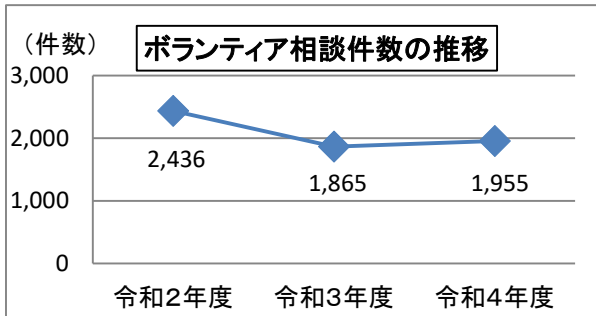
科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	7,428,366	8,098,863	670,497
経常経費補助金収入	7,200,588	7,742,094	541,506
寄付金収入	45,070	53,251	8,181
その他	182,708	303,518	120,810
(支 出)	7,428,366	8,098,863	670,497
人件費	5,847,749	6,099,033	251,284
事業費	1,110,854	748,030	△ 362,824
事務費	343,881	1,080,033	736,152
助成金支出	27,000	27,000	0
その他	98,882	144,767	45,885

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	438,383	438,383	0
当期末支払資金残高	438,383	438,383	0

主な増減理由
<p>① 事業費は、科目変更に伴う減</p> <p>② 事務費は、科目変更に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①
【実績と成果】			
・ 相談内容件数 (単位:件数)			
活動希望	情報提供	ニーズ	
83	47	204	
共済	器材	悩み	
160	4	10	
連絡・報告	講座	提案	
1,332	77	0	
苦情	その他	合計	
10	28	1,955	
・ ボランティア相談者別件数内訳 (単位:件数)			
市民	施設・団体	行政	企業
390	1,350	192	23
			合計
			1,955



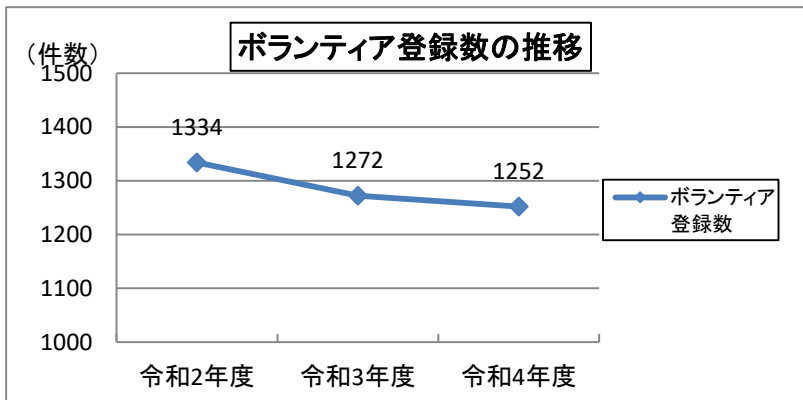
・種類別ボランティア活動状況

(単位:人)

保育等	点訳	音訳	傾聴	筆談	調理	家事援助	行事手伝	CH指導等
267	34	136	42	20	8	0	34	20
外出支援	施設手伝	特技活動	手話	講座等	居場所	その他		
2	22	466	90	40	189	213		
合計	延べ活動人数							
1,583	5,573							

・ボランティア活動センター登録状況(令和4年度末現在登録者)

種別	人数	内訳	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上
個人登録	285名		0名	177名	108名
グループ登録(52G)	967名		18名	344名	605名
合計	1,252名		18名	521名	713名

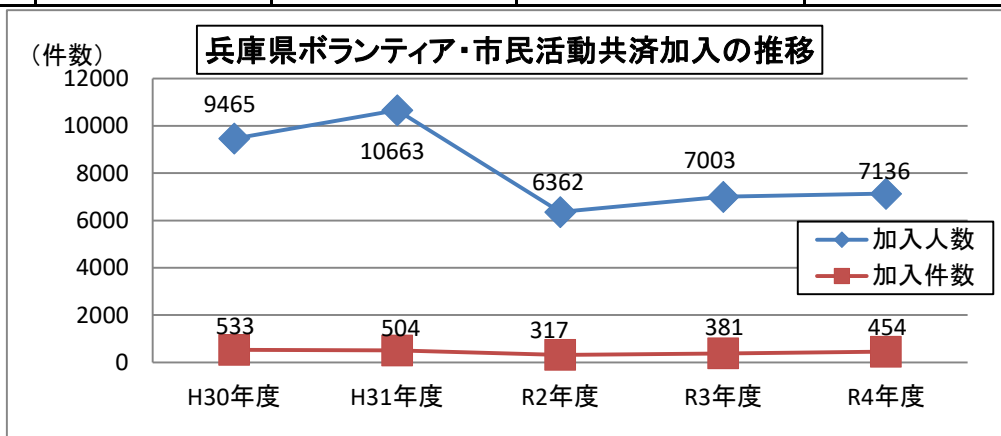


・ボランティア活動センター運営委員会の開催

開催日	場所	内容
10月19日(水)	キセラ川西プラザ	令和4年度活動状況の報告について 災害ボランティアセンターマニュアル改訂状況について
2月28日(火)	キセラ川西プラザ	令和4年度事業実施状況報告について 令和5年度事業計画(案)について 令和5年度ボランティア活動センター登録グループ活動助成金について

・ボランティア・市民活動災害共済(保険)の取り扱い

	市民活動		天災型		行事用保険		移送	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
加入件数	360件	4,799名	3件	32名	91件	2,305名	0件	0名
事故件数	9		0		0		0	



- 福祉器材の貸し出し状況

器材名	点字板	高齢者疑似体験セット	車イス	合計
回数	4	1	22	27

(2) ボランティアグループなどへの支援

取組項目 ②

【実績と成果】

- 川西市ボランティア連絡協議会(略称V連)の会議・活動などへの参画

開催日	場所	内容
4月15日(金)	キセラ川西プラザ	V連定期総会(事業計画・予算など)
4月15日(金)ほか11回	キセラ川西プラザ	V連代表者会議 (V連の役割や活動についてなど)
10月28日(金)	キセラ川西プラザ	V連防災研修

(3) 地区ボランティア部会への支援

取組項目 ③

【実績と成果】

- 地区福祉委員会ボランティア部会の定例会などへの参画を通して、立ち上げや運営支援を行った。また、コミュニティワーカーと連携し、ボランティア部会の会則策定の支援に取り組んだ。

2 普段も災害時も助け合えるつながりづくり

活動項目 1-3

(1) 関係団体との定期的な協議・検討

取組項目 ①

【実績と成果】

- 災害ボランティアセンターマニュアルの改訂に伴い、関係団体と協議を行い、災害時における関係団体との連携協働体制の整備・役割の明確化を図った。

(2) 災害支援におけるネットワークづくり

取組項目 ②

【実績と成果】

- 川西市との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」の締結に向け協定書(案)を作成し、協議を行った。

(3) 防災意識向上のための学びの場の開催

取組項目 ③

【実績と成果】

- かわにし防災士の会と連携し、災害に備える方法や災害発生時の避難方法などを学ぶ場を設け、防災意識向上に取り組んだ。

(4) 災害ボランティアセンターの設置と運営

取組項目 ④

【実績と成果】

- 災害時における市社協職員やボランティアによる支援体制整備を図るため、災害ボランティアセンターマニュアルの改訂に向けて関係団体参画のもと協議の場を4回開催し、改訂を行った。

(5) 市内外の被災世帯への支援

取組項目 ⑤

【実績と成果】

- 災害義援金実績

令和4年7月大雨災害義援金(宮城県)	34,222円
令和4年8月大雨災害義援金(中央共募)	1,100円
トルコ地震災害義援金	5,348円

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1				
(1)	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①				
【実績と成果】							
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な川西市との連絡会に参画し、人材確保・育成に係る検討を行った。また、人材確保の取り組みとして「待ッティングカード」づくり研修を福祉委員会やボランティアグループに対して実施した。 							
(2)	ボランティア講座の開催	取組項目	②				
【実績と成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア講座開催一覧 							
	講座名	開催期間	回数	受講人数	延べ人数	対象	共催団体・協働団体など
1	お出かけ介助ボランティア講座	6/1～6/15	3	6	18	一般	車イス介助を学ぶ会
2	子ども手話教室	7/23～9/10	7	14	54	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
3	笑いからはじまる コミュニケーション講座	8/20	1	8	8	一般	ほっとほほえみ
4	聞こえを学ぶ 筆談ボランティア講座	10/7～11/4	5	12	56	一般	川西サマリー
5	手づくり布遊具 ボランティア入門講座	10/13、10/20	2	4	7	一般	ボランティアいずみ
6	子ども手話教室（後期）	10/22～12/24	7	6	32	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
7	音訳ボランティア入門講座	11/11～1/20	10	17	145	一般	朗読ボランティアグループ R. T. かわにし
8	災害ボランティア研修会	11/16	1	10	10	一般	かわにし防災士の会
9	傾聴ボランティア入門講座	11/30、12/7	2	11	20	一般 福祉委員	傾聴ボランティア よりそい
10	ボランティア1日体験教室（車イス）	5/21	1	14	14	一般	車イス介助を学ぶ会
11	ボランティア1日体験教室（点字）	6/18	1	5	5	一般	点字グループりんどう
12	ボランティア1日体験教室（ネイル）	7/16	1	11	11	一般	個人ボランティア 藤川恵子
13	ボランティア1日体験教室（筆談）	9/17	1	4	4	一般	川西サマリー
14	ボランティア1日体験教室（手話）	10/15	1	3	3	一般	手話サークル パピヨン
15	出前ボランティア講座（車イス）	10/20	1	20	20	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
16	出前ボランティア講座（車イス）	10/26	1	14	14	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
17	出前ボランティア講座（車イス）	11/5	1	30	30	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
18	出前ボランティア講座（ハンドマッサージ）	12/13	1	23	23	ボランティア	アロマプリズム
19	出前ボランティア講座（車イス）	1/27	1	20	20	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
20	出前ボランティア講座（車イス）	3/4	1	24	24	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
21	出前ボランティア講座（ハンドマッサージ）	3/30	1	10	10	ボランティア	アロマプリズム
22	明峰の学び	6/14	1	10	10	ボランティア	点字グループりんどう
23	明峰の学び	6/28	1	10	10	ボランティア	点字グループりんどう
合 計			52	286	548		

(3) 幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目 ③
【実績と成果】	
<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会や自治会のサロンやイベントにおいて、スキルアップ講座やボランティア活動に興味を持ってもらえるような講座を提案し、コーディネートを行った。 	
(4) 理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目 ⑤
【実績と成果】	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の福祉委員を対象に、コミュニティワーカーと連携し、人材確保を目的とした研修会を開催した結果、人材確保の取り組みへのヒントを得るとともに、福祉委員活動の振り返りを行うことができた。 	

4 福祉情報の受発信	活動項目 2-2						
(1) 地区福祉委員会などと連動した福祉情報の発信	取組項目 ④						
【実績と成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア情報にじの発行(V連との共催) <table border="1"> <tr> <td>発行回数</td> <td>年4回</td> </tr> <tr> <td>編集回数</td> <td>年16回</td> </tr> <tr> <td>発行部数</td> <td>1号あたり 2,400部(A4版フルカラー2ページ)</td> </tr> </table>		発行回数	年4回	編集回数	年16回	発行部数	1号あたり 2,400部(A4版フルカラー2ページ)
発行回数	年4回						
編集回数	年16回						
発行部数	1号あたり 2,400部(A4版フルカラー2ページ)						
配布先	ボランティアグループ、個人ボランティア、他市社協、市役所、公民館など関係機関窓口、小・中・高校、共同募金協力法人(事業所・商店など)、アステ川西、各スーパー等						
<ul style="list-style-type: none"> 市社協ホームページや登録ボランティアグループ一覧表の発行による情報発信に随時取り組んだ。 							

5 福祉教育の推進並びに学習機会の提供	活動項目 2-3																																				
(1) 福祉教育の充実	取組項目 ①																																				
【実績と成果】																																					
<ul style="list-style-type: none"> 小学校・中学校の福祉学習への支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>内容</th> <th>学校数</th> <th>参加者</th> <th>種別</th> <th>内容</th> <th>学校数</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学校</td> <td>車イス</td> <td>6</td> <td>494</td> <td rowspan="3">中学校</td> <td>車イス</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>手話</td> <td>5</td> <td>303</td> <td>手話</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>点字</td> <td>3</td> <td>196</td> <td>点字</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>14</td> <td>993</td> <td colspan="2">合計</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		種別	内容	学校数	参加者	種別	内容	学校数	参加者	小学校	車イス	6	494	中学校	車イス	0	0	手話	5	303	手話	0	0	点字	3	196	点字	0	0	合計		14	993	合計		0	0
種別	内容	学校数	参加者	種別	内容	学校数	参加者																														
小学校	車イス	6	494	中学校	車イス	0	0																														
	手話	5	303		手話	0	0																														
	点字	3	196		点字	0	0																														
合計		14	993	合計		0	0																														
(2) 若い世代への機会の提供と継続的な支援	取組項目 ②																																				
【実績と成果】																																					
<ul style="list-style-type: none"> オープン・カフェッジにおいて、毎月第2金曜日に開催していましたが、開催場所等の課題があり、参加者が少ない状況である。 																																					
(3) 地区福祉委員会と連携した研修会などの開催	取組項目 ③																																				
【実績と成果】																																					
<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動が広がりを見せるように、全てのボランティア活動の基本となる傾聴ボランティア入門講座を開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">講座名</th> <th rowspan="2">開催期間</th> <th colspan="2">受講</th> <th rowspan="2">内容</th> </tr> <tr> <th>延べ人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>傾聴ボランティア入門講座</td> <td>11/30・12/7</td> <td>20名</td> <td></td> <td>傾聴、コミュニケーションの基本など</td> </tr> </tbody> </table>		講座名	開催期間	受講		内容	延べ人数		傾聴ボランティア入門講座	11/30・12/7	20名		傾聴、コミュニケーションの基本など																								
講座名	開催期間			受講			内容																														
		延べ人数																																			
傾聴ボランティア入門講座	11/30・12/7	20名		傾聴、コミュニケーションの基本など																																	

6	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④
【実績と成果】			
・登録ボランティアグループ活動助成			
助成先		助成金額	助成上限額
川西市ボランティア連絡協議会		270,000円	27,000円
V連加入ボランティアグループ(6グループ)		294,000円	49,000円
サポーター登録ボランティアグループ(28グループ)		696,000円	26,000円
一般登録ボランティアグループ(1グループ)		13,000円	13,000円
合計助成金額		1,273,000円	
※サポーター登録グループ(2グループ)は活動未実施のため、返金。			
・登録ボランティアグループ中級研修会(フォローアップ)助成			
助成先		助成金金額	
音訳、手話、点訳の3グループ(各50,000円)		150,000円	
・ひょうごボランティア基金県民ボランティア助成金(※1グループにつき30,000円)			
令和4年度		令和3年度	
助成グループ数	助成金総額	助成グループ数	助成金総額
59グループ	1,770,000円	41グループ	1,230,000円
・民間財団助成金の申請支援			
申請団体名	申請額(助成額)	内容	助成団体
音訳グループさわらび	350,000円	パソコン2台	(公財)車両競技公益資金記念財団
・市社協ホームページなどの媒体を活用するとともに、コミュニティワーカーと連携し、地区福祉委員会役員会、ボランティアグループの例会等において助成金情報の発信に取り組んだ。また、申請団体へは、申請書類に係る作成アドバイス、推薦など幅広く財源面の支援を行った。			

7	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④
【実績と成果】			
・市社協内で連携し個別支援に係る検討を行うとともに、課題解決に向けたコーディネートを地区ボランティア部会やボランティアグループ、民生委員・児童委員などを行った。			
・ボランティア活動相談の開催			
毎月第3土曜日 10時～12時 キセラ川西プラザ福祉棟にて開催			
延べ相談員数	活動相談者数	主な相談内容	
24名	6名	特技を生かした活動相談、ボランティア保険の加入など	

B3	地域福祉事業	決算科目	日常生活自立支援事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
<p>判断能力に不安がある、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者が、住みなれた地域で安心して暮らすために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行った。川西市やその他関係機関と連携を図り、利用者の意思決定に基づいた自立支援や課題解決に努めた。</p> <p>川西市の権利擁護支援スキルアップ研修において、成年後見支援センターと一体的な講座、事例紹介を行い、事業の周知啓発を図ったことで相談件数が増加した。また、兵庫県社会福祉協議会の研修会・会議等に積極的に参加するとともに、実践報告の発表を行うなど、権利擁護支援の質の向上に努めた。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収入)	2,973,800	3,380,200	406,400
受託金収入	2,750,000	3,124,000	374,000
その他	223,800	256,200	32,400
(支出)	2,962,938	3,398,460	435,522
人件費	2,340,919	2,398,994	58,075
事業費	607,133	698,095	90,962
事務費	14,886	301,371	286,485
その他	0	0	0

今後の課題
<p>① 権利擁護が必要な方に適切な支援がスムーズに繋がるように、成年後見制度との一体的な権利擁護支援体制の構築が必要である。</p> <p>② 利用者の社会参加のきっかけや地域との繋がり作りが必要である。</p>

当期資金収支差額	10,862	△ 18,260	△ 29,122
前期末資金収支残高	25,745	36,607	10,862
当期末支払資金残高	36,607	18,347	△ 18,260

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、契約件数にかかる委託費単価増に伴う増</p> <p>② 事務費は、金庫修繕と備品購入に伴う支出増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	②

【実績と成果】

- 県社協で開催された研修・会議に参加するとともに、実践報告を行うなど、権利擁護支援の質の向上に努めた。

開催日	県社協研修・会議等	参加
令和4年6月20日	専門員Web会議・意見交換会	2人
令和4年10月24日	生活支援員Web研修会 「日常生活自立支援事業の現状と生活支援員の役割について」 「事例報告:生活支援員による支援の実際について」 「事例演習:事例を通して生活支援員としての支援のあり方を振り返る」	7人
令和4年11月21日	専門員会議・研修会 「権利擁護の支援体制づくり～日常生活自立支援事業と第二期成年後見制度利用促進基本計画～」 「実践報告:日常生活自立支援事業を通じた権利擁護活動」 (報告者:川西市社協、宍粟市社協)	2人
令和5年3月20日	専門員Web会議・意見交換会	1人

- 生活支援員連絡会、研修会を開催し、生活支援員の支援技術向上に努めた。

開催日	川西市社協連絡会・研修会等	講師など	参加
令和4年8月22日	勉強会:意思決定支援 ～前向きな解約を意識した支援について～ 生活支援員より現況報告・意見交換 支援時の注意点再確認	社協職員	12人
令和4年9月22日	研修:意思決定支援・身上保護の基本理解 講師:兵庫県社会福祉士会 権利擁護センター ばあとなあ兵庫 社会福祉士 木高壽子さん	社協職員	4人
令和5年2月2日	研修:意思決定支援とは ～本人の意欲を引き出すために～ 講師:一般社団法人支援の思想研究会 上田晴男さん	社協職員	8人

(2) 権利擁護の推進

取組項目 ③

【実績と成果】

- 川西市やその他関係機関との連携、成年後見支援センターなど他部署担当職員と協働し、利用者が地域で安心して暮らせるよう支援し、権利擁護の推進に努めた。

相談援助件数(問い合わせ・相談援助件数)

内 容 事 項	本事業の利用に関するもの				その他	合 計
	対象者 認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	不 明・ その他		
a. 問合せ件数 (制度、事業について)	3	2	1	0	0	6
b. 初回相談件数 (初回相談受付)	14	6	2	0		22
c. 相談援助件数 (ab以外)	707	312	259	68		1,346
合計	724	320	262	68	0	1,374

- 日常生活自立支援事業年度末利用者数 27件
(内訳:認知症高齢者 12件 知的障がい者 10件 精神障がい者 4件 その他 1件)
新規契約 10件
解約 9件 (内訳:成年後見制度移行 3件 他市施設入所 3件 他市長期入院 1件 他市転居 2件)
生活支援員訪問回数 635回(前年度 671回) 総活動時間数1,145 時間(前年度 1,071時間)
- 社協内部にて契約前検討会を 10回開催し、契約の是非及び適切な支援内容について検討した。
- 川西市やその他関係機関と支援検討会議を 1回開催、利用者の成年後見制度移行について検討し、成年後見支援センターへつなげた。
- 地域包括支援センターや地域における関係機関とケース支援会議を12回開催し、連携を図りながら支援を行った。
- 川西市の権利擁護支援スキルアップ研修(オンライン研修)において、「川西市における権利擁護支援」の講座を行い、事業の周知啓発に努めた結果、相談件数が増加した。
対象者:地域包括支援センター、介護サービス事業所、介護施設、病院で従事する職員 107名参加
- 社協広報紙へ事業紹介文を掲載しPRを行った。

B4	地域福祉事業	決算科目	成年後見支援センター事業
----	--------	------	--------------

主な事業内容・成果
<p>権利擁護支援の必要な方が、尊厳のある本人らしい生活が継続できるよう、関係機関や法律職との連携により、成年後見制度や必要な支援につなげた。中核機関として、地域連携つながりネット協議会を立ち上げ、総合的な権利擁護支援体制の構築を図るための協議を行った。相談から受任調整まで、センター登録専門職や関係機関と連携し、本人に寄り添った権利擁護支援を行った。また、市民後見人の養成研修を開催、受任者の養成に勤めるとともに、社協が活動中の市民後見人の監督人として適正な監督業務やバックアップを行った。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	26,765,369	28,219,081	1,453,712
経常経費補助金収入	154,380	153,381	△ 999
受託金収入	26,526,989	27,951,700	1,424,711
拠点区分間繰入金収入	84,000	114,000	30,000
(支 出)	26,725,490	28,151,081	1,425,591
人件費	22,998,613	23,878,518	879,905
事業費	803,881	1,012,889	209,008
事務費	2,841,172	3,132,930	291,758
その他	81,824	126,744	44,920

今後の課題
<p>① 権利擁護支援の地域連携ネットワークの体制づくりの強化と、権利擁護支援に関する支援者への共通認識を広めていく必要がある。</p> <p>② 市民後見人養成研修の受講者の増と登録者の拡充及び活躍支援が必要である。</p>

当期資金収支差額	39,879	68,000	28,121
前期未資金収支残高	110,531	150,410	39,879
当期末支払資金残高	150,410	218,410	68,000

主な増減理由
<p>① 人件費は、給与改定に伴う増</p> <p>② 事業費は、研修等の増に伴う増</p> <p>③ 事務費は、消費税の増に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	市民後見人の養成と活動支援	取組項目	④

【実績と成果】

- ・ コロナ感染防止に配慮し、市民後見人養成研修を開催(7名受講)、人材バンク登録を進めた。
- ・ 現在までに6名の市民後見人が選任されたが、その内の3名が現在活動中で、社協が監督人として、適切なサポートと監督業務を行った。
- ・ 人材バンク登録者に対し、成年後見カフェの相談員としての活動をサポートするなど地域における権利擁護活動の育成と支援を行った。また、市民後見人向けフォローアップ研修及び交流会を開催した。

○市民後見人養成研修

実施日	開催	内容	参加者	場 所
6/21 6/24	事前説明会	・研修概要説明 ・市民後見人活動者報告	29人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室
7/14 ～ 8/25	基礎研修	関係法律、対象者の理解、後見人の役割と業務など	7人	
9/8～ 11/10	応用研修	対人援助技術、後見人の実務、市民後見人の実際など	7人	
11月 ～1月	実習	高齢者施設、障がい者施設、日常生活自立支援事業	6人	満寿荘、小戸作業所、日常生活自立支援事業利用者宅

○市民後見人フォローアップ研修・交流会

実施日	テーマ	講師	参加者	場 所
2/2	「意思決定支援とは」～本人の意欲を引き出すために～	一般社団法人 支援の思想研究会 上田 晴男 さん	15人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室

○市民後見人養成研修修了者人材バンク登録

登録実人数 42人 延べ人数 75人 (令和5年3月31日現在)

内 容	新規登録	登録者数
市民後見人候補者登録者数	0 人	5 人
相談員登録者数	3 人	24 人
日常生活自立支援事業生活支援員登録者数	1 人	8 人
事業の手伝い等の登録者数	6 人	38 人
合 計	10 人	75 人

2	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	地域福祉活動の推進を通じたニーズ把握	取組項目	①

【実績と成果】

- ・ 電話や来所、必要な場合は訪問し、制度の説明や申立て手続きなどの相談に対応し、関係機関と連携した支援を行い、制度利用につなげた。(申立て支援39件、後見人等選任24件)
- ・ 毎月第3水曜日に司法書士2名による専門相談会を開催した。センター職員も同席し、福祉的ニーズへのフォローを行った。(法定後見8件、任意後見5件)
- ・ 老人福祉センター2か所で成年後見カフェを開催し、市民後見人養成研修修了者がセンター職員と共に、地域の身近な相談窓口として相談に応じた。(法定後見3件、任意後見1件、その他2件)
- ・ 総合相談、包括化推進員との連携により、権利擁護支援の必要な方へアウトリーチを行うなど、連携した支援を行った。
- ・ 金融機関や病院に対しセンターや制度の周知を図り、窓口がつながることで、連携支援が進んだ。

○相談件数 (単位:件)

法定後見の相談・支援	775
任意後見の相談	43
研修・講座等について	107
その他	24
合 計	949

○相談経路 (単位:件)

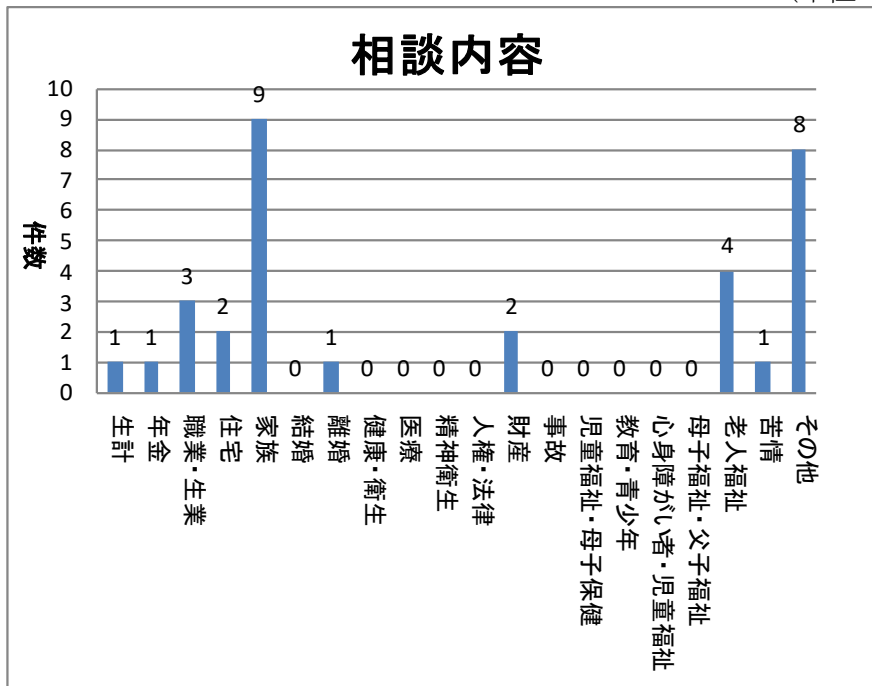
本 人	213
親 族	163
関係機関	537
その他・不明	36
合 計	949

※その他・・・専門相談申込みなど

<心配ごと相談所実施の状況>

- ・相談日 毎週月曜日、木曜日(年末年始、祝日は休み) 105回
午後1時30分～4時
- ・相談場所 月曜日、木曜日・・・キセラ川西プラザ福祉棟1階相談室
- ・相談員 15名(民生委員児童委員)
- ・相談件数 32件
来所・・・17件 電話・・・15件
月曜日・・・15件 木曜日・・・17件
- ・相談内容(1件の相談に複数の相談内容を含む)

(単位:件)



・連携、つなぎ先

- ・市役所(生活相談課、生活支援課、人権推進課、介護保険課、医療助成・年金課)
- ・地域包括支援センター
- ・その他の機関(ハローワーク等)

【実績と成果】

- ・専門的な相談や他機関を紹介する必要がある場合は、市役所の法律相談や地域包括支援センター等と連携し、対応した。
- ・新型コロナウイルスの感染予防に気を配り、相談所の継続した開設に努め、市民からの相談に応じた。

(2) ”我が事”と捉える意識と受援力の醸成

取組項目 ②

【実績と成果】

- ・地域連携ネットワークの体制整備を図る中、住民の一次的相談窓口である地域包括支援センターや障害者相談支援事業所へ中核機関の取組みやネットワークで支える権利擁護について継続した周知を行った。
- ・コロナ禍において、オンライン配信による権利擁護講演会や地域包括支援センターと協働で市内ケアマネジャーや福祉関係機関向けの研修会を実施し、権利擁護支援の周知を行った。
- ・社協が行う市民後見人の養成・活動支援を通じて、住民の権利擁護の意識醸成を図った。

(3) 多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり

取組項目 ③

【実績と成果】

- ・センターが日常生活自立支援事業と一体的に相談を受けることで、より本人に適した制度利用や、日常生活自立支援事業から円滑に成年後見制度につなぐなど、切れ目のない支援を行った。
 - ・受任調整(マッチング支援)を行うため、専門職バンク登録を進め、成年後見制度利用者がメリットを感じられるような申立支援を行うとともに受任後の権利擁護支援チームの形成支援を三士会と連携し行った。
 - ・受任調整会議や支援検討会議を開催し、成年後見制度の利用に関し、本人へのマッチングの検討や権利擁護支援についての協議を行った。
- (受任調整会議1回開催 参加者:弁護士・司法書士・社会福祉士、市担当課、ケアマネ、地域包括等
支援検討会議15回開催 参加者:ケアマネ、地域包括、相談支援事業所、ケースワーカー等)

○専門職登録と連携支援

職種	登録人数	申立代行	申立代行+候補者	候補者のみ	その他	合計
弁護士	7	4	1	1	0	6
司法書士	12	8	5	0	2	15
社会福祉士	12			9	0	9

*その他…債務整理、自己破産

○受任調整会議

実施日	ケース	内容	参加者	場 所
12/13	マッチング支援検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待 ・生活困窮 ・多頭動物飼育 等 	14人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 歯っぴいルーム

○支援検討会議

対象者	支援検討内容	候補者の検討	件数
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者 ・知的障がい者 ・精神障がい者 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活自立支援事業の利用について ・成年後見制度の利用について ・借金、金銭管理等について 等 	成年後見制度の利用が必要な場合は候補者の検討	15件

3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会の実現をめざし、包括化推進員や関係機関と連携し、アウトリーチを行い、すぐに制度利用につながらないケースも継続して関わるなど、本人が安心して暮らせるよう権利擁護支援に取り組んだ。 ・複合化、多様化したニーズに対応するため、権利擁護支援担当者が包括化推進員と連携支援を行い、法的な支援が必要な場面では、専門職を交えた多機関協働による伴走型支援を行った。 			
(2)	権利擁護の推進	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活自立支援事業と連携し、一体的に相談に対応し、支援検討会議などにより本人にふさわしい権利擁護支援が行えるよう取り組んだ。 ・住民からの相談が身近なところからつながるよう、医療機関や金融機関等の窓口へパンフレットを配布し、周知・啓発を行った。 ・相談から申立て及び後見人等の選任まで、本人がメリットを実感できるよう寄り添った伴走型支援を行った。 ・市民後見人に対して、監督人である社協がバックアップ支援を行うことで安心して活動が行えるよう援助を行った。 			

4	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくり	取組項目	①
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・中核機関として、三士会や医療・福祉関係機関、家庭裁判所とさらに連携を深め、川西市における包括的な権利擁護支援体制の構築を図るため、地域連携つながりネット協議会を設置し、年2回の協議を行う中で新たな連携を進めた。 ・センターの事業運営に関する運営委員会を年2回開催し、運営委員から市民後見人の養成・活動支援等事業実施について意見や助言を受け、事業活動の充実につなげた。 			

○運営委員会

	開催日時	内容	参加者	場 所
第1回	令和4年10月13日(木) 14:00～15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施状況 ・地域連携ネットワーク協議会 について 	15人	キセラ川西プラザ 文化棟2階 大会議室
第2回	令和5年3月24日(金) 13:30～15:15	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施状況 ・地域連携ネットワーク協議会 について ・令和4年度事業計画(案) 	13人	キセラ川西プラザ 文化棟2階 大会議室

○地域連携つながりネット協議会

	開催日時	内容	参加者	場 所
第1回	令和4年6月8日(火) 14:00～16:00	川西市の現状について 1. 成年後見制度の利用状況 2. 川西市成年後見支援センター ”かけはし”の取組み	19人	キセラ川西プラザ 文化棟2階 大会議室
第2回	令和5年1月19日(水) 13:30～15:30	1. 地域における権利擁護の支援 体制づくり、今後の進め方とプ ロセスについて 2. 権利擁護支援に関するアンケ ート調査回答について	19人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 歯っぴいルーム

B5	地域福祉事業	決算科目	民生委員児童委員協議会連合会事業
----	--------	------	------------------

主な事業内容・成果
<p>事務局として、民生委員児童委員協議会定例会への出席を通して、地域課題の共有や民生委員・児童委員の活動の確認・調整を行った。</p> <p>令和4年度は市地域福祉課が行っていた改選事務のうち面談などの一部を分担し実施するとともに、新任委員に向けて研修会等を企画、実施した。</p> <p>また、阪神間4市1町で構成される、阪神北ブロック会長等連絡会の当番市として、ブロック役員を選出などの実務と事務局業務を担った。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収入)	9,633,725	9,950,644	316,919
受託金収入	9,633,725	9,950,644	316,919
(支出)	9,633,725	9,950,644	316,919
人件費	8,391,343	8,624,516	233,173
事業費	7,002	12,665	5,663
事務費	1,211,864	1,273,119	61,255
その他	23,516	40,344	16,828

今後の課題
<p>① 民生委員・児童委員が抱える課題に対し、本会の包括的な支援体制や関係機関等と連携を図り解決していく必要がある。</p> <p>② 地区により一定数の欠員が生じているため、欠員解消に向けた取り組みが必要である。</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、給与等の増に伴う増</p> <p>② 事務費は一斉改選事務経費増に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮しながら民生委員・児童委員と緊密に連携を図る事により、コロナ禍で活動が一部制限される状況のなか、委員の適切な活動が継続できた。 実施した委員アンケート結果を踏まえ、具体的な委員活動を紹介するパンフレットを活用するなど、委員活動の周知活動を通じて、欠員解消に向けた取組を始めた。 退任委員へは、各民児協と協力し円滑に引継がえるよう支援を行った。また新任委員へは、市、県などの関係機関と連携し研修会を実施するなど、円滑な活動ができる基盤を整えた。 			
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員が業務を円滑に行えるよう、正副会長会議、役員会、各定例会への出席及び研修会の企画実施などを行い、地域課題の情報のフィードバックを実施。また、個別支援体制を強化するために地域包括支援センター等の関係機関と情報交換の場を設定し、委員活動の実務につなげた。 <p>正副会長会議・・・10回 役員会・・・10回 主任児童委員部会・・・7回 各地区定例会・・・50回(5民児協) 専門部会研修・・・4回 新年合同会議・・・1回</p>			

B6	地域福祉事業	決算科目	共同募金配分金事業
----	--------	------	-----------

主な事業内容・成果
<p>前年度に実施された赤い羽根共同募金運動の配分金を活用し、子育て支援グループへの助成やボランティア活動の振興等、地域福祉事業が推進されるよう取り組み、募金を通じた地域でのつながり、支え合いづくりに努めた。</p> <p>歳末たすけあい配分金事業は、持ち寄り金や前年度繰越金を原資に、要援護世帯や、福祉施設や団体、小地域ネットワーク事業等に幅広く配分し、支援を行った。</p>

今後の課題
<p>① 幅広い世代に向けて共同募金の意義や役割を周知・啓発が必要である。</p> <p>② 福祉のまちづくりが推進されるように、配分先の見直しや地域のニーズに合った配分先の検討が必要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	16,737,121	16,858,621	121,500
経常経費補助金収入	16,737,121	16,282,249	△ 454,872
その他	0	576,372	△ 576,372
(支 出)	16,737,121	16,858,621	121,500
事業費	11,557,963	8,921,506	△ 2,636,457
事務費	37,228	33,902	△ 3,326
助成金支出	5,141,930	7,326,841	2,184,911
その他	0	576,372	576,372

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 募金額の減少に伴う収入減</p> <p>② 配分先の見直しに伴う事業費支出の減と新たな配分に伴う助成金支出の増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1-1
(1)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会へ助成を行い、住民交流等、福祉のまちづくりが推進されるよう支援した。昨年度に引き続き、コロナ禍で地域の事業が縮小される中、つながりサポート事業や子ども食堂、カフェの立ち上げ支援への公募助成を行うなど、地域ごとの特性に合わせた福祉事業に役立てられるよう支援した。 			
(2)	子育て支援の推進	取組項目	⑤
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 市内の31のまちの子育てひろば・サークルが実施する事業へ助成を行った。コロナ禍の状況の下、感染防止対策を行うなどそれぞれ工夫しながら開催したクリスマス会やお別れ会等の活動に役立てられた。 			

2	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 毎月第3土曜日にボランティア活動の相談日を設け、学生や勤労者が、自分らしいボランティア活動に参加できるようコーディネート機能を発揮した。 			
(2)	ボランティアグループなどへの支援	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動のすそ野が広がるよう助成金を配分した33グループでは、研修会費用など各グループの特性に合わせた取り組みに役立てられた。またボランティア連絡協議会では、初心者向けのZOOM講座や災害時の研修会等を開催し、活動者のスキルアップに役立てられた。 			
(3)	当事者活動への支援	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 共同募金配分金事業では、児童・青少年、母子・父子福祉事業において、団体の相互交流だけでなく、子どもたちや地域住民とのつながりを深める貴重な財源として役立てられた。歳末たすけあい配分金事業では、市内の要援護世帯に給付金の配分と併せておせち料理を渡した。また障がい者施設や民間福祉団体に配分し、様々な福祉事業に役立てられた。また繰越金を活用し、未支援の生活困窮世帯へ食材を提供し相談窓口につなげる事業を行った。 			

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	ボランティア講座の開催	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 筆談、手話、音訳などの講座を開催するとともに、地域福祉活動の担い手となるようフォローアップ研修を開催し、人材発掘と育成に取り組んだ。 			

4	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 本会の活動をより多くの方に知ってもらえるよう「社協かわにし」の発行に共同募金配分金と歳末たすけあい配分金を活用した。また、新たな福祉人材の確保と育成のため、「ボランティア情報にし」の発行に共同募金配分金を活用した。 			

5	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 「社協かわにし」に、配分先の組織や団体の「ありがとうメッセージ」を掲載し、どのように配分金が使われているか地域住民にわかるよう紙面を工夫し、広報の充実を図った。また、「ボランティア情報にし」においてもボランティア活動等広報し、啓発活動に取り組んだ。 			

B7	地域福祉事業	決算科目	基金事業
----	--------	------	------

主な事業内容・成果
<p>基金の利息をもって、地域福祉事業やボランティア活動センター事業の推進、交通遺児への入学祝い等の給付事業に取り組んだ。</p> <p>また、地区福祉委員会と連携した施設整備等に取り組み、地域福祉活動拠点としての機能強化を図った。</p>

今後の課題
<p>① 有価証券が全て満期を迎えるため、有価証券の運用について専門機関と情報交換を行い、事業運営に支障が出ないような運用を行う必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収入)	94,218,078	10,685,454	△ 83,532,624
受取利息配当金収入	666,628	661,136	△ 5,492
積立資産取崩収入	93,551,450	10,024,318	△ 83,527,132
有価証券売却収入	0	0	0
その他	0	0	0
(支出)	21,472,118	103,564,022	82,091,904
事業費	767,459	391,668	△ 375,791
有価証券取得支出	0	0	0
積立資産支出	20,026,768	102,419,318	82,392,550
区分間繰入金支出	677,891	753,036	75,145
その他	0	0	0

当期資金収支差額	72,745,960	△ 92,878,568	△ 165,624,528
前期末資金収支残高	25,796,095	98,542,055	72,745,960
当期末支払資金残高	98,542,055	5,663,487	△ 92,878,568

主な増減理由
<p>① 積立資産取崩収入は、満期を迎える有価証券の減少に伴う減</p> <p>② 積立資産支出は、満期有価証券の積み立てに伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 債券市場の動向を専門機関と情報交換し、低金利等状況が良くなかったため令和4年度の公債購入をやめ、令和5年度で購入することとした。 			

その他

事業項目	①田中福祉基金事業の推進		
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 故人の寄付金により基金を設置し、その利息をボランティア活動推進の財源に充当した。 			
事業経理区分	充当額	事業内容	
ボランティア活動センター事業	141,618円	ボランティア講座の開催等	

事業項目	②谷口交通遺児基金事業の推進
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川西市の交通政策課と連携し交通遺児に対し入学祝金の給付と修学給付金を支給した。 (入学祝金 3世帯小・高・大各1名 290,000円 修学給付金 2世帯5名 100,000円) 大学等進学時への支援も漏れなくできるよう、情報提供に取り組んだ。 	
取組項目	③一井基金事業の推進
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和サロンでは、夏休みの期間に実施していたそうめん流しのイベントの代わりとして、学習室として場所を開放し、小学生と住民が交流する機会を設けた。また、見守りのボランティアとして、地域住民に声掛けし、親や大学生等の参加にもつながった。その他、長期間の使用で故障したエアコンを購入し、活動しやすい環境を整備した。 ・ 一井サロンは、福祉委員会が実施するサロンたんぼほの他、体操やヨガなどの活動や訪問型助けあい活動「たのみ隊」の受付事務兼相談窓口として活用された。 	

B8	地域福祉事業	決算科目	資金貸付事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>兵庫県社会福祉協議会からの受託事業として、低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等で、生活が一時的に困窮している世帯に対し、それぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金の貸付や支援を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス特例貸付が継続する中、失業や減収による家計の収支均衡が取れない世帯に対し相談支援を行った。</p>

今後の課題
<p>① 新型コロナウイルス特例貸付において、今後10年以上にわたって償還業務と相談支援業務を行うにあたり、関係機関と連携強化を図り、地域社会にある複雑、多様化した生活課題を抱える世帯に対し、その解決に向けた支援を継続していく必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	9,335,338	9,296,325	△ 39,013
経常経費補助金収入	2,812,637	3,072,128	259,491
助成金収入	2,340,000	2,310,000	△ 30,000
受託金収入	4,182,701	3,914,197	△ 268,504
その他	0	0	0
(支 出)	9,341,871	9,316,856	△ 25,015
人件費	8,157,270	7,630,488	△ 526,782
事業費	484,802	814,078	329,276
事務費	681,511	645,406	△ 36,105
その他	18,288	226,884	208,596
予備費			0

当期資金収支差額	△ 6,533	△ 20,531	△ 13,998
前期末資金収支残高	99,542	93,009	△ 6,533
当期末支払資金残高	93,009	72,478	△ 20,531

主な増減理由
<p>① 人件費は、令和3年度に実施された自立支援金支給事業の終了に伴う減</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

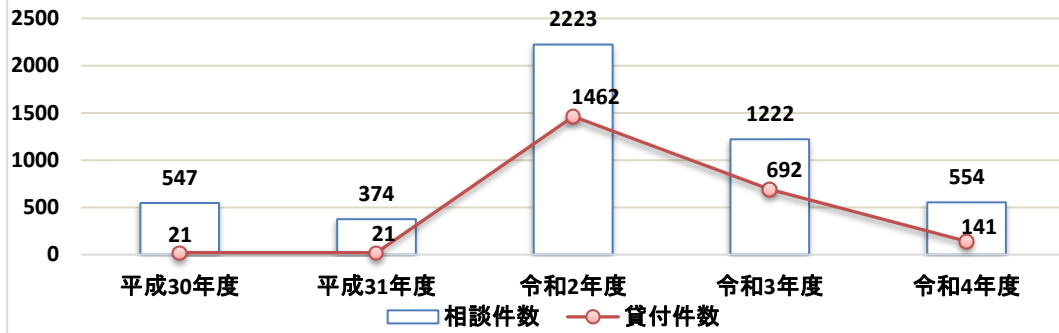
1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

【実績と成果】

- 借入相談者の支援ニーズを聞き取り、貸付にいたらなかった場合においても、自立相談支援機関、行政等の関係機関への情報提供を適切に行い連携を図った。
- 新型コロナウイルスの影響による生活困窮で、生活福祉資金の貸付を利用している1230世帯に対し、償還手続き促進と生活応援セット(89セット)の配布を行うことをきっかけに、生活困窮者等の相談に応じ、適切な支援に繋ぐよう取り組んだ。
- 教育支援資金に関しては、高校と大学進学との重複した借入や他機関からも借入している場合が多く、卒業後は一斉に償還が始まることから、在学中の現況確認だけでは卒業後の状況を把握することが困難なため、卒業時面談を行うことで、その後の進路や就労状況を把握し、償還にかかる手続き等を円滑に進めることができた。

研修会・連絡会への参加			
令和4年度	新型コロナウイルス特例貸付償還事務説明会1回目	4月14日	4名
令和4年度	新型コロナウイルス特例貸付償還事務説明会2回目	5月24日	4名
令和4年度	新型コロナウイルス特例貸付償還事務説明会3回目	11月28日	2名
令和4年度	生活福祉資金貸付事業担当者会議	2月21日	2名

相談件数・貸付決定件数推移



事業項目 生活福祉資金貸付事業

相談・資金の種類	生活福祉資金等相談内訳				貸付額(単位:円)	
	相談件数(件)	相談延べ件数(件)	申請件数(件)	決定件数(件)	R3年度	R4年度
					教育支援資金	106
教育支援費	53	241	3	3	12,347,600	6,420,000
就学支度費	53	241	3	3	641,080	1,500,000
福祉資金	258	559	84	68	61,820,000	12,989,000
福祉費	66	118	1	1	60,000	69,000
緊急小口資金	192	441	83	67	61,760,000	12,920,000
総合支援資金	119	566	84	67	187,340,000	34,430,000
生活支援費	119	566	84	67	187,340,000	34,430,000
住宅入居費	0	0	0	0	0	0
一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
不動産担保型生活福祉資金	4	5	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0	0
その他の相談 (生活費・債務費等)	67	76	0	0	0	0
合計	554	1,688	174	141	267,918,400	55,339,000

B9	地域福祉事業	決算科目	善意銀行事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>寄付者の意向をもとに必要な世帯や団体等の福祉事業に対して寄付を活用した支援を行った。子育て支援事業では、市と連携し大学専門学校受験料補助を新設(申請実績1件)し、進学に必要な費用の負担の軽減をすることができた。</p> <p>また、学校との連携を密にすることで、修学支援は申請数が昨年度に比べて増加した。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	23,033,983	4,026,724	△ 19,007,259
寄附金収入	23,033,850	4,026,591	△ 19,007,259
その他	133	133	0
(支 出)	23,257,529	3,990,883	△ 19,266,646
給付金支出	825,023	2,145,662	1,320,639
助成金支出	879,348	1,040,425	161,077
区分間繰入金支出	21,553,025	804,663	△ 20,748,362
積立資産支出	133	133	0

今後の課題
<p>① 寄付者は昨年度より増加しているが、事業費支出も増加しているため、寄付者の増を目指した事業の情報発信が必要である。</p> <p>② 社会情勢に合わせた支援の内容及び金額の見直しが必要である。</p>

当期資金収支差額	△ 223,546	35,841	259,387
前期末資金収支残高	1,902,257	1,678,711	△ 223,546
当期末支払資金残高	1,678,711	1,714,552	35,841

主な増減理由
<p>① 指定預託の大口寄付による収支の減</p> <p>② 給付金支出は、就学支援等の増に伴う増</p> <p>③ 助成金支出は、指定払出の増に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	当事者活動への支援	取組項目	④
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より多く子ども食堂と学習支援教室への支援を行うことができた(子ども食堂:7件 84万円 学習支援:3件 18万円)。また、物品の寄付を子ども食堂や学習支援団体に払出し、団体の負担を緩和することができた。 			

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの掲載項目欄へリンク先を探さずに直接ジャンプできるよう設定することで、情報を得やすく、利便性が向上させた。また、令和4年度より開始した受験料補助の内容と申請書類を掲載し、市にも申請書類を渡して、申請したい方がすぐに申請ができるようにした。 LINEから広報紙を読めるようにし、広報紙に寄付内容や活用方法を掲載することで、使い道に共感された方からの寄付が増加した。 			

B10	地域福祉事業	決算科目	包括的支援体制構築事業
-----	--------	------	-------------

主な事業内容・成果
<p>川西市や地域包括支援センター、基幹相談支援センターなど多様な機関と連携し複合化・複雑化した生活課題を抱える方の相談に、制度や分野にとらわれることなく対応した。</p> <p>各相談支援機関が抱える困難事例においても、課題を整理し、役割を分担するなど多機関協働による支援のコーディネートを行った。</p>

今後の課題
<p>① 8050問題や社会的孤立、複合課題ケースが増加しており、自ら相談できない方等と繋がる事ができる場作りを検討する必要がある。</p> <p>② 社協内及び行政、関係機関や地域との連携が不十分であり、各相談支援機関の業務内容の理解や連携方法などを協議する必要がある。</p> <p>③ 「個別課題」と「地域支援」が連携するケースの実践や事例検討会を定期的に開催し、当事者の地域生活を支える仕組み作りに取り組む必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	7,445,636	17,766,158	10,320,522
受託金収入	7,445,636	17,766,158	10,320,522
(支 出)	7,445,636	17,766,158	10,320,522
人件費	7,170,325	16,791,954	9,621,629
事業費	37,423	24,183	△ 13,240
事務費	219,600	341,557	121,957
その他	18,288	608,464	590,176

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、職員配置増に伴う増</p> <p>② 人件費の増は、職員配置増に伴う増</p> <p>③ 事務費の増は、職員配置増に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに事業報告を記載。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手と連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者、子育てなどの複合課題に対し、様々な関係機関と適切な役割分担や連携を図り、当該世帯の自立生活を支えるため伴走型支援を行った。 			
(2)	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 個別の相談に対応する過程で、社協内で事例を共有し、当該世帯の相談支援に対応した。また、必要に応じて民生委員・児童委員や地区福祉委員等と地域課題の共有を行い、関係機関や地域の連携による支援体制について検討した。 			

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①

【実績と成果】

- 多種多様な制度の狭間にあるケースについて関係機関との連携、コーディネート、伴走型支援を行い、課題に応じた支援が提供されるよう必要な調整を行った。

新規相談件数(令和4年度111件)

世帯分類(実件数)		相談経路(実件数)			
単身	34	本人	13	民生委員児童委員	1
高齢者のみ	12	家族	8	住民・企業	5
高齢者と独身の子	35	市役所	15	病院	1
母子・父子	8	地域包括支援センター	42	診療所・医院	0
3世代同居	8	健康福祉事務所	1	介護支援専門員	7
2人家族	6	警察	0	相談支援専門員	6
その他	8	社協	5	その他	7

年間相談対応延べ件数(令和4年度 複数対応あり)

内容	病気・けが	障がい	介護	金銭管理	ひきこもり	消費者被害	虐待	家族不仲
件数	178	787	174	698	8	0	31	357
内容	養育困難	不登校	家庭内暴力	依存症	地域孤立	住居問題	近隣トラブル	他
件数	35	9	17	50	11	287	142	36

(2)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④
-----	---------------	------	---

【実績と成果】

- ゴミ問題や多重債務、多頭飼育崩壊など、地域で複合的な課題を抱える世帯に対して、地域住民や関係機関と連携し、アウトリーチを行い、必要な支援のコーディネートを行うことで、課題解決に向けて取り組んだ。また、ひきこもりなど、社会的孤立の課題に対しては、本人の意思尊重を図りながら、伴走型支援を行った。

年間相談内容実件数 (上記(1)と重複)

内容	ゴミ問題	多重債務	多頭飼育崩壊	親の年金頼み
件数	27	23	4	25

3	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
---	-----------------------	------	-----

(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①
-----	-----------------	------	---

【実績と成果】

- 個別支援を通じて、相談支援機関などと協働で支援を行えるようコーディネートを行った。重層的支援体制構築に向けた検討会議を地域福祉課と共催し、複合化・複雑化している事例検討を行うことで、重層型支援体制構築事業の周知及び顔の見えるつながりづくりを行った。

(2)	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤
-----	--------------------	------	---

【実績と成果】

- 複雑化したケースにおいて、市の関係所管課や様々な関係機関が必要な支援を検討する「川西市地域連携支援チーム会議」に参画した(4回)。

C	介護保険事業・障害者総合支援事業・地域生活支援事業	決算科目	すこやかサービスセンター
---	---------------------------	------	--------------

主な事業内容・成果
<p>市内の支援が必要な方々に介護保険及び障害者総合支援法に基づき、訪問や外出支援等によるサービスを提供した。</p> <p>平成24年度の黒字を最後に赤字続きであったが、サービス提供責任者及びヘルパーの努力により、少額ながらも黒字になり繰越金の増が図れた。その反面、利用者増及びコロナ陽性職員の代替等に伴うヘルパーの確保ができず、サービス提供責任者による直接支援が増えた。</p>

今後の課題
<p>① 利用者が在宅において自分らしいよりよい生活や暮らしができるよう、従来の制度では賄いきれない案件に関し、制度外サービス等を見直す必要がある。</p> <p>② 人員体制及び経費等の見直しによる効率的な経営</p> <p>③ 経営安定化に向けた登録ヘルパーの確保</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	32,209,834	37,092,960	4,883,126
介護保険事業収入	13,110,151	15,157,868	2,047,717
障害福祉サービス等事業収入	19,094,683	21,715,092	2,620,409
その他	5,000	220,000	215,000
(支 出)	32,543,838	36,491,584	3,947,746
人件費	29,806,733	33,802,833	3,996,100
事業費	643,304	542,606	△ 100,698
事務費	1,843,524	1,894,441	50,917
その他	250,277	251,704	1,427

当期資金収支差額	△ 334,004	601,376	935,380
前期末資金収支残高	10,655,578	10,321,574	△ 334,004
当期末支払資金残高	10,321,574	10,922,950	601,376

主な増減理由
<p>① 介護保険事業収入及び障害福祉サービス等事業収入は利用増に伴う収入増</p> <p>② 人件費は、利用増によるヘルパー派遣増等に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	2-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 毎月、定例会を開催し、その内3回は外部講師を招いての研修を実施した。定例会の開催により、登録ヘルパーを含む職員間の情報共有及び資質向上に努めている。なお、定例会参加において、会場出席又はWEB、欠席者には資料の配布と希望者には定例会のDVDを貸し出し、多くの職員が学べる機会を設けた。 			

その他

事業項目	①安定したセンター経営の取組
【実績と成果】	
<ul style="list-style-type: none"> 不定期に管理者及び3人のサービス提供責任者による前年度との実績比較や現状の課題及び解決に向けて模索する場を設け、経営の効率化並びにサービスの方向性について確認、共有した。 新型コロナウイルス感染症に罹患した利用者宅への居宅介護サービスを継続し、新たに買い物支援を行うなど利用者ニーズに即した柔軟な対応に努めた。 	

事業別報告

(1) 介護保険事業

訪問介護・介護予防訪問介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	43	44	44	45	40	40	39	38	40	40	43	41	497
活動時間数	289:30	291:25	320:10	296:10	291:45	216:55	266:40	271:20	244:40	249:30	243:25	196:20	3177:50
活動回数	356	332	346	380	336	242	296	340	275	279	285	318	3,785

(2) 障害者総合支援事業

居宅介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	13	12	12	13	13	13	14	13	13	13	14	15	158
活動時間数	176:05	178:05	202:10	191:55	173:25	183:50	194:30	197:50	187:25	203:45	199:10	205:30	2293:40
活動回数	170	177	185	184	166	175	188	189	180	196	185	194	2,189

同行援護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	9	10	10	9	8	8	9	10	10	10	10	8	111
活動時間数	195:10	148:55	188:55	136:15	129:55	125:00	217:40	201:25	211:45	189:10	205:50	180:20	2130:20
活動回数	49	44	53	43	40	41	51	51	57	54	57	52	592

(3) 地域生活支援事業

移動支援(全身性ガイドヘルプ) 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	4	2	2	4	2	3	2	3	4	3	3	3	35
活動時間数	80:30	85:45	98:30	84:30	90:15	90:45	71:15	95:30	73:30	88:15	97:05	78:30	1034:20
活動回数	15	13	17	15	15	17	10	18	13	16	16	15	180

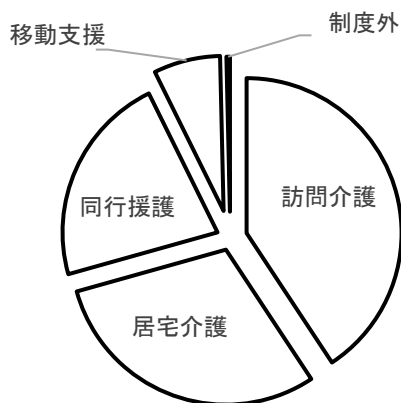
(4) 制度外サービス

制度外訪問介護、制度外介護予防訪問介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	1	2	4	3	2	1	3	3	4	3	3	2	31
活動時間数	3:00	3:00	4:20	5:40	2:45	3:00	7:05	6:10	6:35	4:20	6:15	2:20	54:30
活動回数	3	4	5	6	3	3	5	7	7	5	7	3	58

(5) 収支状況

収入の内訳



令和4年度実績

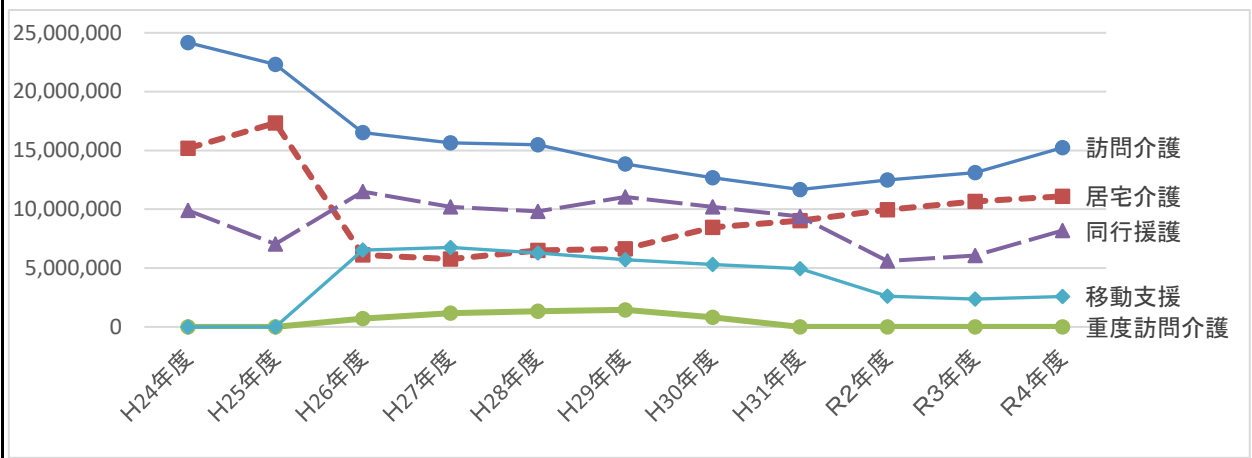
	事業活動収入額	%
訪問介護	15,102,368円	40.7%
居宅介護	11,104,114円	30.0%
同行援護	8,175,128円	22.0%
移動支援	2,575,850円	6.9%
制度外	135,500円	0.4%
計	37,092,960円	100.00%

(6) 年度別活動実績の推移

収支推移及び繰越金

	収入					収入計 ①	支出計 ②	差引額 ①-②	当期末支払 資金残高累 計
	介護保険	障害者総合支援事業			地域生活				
	訪問介護	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	移動支援				
H24年度	24,165,945	15,191,886	0	9,902,616	0	49,260,447	46,615,670	2,644,777	33,384,486
H25年度	22,312,564	17,333,368	0	7,039,808	0	46,685,740	49,221,933	△ 2,536,193	30,848,293
H26年度	16,503,885	6,124,748	700,330	11,499,474	6,527,860	41,356,297	55,482,076	△ 14,125,779	16,722,514
H27年度	15,632,550	5,765,258	1,173,075	10,200,322	6,755,998	39,527,203	42,716,160	△ 3,188,957	13,533,557
H28年度	15,481,691	6,509,516	1,317,567	9,824,655	6,288,103	39,421,532	39,573,675	△ 152,143	13,381,414
H29年度	13,851,269	6,625,836	1,451,879	11,049,426	5,708,802	38,687,212	39,917,136	△ 1,229,924	12,151,490
H30年度	12,674,180	8,449,324	803,465	10,209,866	5,291,043	37,427,878	39,273,045	△ 1,845,167	10,306,323
H31年度	11,675,427	9,036,803	0	9,397,073	4,950,162	35,059,465	35,561,383	△ 501,918	9,804,405
R2年度	12,500,388	9,948,730	0	5,602,006	2,618,707	30,669,831	30,994,442	△ 324,611	9,479,794
R3年度	13,110,151	10,666,049	0	6,071,809	2,361,825	32,209,834	32,393,838	△ 184,004	9,295,790
R4年度	15,237,868	11,104,114	0	8,175,128	2,575,850	37,092,960	36,491,584	601,376	9,897,166

内容



(7) 専門性及び技術の向上をめざした研修等の充実

定例会

日程	内 容	参加人数
4月15日	新年度を迎えて ヘルパーの心得10か条	12人
5月18日	感染症対策:防護服着脱のビデオ鑑賞と実践	18人
6月22日	健康カプセル元気の時間	16人
7月12日	障がい者との関わり方について (外部講師:bonワークス豊中 管理者 譲田氏)	21人
8月16日	同行援護・ガイドの心構え 記録の書き方について	14人
9月8日	感染症について:新型コロナウイルスの予防と対策 (外部講師:ペリタス病院 感染管理認定看護師 西根氏)	18人
10月25日	認知症の理解と接し方	20人
11月8日	障がい者虐待防止に関する研修 (内部講師:障がい者基幹相談支援センター 相談支援専門員)	22人
12月13日	障害と支援の基本 (外部講師:bonワークス豊中 管理者 譲田氏)	21人
1月11日	事故再発防止 福祉用具編 福祉用具の介護事故	22人
2月21日	より良いサービスは倫理・法令遵守から 医療行為、身体拘束等	21人
3月14日	年度末、1年を振り返って	16人

内容

(8)川西市介護保険サービス協会

42の法人等122事業所で組織されている川西市介護保険サービス協会において、本会の事務局として運営を支援し、資質の向上及び事業所間の連携等を目的に、次のような研修会等を開催した。

内容

開催日	内 容	場 所	参加者
6月15日	研修会 内容: コロナ禍における接遇・コミュニケーション 講師: 株式会社mother dining 代表取締役 鷺見氏	アステ ホール	43 人
11月17日	研修会 内容: 義務化するBCP(事業継続計画)作成に向けての備え 講師: 弁護士法人かなめ 代表弁護士 畑山氏	アステ ホール	81 人
2月3日	かわにし介護就職フェア 内容: 就職面接会(完全予約制) 主催: 川西市 ハローワーク伊丹 協力: 川西市介護保険サービス協会 猪名川町介護保険サービス事業所連絡会	アステ ホール	面接参加者 31 人 採用者 7 人

D	障がい者相談支援事業	決算科目	障がい者基幹相談支援センター
----------	-------------------	------	-----------------------

主な事業内容・成果
<p>令和4年度の取り組みとして、①総合相談・専門相談の実施、②地域障がい者相談支援体制強化の取り組み、③地域移行・定着支援サービスの実施、④権利擁護・虐待防止、⑤障がい者就労支援体制づくりを行った。</p> <p>成果として、新規相談支援事業所の誘致(1事業所)、委託相談支援事業所の地区担当制の導入、障がい者自立支援協議会の運営、各種研修・勉強会の実施など取り組んだ。</p>

今後の課題
<p>① 市内相談支援体制を整備し、相談員・市民・関係機関がわかりやすく、相談しやすい体制づくりが必要である。</p> <p>② 多様化している相談内容に寄り添うために職員の資質の向上や社会資源、関係機関とより広く深く繋がっていく必要である。</p> <p>③ 相談支援事業所の誘致活動、福祉サービス事業所の質の向上に向けた取り組み、障がい者就労支援への取り組む必要がある。</p> <p>④ 障がい者虐待の抑止力となるよう周知・啓発に取り組む必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	42,391,739	38,667,025	△ 3,724,714
受託金収入	36,559,661	36,826,652	266,991
障害福祉サービス等事業収入	3,189,078	1,832,373	△ 1,356,705
基幹相談支援経理区分繰入金収入	2,643,000	0	△ 2,643,000
その他		8,000	8,000
(支 出)	42,391,739	38,667,025	△ 3,724,714
人件費	34,883,865	35,710,808	826,943
事業費	687,222	725,356	38,134
事務費	2,444,740	1,979,609	△ 465,131
その他	341,824	251,252	△ 90,572
経理区分間繰入金支出	4,034,088	0	△ 4,034,088

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	15,614	15,614	0
当期末支払資金残高	15,614	15,614	0

主な増減理由
<p>① 障害福祉サービス等事業収入は、計画相談等が想定より少なかったことに伴う減</p> <p>② 人件費は、給与改定等に伴う増</p> <p>③ 事務費は、夜間電話代行が不要になったことに伴う減</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談支援窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多機関との連携を意識して活動を行った。地域福祉チームや包括化推進委員と連携したケース会議を行い、共有・協働で支援を提供した。また、地域のイベントや施設の催しに参加・協力することで地域との関わりを持ち、課題の抽出・対応などをした。(勉強会の依頼や福祉作業所の出店依頼など) ・ 市内相談支援体制の整備において令和4年度から委託相談支援の地区担当制を試験導入。試験運用する中で、①役割の明確化、②相談支援専門員・事業所の不足などの問題が出てきている。担当地区が明確化されたことで、地域づくり・地域とのつながりを意識した視点を持つことができつつある。複合課題については、他機関と連携したケースワークを行う意識を持てるようになってきている。また現状では、相談支援専門員が不足しており、計画中心の支援となっている。事業所の誘致と相談支援専門員の補充が必要となっている。それとともに委託相談員と計画相談員との役割の違いを明確化する必要がある。 			

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	権利擁護の推進	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 市内福祉サービス事業所に虐待防止リーフレットを配布し虐待防止の啓発活動を実施。また、グループホームにおける虐待事案が増加しているため、市内グループホーム事業所に向けた虐待研修を開催した。啓発活動の成果として、福祉サービス事業所からの虐待相談が増えた。また虐待ケースを支援する中で成年後見制度利用をかけたはしと連携し対応した。 			

3	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	地域の福祉拠点としての取り組み	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を意識しながら活動を行った。地域の会議やイベントに参加する中で障がい者相談支援についての周知不足を実感した。地域との接点をもってもらうため、地区担当の委託相談事業所にも参加いただいた。 地域移行サービスについては、2件対応した。いずれも地域で対応する土台づくりが必要である。住む場所・活動する場所・支援する人いずれも市内では難しく他市の資源を活用することとなった。地域定着支援についてはニーズが無く未実施。病院から退院に当たっての相談がほとんどであった。 			

(1) 相談・支援利用者の状況および取り組み				
(単位:人)				
内容	項	目	利用者	合計
	①	福祉サービスの利用援助	830	830
	②	障がいや症状理解に関する支援	226	226
	③	健康・医療に関する支援	320	320
	④	不安解消・情緒安定に関する支援	484	484
	⑤	保育・教育に関する支援	3	3
	⑥	家族・人間関係に関する支援	406	406
	⑦	家計・経済に関する支援	153	153
	⑧	生活技術に関する支援	309	309
	⑨	就労に関する支援	980	980
	⑩	社会参加・余暇活動に関する支援	12	12
	⑪	権利擁護に関する支援	1,597	1,597
	⑫	その他	5,689	5,689
	合	計	11,009	11,009
<p>相談支援事業所の育成、委託相談地区担当制の試験導入開始、新規相談支援事業所が開設されたこと、各種部会・連絡会の運営を行っていることから、⑫その他の数値が高くなっている。また、虐待対応ケースや8050問題等で⑪権利擁護に関する支援も数値が高くなっている。コロナによる規制が緩和されてきたため、日中活動を希望される方、外出支援を希望される方、就労等を希望される方などの相談も増えてきている。半面、調子を崩される方もおられ通院や医療の相談もあった。</p> <p>*相談者内訳 重度心身・・・1名、身体・・・714名、精神・・・3138名、知的・・・3313名、発達・・・733名、不明・・・94名</p>				

(2) 相談方法

(単位:人)

内容	相 談 方 法	身体障がい	合計
	訪問	1,277	1,277
	来所	416	416
	同行	41	41
	電話	2,597	2,597
	電子メール	247	247
	個別支援会議	221	221
	関係機関	3,318	3,318
	その他	77	77
	合 計	8,194	8,194

(3) 相談支援事業

内容

- 総合相談・専門相談の内容
 - ・困難ケースの対応(触法ケース・複合ケース・安否確認・計画相談に乗らない相談・支援者会議への参加など)
 - 令和4年度→ 458件
 - 例・・・刑務所出所の方の支援・8050ケース・支援者がいない方の安否・生活問題(金銭・衛生・不安)・担当者会議やカンファレンスへの出席。勉強会の講師など行った。
- 相談支援体制強化の取り組み
 - ・新規相談支援事業所の誘致(令和4年度1事業所誘致)
 - ・相談支援部会の開催(令和4年9回実施)・・・更新月を変更・委託相談の地区担当導入など討議
 - ・相談支援事業所へのスーパーバイズ(指導・後方支援)→359回
 - 例・・・触法ケースの対応についての助言・虐待ケースについての同行・転居ケース対応・社会資源情報の提供・関係機関へのつなぎ・緊急対応など。
 - ・障がい者自立支援協議会の運営(3回開催)→日中支援型グループホームの評価など行った。

(4) 障がい者就労支援事業

内容

- 新卒生(特別支援学校等)の定着支援対応のルール化
 - 新卒生に対応する委託相談支援の地区担当導入。各学校との調整を行った。
- 共同受注窓口
 - 企業等から作業依頼を受け、作業所への情報提供、マッチングを行った。
- 就労相談支援連絡会の実施(基本、毎月開催)
 - 就労支援体制強化、情報共有などが目的。勉強会も実施予定。
- B型作業所連絡会の発足
 - サービスの向上、工賃向上、ネットワークづくりなどが目的。
- 定着支援の実施
 - 企業やハローワークなどと連携を取り利用者が就労継続できるように支援。生活面の相談を中心に行う。家庭の問題や休日の過ごし方、病気や通院など相談は多岐にわたる。
 - *現在、個別支援を委託相談に引継ぎ中。基幹として助言や指導等のスーパーバイズを行う。
- 令和4年度相談対応件数は延べ980人(利用者・事業所・相談員含む)、1,205件。

(5) 障がい者虐待防止センター事業

① 相談件数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
虐待の通報・相談件数(再来を含む)	2	4	1	3	2	1	0	2	2	1	2	2	22
その内市役所への通報・相談件数	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	2	2	10
制度や虐待についての質問・相談件数	1	4	0	0	0	0	5	0	2	3	0	1	16
本人・家族等との面談・訪問・電話等件数	35	42	35	1	5	44	36	50	49	28	24	2	351
市・専門機関との調整・会議等件数	27	41	28	44	48	58	38	45	44	28	19	42	462
虐待と認定された件数(市への通報分も含む)	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	5
その他	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3

② 通報・相談者数

(単位:人)

養護者	本人	知人	関係者	その他	計
15	0	0	6	0	21

③ 虐待者

(単位:人)

養護者	施設	企業	その他	計
8	5	0	0	13

④ 虐待の種類(重複あり)

(単位:人)

身体的虐待	心理的虐待	性的虐待	ネグレクト	経済的虐待	その他	計
11	4	0	1	0	0	16

内容

内容

○ 令和4年度、虐待認定をされたものが11件であった。家庭内での問題から身体的虐待へとつながるケースが増加している。相談も関係者からの案件が増えている。家族以外の人(福祉サービスや訪問看護など)が第三者的に見守っている家庭が増えているためと思われる。また、警察からの報告でも家族喧嘩から発生した事案が多い。警察案件は、支援者とつながっていないケースがほとんどである。警察通報から支援者・医療などにつながるパターンができつつある。また、グループホーム利用者への身体的虐待通報・相談が何件もあり、啓発も兼ねてグループホーム事業所職員向けの研修を行った。研修後、各事業所で虐待の取り組みが行われている様子が伺える。成年後見制度につながるケースもあり、障害を持つ方への権利擁護支援の必要性を再確認した。虐待勉強会の講師を2件行った。(福祉施設職員対象) 啓発活動は福祉作業所等に虐待防止のリーフレットの配布を行った。配布先から虐待相談もあった。

E1	障がい者施設	決算科目	小戸作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>障害者総合支援法に基づき、生活介護・就労継続支援B型事業を実施した。個別面談や年度末アンケート、給食の嗜好調査などを行い、利用者主体の個別支援計画書の作成及び支援に努めた。新型コロナウイルス感染のために生活介護サービスは休所することがあったが、在宅支援を実施して利用者数の確保に努めた。</p> <p>生活介護と就労継続支援B型で連携を取り合いながら作業に取り組んだことや、就労継続支援B型で新規企業2社と取引開始したことにより工賃を増額出来た。生活介護では新規利用者を3人契約に繋げた。</p>

今後の課題
<p>①就労継続支援B型の利用者への、川西作業所と統合する際の対応</p> <p>②相談窓口としての取り組み、および施設機能の活用</p> <p>③重度障害者の支援ができる体制作りと、個別対応の充実</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	127,475,560	129,736,530	2,260,970
受託金収入	29,883,599	32,634,483	2,750,884
就労支援事業収入	9,367,307	9,959,270	591,963
障害福祉サービス等事業収入	85,271,993	85,656,444	384,451
その他	2,952,661	1,486,333	△ 1,466,328
(支 出)	127,475,560	129,736,530	2,260,970
人件費	103,050,193	103,182,721	132,528
事業費	11,005,031	11,953,830	948,799
事務費	3,336,921	3,983,678	646,757
就業支援事業支出	9,367,307	9,959,270	591,963
その他	716,108	657,031	△ 59,077
固定資産取得支出	0	0	0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,898,190	4,898,190	0
当期末支払資金残高	4,898,190	4,898,190	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、その他収入の減や事業費の増に伴う増</p> <p>② その他収入は、キャリアアップがなかったため減</p> <p>③ 事業費は、水道光熱費の高騰に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①
生活介護事業(定員40人)			
【実績と成果】			
<p>・面談や担当者会議を行い、ご本人の希望や状況に基づき作成した計画書に沿って支援を行った。週1回のバイタルチェック、各月ごとの内科検診、神経科相談、年1回の健康診断を実施し、病気の予防や早期発見に努めた。嗜好調査やリクエストを伺い、栄養バランスを考えた給食を提供し、高評価を得られた。</p> <p>所外行事は感染対策を講じたうえで、3年ぶりにバスで万博公園に行き楽しむことができた。生産活動については、作業が落ち込む時期もあったが、作業時間とレクリエーション時間をバランス良く配分することができ、活動の充実が図れた。画用紙や折り紙、スタンプを使って季節の事柄や各月のカレンダー作成など創作活動を定期的に行うとともに、体力維持や気分転換のために独自の体操を取り入れた。利用者忘年会は部屋ごとにゲームやDVD鑑賞を実施。感染症のため中止となった部屋も別日に楽しんでいただいた。</p>			
生活介護 (単位:円)			
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額
4月	180,300	9,700	1,200
5月	156,100	7,400	200
6月	280,900	21,000	400
7月	239,900	17,300	300
8月	198,400	15,400	1,100
9月	256,200	19,900	300
	1人当たり平均	令和3年度	
	5,302	6,845	
	4,460	5,591	
	8,512	6,658	
	7,055	9,494	
	6,200	6,808	
	7,535	7,940	

10月	253,100	18,800	300	7,231	10,905
11月	288,200	22,000	300	8,234	6,742
12月	183,000	11,100	300	5,228	12,005
1月	265,100	20,400	300	7,574	8,158
2月	295,300	22,200	400	8,437	6,252
3月	390,831	30,442	517	11,166	8,822
年度	2,987,331	17,970	468	7,245	8,018

(2) 地域の福祉拠点としての取組み 事業項目 ②

【実績と成果】

- 見やすく親しみやすい形のパンフレットを見学者に配布した。トライやる・ウィーク・介護等体験実習、所内・所外行事(遠足等)においてのボランティアの受け入れは、感染対策をとりながら実施した。少しでも地域住民の方と関わりを持つため、散歩に行った際にはあいさつやコミュニケーションを心がけた。

(3) 福祉施設機能の積極的活用 事業項目 ③

【実績と成果】

- 相談事業所との連携により新規利用者3人の契約につなげた。また、特別支援学校と連絡を密にし感染対策に努めながら積極的に見学者や実習生を受け入れた。

(1) 施設利用者への地域における生活支援体制の構築 事業項目 ①

就労継続支援B型事業(定員20人)

【実績と成果】

- 川西作業所との連携で、2社の新規企業と取引を始めることができ、利用者の特性に合わせた作業提供につなげることができた。生活介護サービスとも連携をとり、少しでも付加価値の高い作業を提供することで工賃を増やすことができた。
面談や日頃の会話等で意向を聞き取り、個々の利用目的を明確にすることで、利用者の状況や思いに沿った計画書を作成し、日々の支援につなげた。週1回のバイタルチェック、各月ごとに内科検診、神経科相談、年1回の健康診断を行い、健康管理に努めた。また高齢化が進む中で、体力や特性に合わせた作業提供や腰痛予防の体操を行うなど、個別支援を充実させた。5日以上続けて事業所を休まれた方に対して、自宅を訪問し、相談、助言を行い、長期欠席の防止に努めた。
嗜好調査やリクエストを伺い、栄養バランスを考えた給食を提供した。所外行事は感染対策を講じたうえで、3年ぶりにバスで万博公園に行くことができた。

就労継続支援B型

(単位:円)

	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	令和3年度
4月	447,200	44,700	1,800	22,360	20,652
5月	305,300	34,700	800	15,265	17,955
6月	393,100	46,000	2,000	20,689	22,300
7月	459,300	48,800	1,300	24,173	23,873
8月	443,700	48,800	1,200	23,352	18,022
9月	523,800	54,700	1,400	27,568	25,084
10月	497,000	53,900	3,100	26,157	21,373
11月	525,500	56,700	2,800	27,657	21,742
12月	515,200	58,100	2,100	27,115	20,378
1月	439,800	48,800	1,200	23,147	23,875
2月	649,000	72,500	1,700	34,157	25,926
3月	705,485	79,825	2,957	37,130	23,394
年度	5,904,385	53,960	1,863	25,731	22,048

(2) 地域の福祉拠点としての取組み 事業項目 ②

【実績と成果】

- 見やすく親しみやすい形のパンフレットを見学者に配布した。特別支援学校やトライやる・ウィーク・介護等体験実習、所内・所外行事(遠足等)においてのボランティアの受け入れを、感染対策をとりながら実施した。また、市民後見人の見学は感染対策をとり、少人数に分けて受け入れた。

(3)	福祉施設機能の積極的活用	事業項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所と連絡を密に取り合い、ステップアップにつながるように就労継続支援A型事業所や企業への就職情報を聞き取り利用者へ情報提供を行った。閑散期等に取引先企業へ作業の依頼を積極的に行うことにより、安定した作業量の確保ができた。 			

(1)在籍状況

①月別在籍状況 (定員：生活介護 40人、就労継続支援B型 20人)

(単位：人)

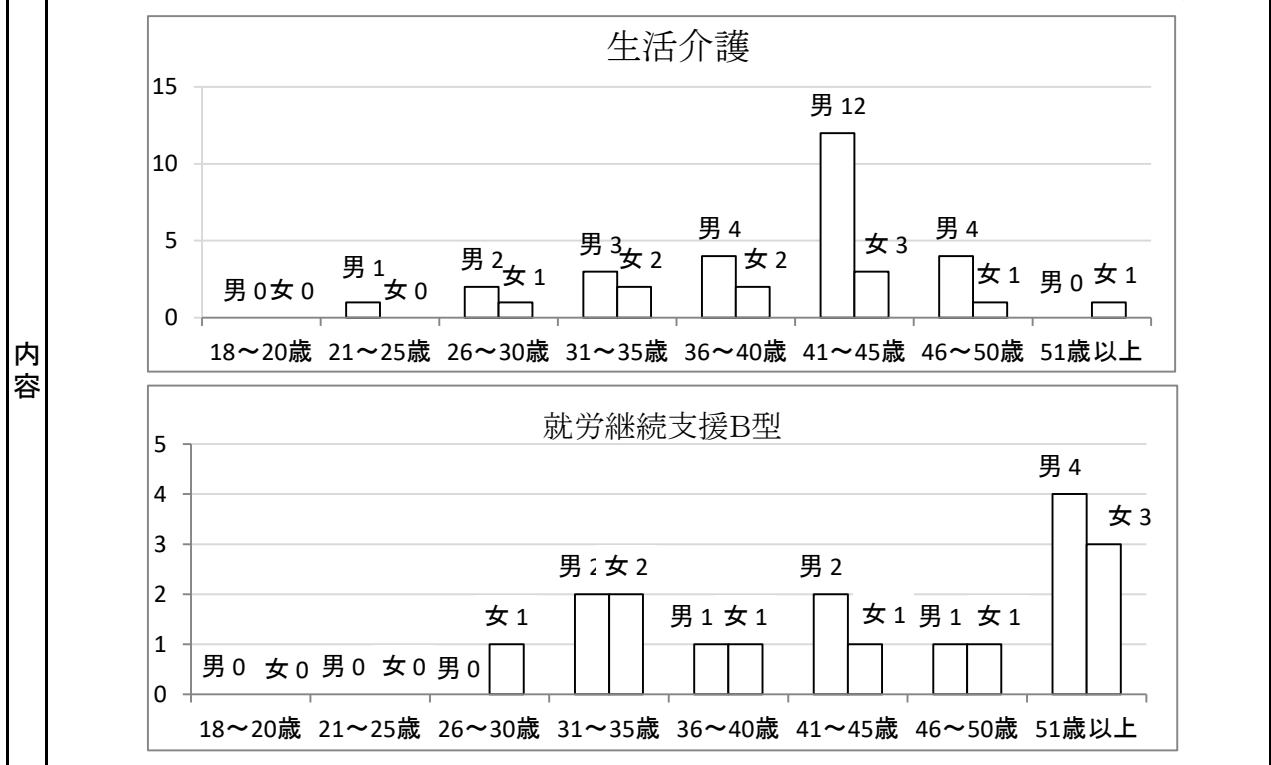
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	男	27	27	27	26	26	27	27	26	26	26	26	26
	女	9	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10
	小計	36	36	36	35	35	36	36	35	36	36	36	36
就労継続	男	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10
	女	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	小計	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19
合計		56	56	56	55	55	56	55	54	55	55	55	55

②年齢別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

		18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上	計
生活介護	男	0	1	2	3	4	12	4	0	26
	女	0	0	1	2	2	3	1	1	10
	小計	0	1	3	5	6	15	5	1	36
就労継続	男	0	0	0	2	1	2	1	4	10
	女	0	0	1	2	1	1	1	3	9
	小計	0	0	1	4	2	3	2	7	19
合計		0	1	4	9	8	18	7	8	55

(単位：人)



③生活介護利用者の障がい程度別在籍状況(3月31日現在)

内容

(単位：人)

障がい程度区分	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	7	11	4	4	26
女	0	0	1	4	4	1	10
合計	0	0	8	15	8	5	36

(2)出席状況

内容

利用者の出席率・・・86.2% 年間延出席人数・・・11,458人

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和3年度
生活介護	在籍者数	36	36	36	35	35	36	36	35	36	36	36	36		
	所定作業日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241	238
	延出席者数	643	620	648	597	577	611	612	628	584	571	593	705	7,389	7,605
	出席率%	89.3	90.6	81.8	85.2	82.4	84.8	85.0	89.7	81.1	83.4	86.6	89.0	85.7	87.9
就労継続	在籍者数	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19		
	所定作業日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241	238
	延出席者数	360	327	355	337	325	336	347	338	341	311	320	372	4,069	4,007
	出席率%	90.0	86.0	80.6	84.2	81.2	84.0	91.3	88.9	89.7	86.1	88.6	88.9	86.6	86.6

(在籍者数に対する出席率を記載)

(3)関係先企業

内容

下記の各企業より受注を受け、利用者に働くことの喜びを味わっていただくため、仕事の確保に努めた。

小杉善(株)	(箕面市)	タオル等のギフトセットや包装
金本徳(株)	(箕面市)	〃
ナイガイ(株)	(箕面市)	タオル一本袋入れ、箱の組立
那須梱包(株)	(西宮市)	自動車部品袋入れ
林(株)	(川西市)	タオル加工
(株)エサカサービス	(箕面市)	ファンシーグッズの袋入れ、値付け
伊丹加工所	(伊丹市)	住宅関連部品の組立
エムアイケミカル(株)	(伊丹市)	薬杯検品
(株)田中製作所	(川西市)	照明器具部品

E2	障がい者施設	決算科目	川西作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>障害者総合支援法に基づき、障害福祉サービス事業(就労継続支援B型)を実施した。個別面談や利用者アンケートに基づき個別支援計画を作成し、利用者個々のニーズに沿った支援を提供した。</p> <p>相談支援事業所との連携で新たに3人の利用者と契約した。所外行事・新年会・花見散策を行った。作業の見直し等で工賃を増収することができた。利用者の希望に沿った献立の給食を提供した。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	57,005,279	57,865,680	860,401
受託金収入	14,339,422	11,468,628	△ 2,870,794
就労支援事業収入	10,569,765	12,946,895	2,377,130
障害福祉サービス等事業収入	30,286,297	32,514,322	2,228,025
その他	1,809,795	935,835	△ 873,960
(支 出)	57,005,279	57,865,680	860,401
人件費	37,937,342	35,496,242	△ 2,441,100
事業費	6,120,493	6,678,985	558,492
事務費	2,275,317	2,437,718	162,401
就業支援事業支出	10,569,765	12,946,895	2,377,130
その他	102,362	305,840	203,478

今後の課題
<p>① 現行作業の見直しと新規作業の導入</p> <p>② 対象者を身体・知的・精神の3障がい者に広げ、小戸作業所の就労継続支援B型と統合することへの対応</p> <p>③ 相談支援窓口としての取り組みおよび施設機能の活用</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	727,933	727,933	0
当期末支払資金残高	727,933	727,933	0

主な増減理由
<p>① 障害福祉サービス等事業収入は、基本単位や処遇改善手当、出席率が上がったことによる増</p> <p>② 人件費は、総合職員1人が再雇用1人となり減</p> <p>③ その他収入は、キャリアアップがなかったため減</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4		
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①		
就労継続支援B型事業(定員35人)					
【実績と成果】					
(単位:円)					
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	令和3年度
4月	853,400	88,300	5,400	40,638	28,264
5月	788,400	90,500	6,400	37,543	21,932
6月	1,127,200	122,500	2,100	51,236	32,883
7月	1,064,500	110,900	1,400	48,386	38,304
8月	1,022,800	115,700	3,000	48,705	35,800
9月	971,900	102,400	14,800	46,281	34,617
10月	758,500	75,200	11,900	36,119	33,075
11月	925,700	91,200	15,500	44,081	37,000
12月	982,700	100,900	14,900	46,795	37,495
1月	990,900	106,300	16,900	47,186	36,223
2月	1,018,700	101,900	16,600	48,510	42,171
3月	1,209,942	132,070	17,351	57,578	40,430
年度	11,714,642	103,156	10,521	46,088	34,850
<p>個人面談やアンケート結果に基づいた個別支援計画の作成と、個々のニーズや目標に沿った支援を提供した。</p> <p>新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、所外行事・新年会・花(桜)見散策を実施した。</p> <p>嗜好調査やリクエストメニューの希望に沿った、栄養バランスの取れた献立の給食を提供した。</p>					

一人ひとりの作業能力や障がい特性に応じた作業や補助具(治具)を提供し生産性の向上を図ったことにより、前年度の工賃を上回ることができた。
市内の就労継続支援型事業所連絡会を発足し事業所間の連携を図ると共に職員のスキルアップにもつなげた。

(2) 福祉施設機能の積極的活用

事業項目

③

【実績と成果】

相談支援事業所と連携し、3人の新規利用者と契約をした。(身体障がい者1人、精神障がい者2人)所轄(県、市)に確認のうえ、新体制移行を見据えて精神障がいの利用者を受け入れた。いずれも一般就労経験者だが、高齢や障がい特性により再就職や就労継続支援A型事業所の利用が困難だったため、個々の思いや状態に合わせた作業提供を行い、毎日の利用につなげた。4人の契約解除者があったが結果として延べ利用人数(出席率)は若干増加となった。

(3) 地域の福祉拠点としての取り組み

事業項目

②

【実績と成果】

新型コロナ感染流行の影響もあったが、感染防止対策を徹底し、トライやる・ウィークを3校受け入れることができた。大学や特別支援学校からの体験実習や地域等からの見学希望はなかった。感染防止のため、所内外の行事へのボランティアの依頼は行わなかった。フードドライブの地域の中継拠点としての役割を担った。

(1) 在籍状況

① 月別在籍者状況 (定員：35人)

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	17	17	17	17	17	18	17	17	17	16	16	16
女	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7
計	25	25	25	25	25	26	25	24	24	23	23	23

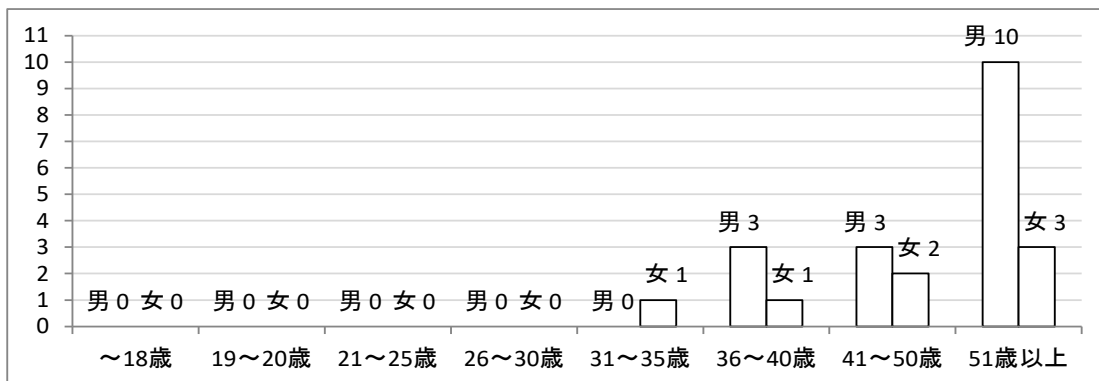
内容

② 年齢別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

	～18歳	19～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～50歳	51歳以上	計
男	0	0	0	0	0	3	3	10	16
女	0	0	0	0	1	1	2	3	7
小計	0	0	0	0	1	4	5	13	23

内容



③障がい別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

手帳等級		1級	2級	3級	4級	5級	6級	小計	計
視覚障がい	男	0	0	0	0	1	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	
聴覚障がい	男	0	2	1	1	0	0	4	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	
肢体不自由	男	2	4	1	1	0	0	8	15
	女	1	3	1	1	0	1	7	
内部障がい	男	0	0	0	1	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	
計	男	2	6	2	3	1	0	14	21
	女	1	3	1	1	0	1	7	

※精神障害者保健福祉手帳 2級1人、3級1人

(2)出席状況

利用者の出席率・・・74.3% 年間延出席人数・・・4,369人

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和3年度
在籍者数	25	25	25	25	25	26	25	24	24	23	23	23	241	240
所定作業日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241	240
延出席者数	364	332	395	369	349	369	372	383	361	336	351	388	4,369	4,334
出席率 %	72.8	69.8	71.8	73.8	69.8	70.9	74.4	79.7	75.2	76.8	80.3	76.6	74.3	71.5

(3)関係先企業

利用者の中には、就労経験のある方もおり、自立生活のため高い工賃を期待されている。付加価値の高い作業の導入を心がけているが、作業をする上で利用者の重度化傾向がうかがえ、難易度の低い作業の導入にも努める必要がある。

来年度の、小戸作業所就労支援継続B型サービスとの合併に向けて、納品引取りが負担となっているタオル作業の整理も考え、取引先の見直しも始めた。

積水マテリアルソリューションズ(株)	(大阪市)	建築用養生シート梱包
エムアイケミカル(株)	(伊丹市)	投薬瓶箱詰
林(株)	(川西市)	タオル加工
梶村工業所	(伊丹市)	自動車・機械部品加工
川西市役所	(川西市)	封入・封緘作業
(株)アヌシ	(伊丹市)	生活雑貨加工
那須梱包(株)	(西宮市)	自動車部品袋入れ
(株)田中製作所	(川西市)	照明器具部品加工

E3	障がい者施設	決算科目	ひまわり荘
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>障害者総合支援法に基づき、指定障害福祉サービス事業所として生活介護を実施し、利用者及び家族からの相談に応じ、適切な助言または支援を行った。個別のカリキュラムに沿って心身機能の維持向上を図った。また、看護師による日々の健康状態の確認や嘱託医による内科健診を実施し、利用者の体調管理や健康維持に努めるとともに、理学療法士による専門的な機能訓練を月2回実施し、その指導のもと、関節の可動域保持運動やリハビリ訓練を行った。</p> <p>川西養護学校の実習を計画的に実施することで令和5年度より、卒業生4名と新規利用契約を締結することとなった。コロナウィルス感染拡大防止のため地元ボランティアの受け入れを少人数グループに限定し実施した。地域交流、社会参加については、作品展示会などには参加したが、行事の多くは中止となった。</p>

今後の課題
<p>① 安定した生活介護サービスの提供が必要である。</p> <p>② 特別支援学校、相談支援事業所との連携を強化するとともに体験実習や施設見学を受け入れ、新規利用者を確保すること、トライやる・ウィークや地域ボランティアの受け入れを継続し地域との連携・施設への理解を深める必要がある。</p> <p>③ 災害時対応に向けた福祉避難所運営訓練の実施・運営マニュアルの適宜見直しが必要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	66,963,631	61,577,182	△ 5,386,449
受託金収入	37,146,647	33,845,542	△ 3,301,105
障害福祉サービス等事業収入	29,802,984	27,492,640	△ 2,310,344
その他	14,000	239,000	225,000
(支 出)	66,963,631	61,577,182	△ 5,386,449
人件費	55,137,904	50,152,252	△ 4,985,652
事業費	8,409,059	8,000,955	△ 408,104
事務費	3,384,652	3,308,243	△ 76,409
その他	32,016	115,732	83,716

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	7,594,126	7,594,126	0
当期末支払資金残高	7,594,126	7,594,126	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業収入は、新型コロナウイルスの影響により利用率減少に伴う収入減
② 人件費は人事異動に伴う支出減
③ 事業費は利用率減少に伴う車輛費支出及び給食費支出減

令和4年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>生活介護事業(定員20人)</p> <p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウィルス感染拡大防止のため、個別の家族面談や担当者会議の実施を見送るケースが生じた。定期的にご利用者の希望や要望を伺い、個別支援計画書を作成し、それに沿った日常生活上の支援を実施した。また、心身の機能向上のため、利用日毎、理学療法士の助言に基づいた機能訓練を実施した。 ・ 障がい者基幹相談支援センターや相談支援事業所との連携を図り、地域資源等の情報提供や連絡調整を行い、利用者やご家族が安心して地域生活を送ることができるよう相談支援を実施した。 ・ 令和2年度より、川西養護学校在校生の体験実習を計画的・定期的実施したことで、令和5年度より卒業生4名と利用契約を締結する事となった。 ・ 感染予防対策を徹底し、トライやる・ウィークの受け入れの再開、少人数グループボランティアの受け入れを再開し、地域との連携・施設への理解を深められるよう努めた。 			

緊急一時保護事業

【実績と成果】

- 令和4年度の利用はなし。

(2)	福祉避難所としての役割	取組項目	④
-----	-------------	------	---

【実績と成果】

- 今年度に川西市より福祉避難所としての開設要請はなかった。要請があったときは、市と協議し作成した福祉避難所開設・運営マニュアルに沿って、円滑な運営に取り組む。

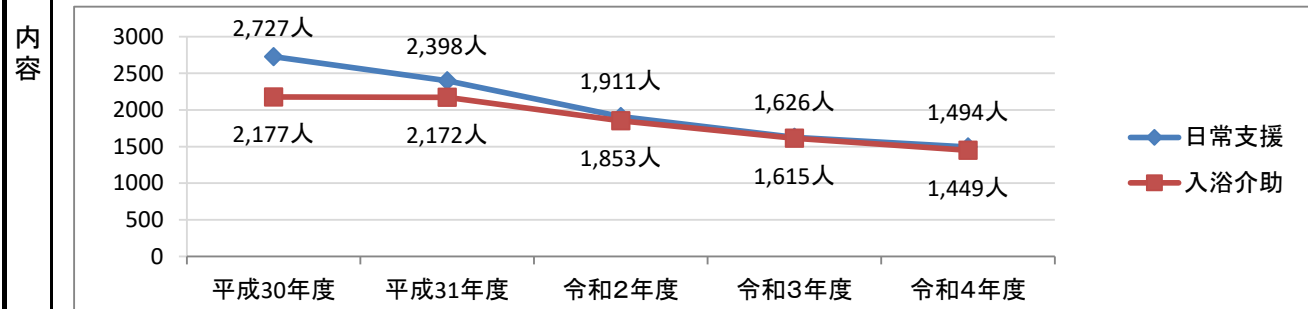
(1) 障害福祉サービス事業 生活介護事業

①契約人数(3月31日現在) (定員：20人)

内容		男	女	計
	人数	8人	7人	15人

②事業実施日数及びサービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	21日	20日	23日	21日	22日	21日	21日	21日	21日	20日	20日	23日	254日
日常支援	124人	121人	127人	126人	91人	127人	118人	130人	140人	124人	123人	143人	1,494人
入浴介助	124人	121人	127人	125人	89人	126人	117人	123人	127人	124人	112人	134人	1,449人
送迎	240回	234回	243回	236回	177回	247回	228回	253回	265回	238回	239回	279回	2,879回



③主な社会参加・啓発事業

実施月	行事名	参加人数	場所・内容等
4月	野球大会	16人	園内テニスコート・サイコロ野球
6月・10月	ミニ運動会	29人	ひまわり荘内・ミニ運動会
6・9・1・2月	川西養護学校実習	6人	延べ11日・日中活動に参加・結合実習
8月	夏まつり	12人	ひまわり荘内・コイン落とし・ゲームいろいろ
毎月	お話広場	73人	ひまわり荘内・お話し・手遊び・体操・8月中止
12月	クリスマス会	5人	ひまわり荘内・クイズ・プレゼント抽選など
2月	節分	7人	ひまわり荘内・豆まき
3月	モルック大会	22人	ひまわり荘内・延べ3日

F1	障がい児施設	決算科目	川西さくら園
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>児童発達支援では、園児一人ひとりの発達段階を正しくとらえ、保護者のニーズを確認しながら、個別支援計画に基づき、保育・リハビリ・看護職員によるチームアプローチを実施し、園児が心身ともに健やかに過ごせるよう支援した。医療的ケア児を含む重症心身障害児に対しては、令和4年度から週1回の分離療育日を設け、園児の発達促進や保護者負担の軽減に努めた。保護者に対しても、日常的な相談のほか、定期的な面談や研修会の実施などの支援を実施した。</p> <p>保育所等訪問支援事業や障害児等療育支援事業、相談支援事業を通して、地域の子どもたちの支援も実施した。さらに、職員を地域の会議や研修会に派遣することや公開講座の実施を通して、センターとしての機能を地域に還元するよう努めた。</p>

今後の課題
<p>① 療育内容や支援方法、保護者支援のさらなる充実を今後も検討していく必要がある。</p> <p>② 保育所等訪問支援・障害児等療育支援事業の周知をさらに深め、地域の子どもたちへの支援や地域の職員への助言を充実していく必要がある。</p> <p>③ 相談支援事業では、増加する一方の相談者への対応をどのように工夫していくのか、引き続き市役所・他相談支援事業所と協議しながら進めていく必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	200,022,317	208,179,372	8,157,055
受託金収入	45,421,697	57,238,208	11,816,511
障害福祉サービス等事業収入	150,093,297	148,327,350	△ 1,765,947
その他	4,507,323	2,613,814	△ 1,893,509
(支 出)	200,022,317	208,179,372	8,157,055
人件費	170,720,069	180,081,096	9,361,027
事業費	18,004,757	17,369,473	△ 635,284
事務費	10,243,055	9,782,067	△ 460,988
その他	1,054,436	946,736	△ 107,700

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	16,876,152	16,876,152	0
当期末支払資金残高	16,876,152	16,876,152	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、人件費支出増による増</p> <p>② 障害福祉サービス等事業収入は、延通園人数の減少に伴う減</p> <p>③ 人件費支出は、退職者の欠員補充に総合職員を採用したことに伴う増</p>

令和4年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

【実績と評価】

- 児童発達支援では、今年度も保護者のニーズを聞きながら、個別支援計画を作成し、その計画に基づいて、保育・リハビリ・看護職員によるチームアプローチを実施し、園児の支援にあたった。
- 新型コロナウイルス感染症への予防対策を徹底させて、安全・安心に通園できるよう努めた。2年間実施できなかった行事を、安全に実施できるよう検討・工夫をし、実施することができた。新型コロナウイルス感染症を理由に欠席されている園児や体調不良で欠席している園児には、YouTubeの配信や電話相談等在宅支援を実施した。
- 保護者に対しては、育児に不安な保護者が増えている傾向があり、日常的な相談に応じるとともに、個別面談・発達相談・心理相談・保護者研修会を実施し、保護者支援の充実にも努めた。
- 医療的ケア児を含む重症心身障がい児に対しては、週1回、分離療育日を設定し、保護者以外の大人との関わりの中で発達を促した。利用者の生活課題に必要な場合は、関係機関と連携して支援を行い、生活しやすくなるように環境を整えた。
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、ボランティアやトライやる・ウィークの受入は実施しなかったが、保育の養成課程の学生の実習は、感染予防に留意しながら受け入れた。

(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等訪問支援事業は年間40件、障害児等療育支援事業は、在宅支援(地域巡回型)が年間262件、施設支援が年間125件実施した。新型コロナウイルス感染症および他の感染症の状況によって訪問することは控えた時があるが、保健センターや地域の保育所・幼稚園・認定こども園・小学校へ職員が出向き、地域の子どもたちへの支援が、昨年度より多く実施できた。保育所等訪問支援事業においては、保育・教育現場での周知がまだ不足しているため、教育委員会を通して事業の説明を行った。また、育児相談や総合相談では、こどもの発達の評価をすると共に保護者への助言を行い、必要に応じて、通園通学施設や教育・医療・保健等と連携してサポートを行った。 ・ 相談支援事業では、医療的ケア児等コーディネーター・強度行動障害支援者を中心として、専門性の高い支援の実施に努め、行政・福祉サービス事業所や医療・保健・福祉・教育等関係機関との連携をさらに深め、共に支援に取り組み、適切なサポートを行った。福祉サービスをご利用になる方への計画相談のほか、計画に結びつかない一般相談や困難事例への対応を行うとともに、他の相談支援事業所への専門的な指導や助言を行った。円滑に相談を進めるため、相談支援体制等について行政・他の相談支援事業所とも協議しながら対応した。 			
(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年振りに開催された子育てフェスティバルに参加し、市民に園の紹介をした。地域の方を対象とした研修会としては、オンラインも併用し、関係機関・児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所・保育所・幼稚園・小学校職員を対象とした公開講座を2回、保護者を対象とした公開講座を1回実施した。また、要観察児親子教室・就学指導委員会・市運動発達相談・町発達療育相談や地域での研修会等に職員を派遣し、センター機能の地域への還元に努めた。 			

(1)入退園・利用状況 (定員：50人)																																																																		
内容	<p>川西さくら園の令和4年度入退園児数は、入園児童7人、退園児童17人であり、3月末日現在では、40人が在籍している。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初日在籍者数</td> <td>52</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>月末在籍者数</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>入園児数</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>退園児数</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	初日在籍者数	52	51	51	51	52	53	53	54	55	56	56	56	月末在籍者数	51	51	51	51	52	53	53	54	55	56	56	40	入園児数	2	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	退園児数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																					
	初日在籍者数	52	51	51	51	52	53	53	54	55	56	56	56																																																					
	月末在籍者数	51	51	51	51	52	53	53	54	55	56	56	40																																																					
	入園児数	2	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0																																																					
退園児数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16																																																						
(2)出席状況																																																																		
内容	<p>開園日数は232日、川西さくら園の出席率は定員50名に対し74.8%とななり、令和3年度より6%減となった。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開園日数</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>延通園人数</td> <td>649</td> <td>749</td> <td>842</td> <td>705</td> <td>614</td> <td>787</td> <td>758</td> <td>772</td> <td>705</td> <td>647</td> <td>727</td> <td>725</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	開園日数	18	19	22	20	18	20	20	20	19	18	19	19	延通園人数	649	749	842	705	614	787	758	772	705	647	727	725																										
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																					
	開園日数	18	19	22	20	18	20	20	20	19	18	19	19																																																					
延通園人数	649	749	842	705	614	787	758	772	705	647	727	725																																																						
<p>延べ通園児数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延べ通園児数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>8,534</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>7,581</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>9,418</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>9,407</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>8,680</td> </tr> </tbody> </table>		年度	延べ通園児数	平成30年度	8,534	平成31年度	7,581	令和2年度	9,418	令和3年度	9,407	令和4年度	8,680																																																					
年度	延べ通園児数																																																																	
平成30年度	8,534																																																																	
平成31年度	7,581																																																																	
令和2年度	9,418																																																																	
令和3年度	9,407																																																																	
令和4年度	8,680																																																																	

(3)日常生活動作別状況(3月1日現在)

①移動

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
ねたきり	0	0	0	1	2	2	1	6
ねがえり可	0	1	0	0	0	0	1	2
はいはい	0	0	0	1	0	0	0	1
つたい歩き	0	0	0	2	0	1	1	4
独歩	0	0	1	11	14	14	3	43
計	0	1	1	15	16	17	6	56

内容

②食事

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助	0	1	0	2	2	3	3	11
一部介助	0	0	1	13	14	14	3	45
自立	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	15	16	17	6	56

内容

③着脱衣

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助	0	1	1	7	2	2	3	16
一部介助	0	0	0	8	14	15	3	40
自立	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	15	16	17	6	56

内容

④排泄

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助予告無	0	1	1	14	8	3	4	31
全介助予告有	0	0	0	0	0	0	0	0
一部介助	0	0	0	1	8	12	2	23
自立	0	0	0	0	0	2	0	2
計	0	1	1	15	16	17	6	56

内容

⑤会話

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
発声なし	0	0	0	0	1	1	0	2
発声あり	0	1	1	8	7	2	4	23
喃語	0	0	0	1	1	2	0	4
数語程度	0	0	0	6	6	10	1	23
わかりにくい	0	0	0	0	1	1	1	3
会話可	0	0	0	0	0	1	0	1
計	0	0	0	7	8	14	2	31

内容

(4)病類別・診断別・性別・障がい度別状況(3月1日現在)

①年齢別・性別状況

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
男	0	0	1	9	12	10	6	38
女	0	1	0	6	4	7	0	18
計	0	1	1	15	16	17	6	56

内容

②障がい・障がい度別状況

(単位:人)

内容

	自閉スペクトラム症	ダウン症	発達障がい	脳性まひ	運動発達遅滞	発達遅滞	エフ・スタイン奇形	ウエスト症候群	下肢麻痺	脳室周囲白質軟化症	症候群	ヒルシユスプリング	1P36欠失症候群	プラダーウィリー	ターナー症候群	リー脳症	筋ジストロフィー	てんかん	その他	計
軽度	14	1	11	0	1	3	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	34
中度	7	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	12
重度	0	1	0	3	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	10
計	21	3	12	3	1	4	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	1	56

(5)行事報告

内容

実施日	行事名	場所(園外)・内容
5月 9~13日	さつまいもの苗うえ	園内畑
12・13日	保護者研修会	保育で大切にしていること
20日	保護者研修会	保育で大切にしていること
6月 7・8・14日	保護者研修会	更衣動作について
12日	療育参観日	
22日	保護者研修会	偏食について
30日	保護者研修会	摂食について
7月 5日	保護者研修会	就学に向けて
7・8日	なつまつり	
13日	保護者研修会	サポートブックについて
9月 9・21日	療育研修会	
17日	うんどうかい	
28日	保護者研修会	ペアレントトレーニング1
10月 11日	芝すべり	鳴尾ゴルフ倶楽部
12日	保護者研修会	ペアレントトレーニング2
19・26日	保護者研修会	食事動作について
31日 11月2・9日	いもほり	
11月 6日	療育参観日	
9・15日	保護者研修会	ペアレントトレーニング3
17日	合同避難訓練	
25日	園外療育	
30日	保護者研修会	ペアレントトレーニング4
12月 12・15・16・21日	おたのしみかい(各クラス)	クリスマス
14日	保護者研修会	修了される方へ
1月 20日	保護者研修会	こどもとことば2
27日	保護者交流会	
2月 8日	保護者研修会	療育の目標
24日	保護者交流会	
3月 13・20・22・24日	おたのしみかい(各クラス)	クラスのおわかれかい
28日	おわかれかい	

その他 お誕生日会、避難訓練

(6) 診察状況								
内容		小児科	精神科	眼科	耳鼻科	歯科	合計	
	診察回数(回)	2	10	2	2	2	18	
	診察延人数(人)	59	82	68	53	85	347	
(7) 外来専門医等による指導								
内容		児童精神科	小児神経科	理学療法	作業療法	言語聴覚	心理	計
	指導回数(回)	10	2	44	3	70	43	172
	延人数(人)	78	8	114	6	228	99	533
(8) 保育実施人数								
内容		個別活動	グループ活動	散歩	個人面談・家庭訪問	交流保育	(単位:人)	
	延人数	809	22,107	1,223	165	1		
(9) 訓練実施人数								
内容		理学療法	作業療法	言語聴覚	グループ	姿勢保持具・自助具製作及び修理	(単位:人)	
	延人数	327	587	468	0	0		
(10) 看護業務実施人数								
内容		視診	投薬	処置	病院付添	身体計測	検尿	カオスタット
	延人数	6,931	47	192	2	405	39	35
(11) 給食								
内容	①給食数(カッコ内は、アレルギー食を再掲)							(単位:食)
		普通食	刻み食	ミキサー食	合計			
	延食数	5,962(303)	616(184)	127(60)	6,705(547) 食			
内容	②1日当り給食数・1日当り単価							
	1日当たり給食数	35.6	食	1日当たりの給食単価	334円			
(12) 来訪者状況(延べ人数)								
内容		視察見学者	ボランティア	実習生	トライやる	その他	合計	
	延人数	13	6	52	0	0	71	

(13)障害児等療育支援事業

①在宅支援訪問療育等指導事業(県受託契約件数153件)

内容

在宅障がい児を対象に、保育士等が家庭等に出向いて療育及び相談や助言等による支援を行った。

	訓練	保育	その他	合計
延人数	23	203	36	262人

②施設一般指導事業(県受託契約件数98件)

内容

保育所・こども園・幼稚園・小学校等の職員を対象に、児童とのかかわり方や環境設定等についての相談や助言を行った。実施件数は、昨年度とほぼ同様であるが、民間保育園からの依頼も増えてきた。

	訓練	保育	その他	合計
延人数	65	60	0	125人

令和4年度の主な施設支援先

施設別	名称		
小学校	川西市立	牧の台小学校	
(市立・町立) 保育所 こども園	川西市立	牧の台みどりこども園 川西北こども園 川西こども園 多田保育所 川西中央保育所 小戸保育所 川西南保育所	
	猪名川町立	猪名川保育園	
	(民間) 保育所 こども園		つくしんぼ保育園 畦野こどもの里保育園 山下教会めぐみ園 けやき坂保育園 鶴之荘保育園 川西共同保育園 あおい宙かわにし あい保育園
		幼稚園	川西市立 東谷幼稚園 私立 YMCA松尾台幼稚園
		特別支援学校	川西市立 川西養護学校 兵庫県立 こやの里特別支援学校 兵庫県立 こぼと聴覚支援学校

(14)相談支援

①相談・支援利用者の状況

(単位:人)

内容

項目	障がい児
①福祉サービスの利用援助	4,015
②社会資源を活用するための支援	226
③社会生活力を高めるための支援	1,745
④ピアカウンセリング	2
⑤権利擁護のために必要な援助	4
⑥専門機関の紹介と連絡調整	7,867
⑦障害程度認定区分による調査	0
⑧サービス等利用計画の作成・管理	1,515
合計	15,374

内容	②相談方法 (単位:人)												
	電話相談	10,717											
	FAX・メール相談	43											
	来所相談	1,063											
	訪問相談(施設訪問も含む)	1,731											
	その他	305											
	合計	13,859											
内容	③実相談者数 (単位:人)												
	男性	2,802											
	女性	1,029											
	不明	9											
	合計	3,840											
内容	④障がい度別相談状況 (単位:人)												
	障がい度	男性	女性	合計									
	療育手帳 A	966	699	1,665									
	療育手帳 B1	570	137	707									
	療育手帳 B2	3,291	1,341	4,632									
	非所持者	4,886	1,465	6,351									
	不明者	376	126	502									
合計	10,089	3,768	13,857										
(15) 保育所等訪問支援													
内容	<p>保育士・専門職が、保育所・小学校を訪問し、訪問先の先生方と調整しながら、対象児童が集団生活や環境に適応できるよう支援した。具体的には、他児との関わり方、児への伝え方、学習の取り組み方、行事の取り組み方等を助言した。新規登録者はおらず、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施件数は少なかったが、令和4年度は11件増加した。</p>												
	①面談・訪問件数 (単位:人)												
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
面談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問	1	6	4	5	1	4	5	1	3	3	4	3	40
内容	②訪問場所												
	小学校	けやき坂小学校・川西小学校											
保育園	多田保育所・小戸保育所・中央保育所・つくしんぼ保育園												

F2	障がい児施設	決算科目	さくらんぼ
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>利用児が日常生活における基本動作を習得し、集団生活に適應することができるよう、子どもたちの発達状況に即した支援を実施した。ペアレントトレーニングは3歳児～5歳児の保護者を対象とし昨年度から対象者を拡大した。また、発達検査や発達相談、保護者面談を実施するなど保護者支援に力を入れた。</p>

今後の課題
<p>① 新規相談者・新規利用者の減少に伴い、利用定員の見直しが必要である。</p> <p>② 障害特性理解・療育に携わるための職員育成が必要である。</p> <p>③ ペアレントトレーニングを含めた保護者支援の充実が必要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	34,516,781	29,766,005	△ 4,750,776
障害福祉サービス等事業収入	34,502,781	29,507,005	△ 4,995,776
その他	14,000	259,000	245,000
(支 出)	34,516,781	29,766,005	△ 4,750,776
人件費	30,093,071	26,247,685	△ 3,845,386
事業費	1,252,033	888,434	△ 363,599
事務費	1,203,305	1,193,389	△ 9,916
その他	1,968,372	1,436,497	△ 531,875

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 障害福祉サービス等事業収入は、出席率の減少により減</p> <p>② 人件費支出は、欠員に伴う新規職員の未採用期間があったことにより減</p>

令和4年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>児童発達支援(20名)・放課後等デイサービス(10名) 合計20名</p> <p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用児の発達段階に合わせたカリキュラムを作成し、体系的に実施することにより療育の効果が得られるよう配慮した。日常のお子さんの様子を共通理解することでより具体的な支援に繋げられるよう保護者面談を充実させた。また、心理士による発達検査や心理相談も継続実施した。 児童発達支援では、中止していた行事を2、3学期にそれぞれ1回ずつ再開させ利用児のごきょうだいさんも一緒に取り組んだ。放課後等デイサービスでは、買い物学習を通してルールやマナーを学ぶ体験やペーパークラブや陶芸の作品作りに取り組んだ。 			
(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健センターや病院等から紹介された見学者等を受け入れる中で、特に療育が必要なお子さんや家族支援が必要なお子さんを積極的に受け入れた。 特別支援教育相談連携会議や5歳児発達相談への職員の派遣を行い事業所の機能を地域に還元した。 地域で生活する上で困りごとのないよう、利用児が所属することも園・幼稚園・保育所等に出向き連携することで利用児の支援に繋がった。 			
(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングの対象を令和3年度は4歳児・5歳児(対象者42名)であったが、令和4年度は3歳児から5歳児(対象者61名)の保護者へと拡大した。令和3年度は10名、令和4年度は11名の保護者が希望されペアレントトレーニングを実施した。 新型コロナウイルス感染・拡大を考慮し外来講師による保護者研修会は中止した。そのため、保護者面談を通して保護者支援に努めた結果、日々の悩みの解消及び日常生活の支援に繋がった。 子育て全般に不安を抱えている保護者が増加していると実感している。主に、日常生活動作の教え方・子どもへの関わり方・ことばやコミュニケーション面の発達・集団生活の過ごし方・今後の進路等に悩んでいることが多い。保護者支援を実施する上で、子どもだけではなく保護者一人一人の背景を見て適切にアドバイスしていくことが大切である。また、特に乳幼児期はおとなとの関わりがとて大切な時期であると認識している。そのため保護者支援における支援者の役割はとて重要である。 			

(1)入退園・利用状況 (定員：児童発達支援 20名、放課後等デイサービス 10名 合計20名)

内容

児童発達支援 (単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	80	80	80	81	79	81	82	83	81	79	78	78	962
月末在籍者数	80	80	81	79	81	82	83	81	79	78	78	58	940
登録者数	8	0	2	0	3	3	3	0	1	0	0	0	20
解除者数	8	0	1	2	1	2	2	2	3	1	0	20	42

放課後等デイサービス (単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	19	25	26	26	26	25	28	28	28	27	28	28	314
月末在籍者数	25	26	26	26	25	28	28	28	27	28	28	21	316
登録者数	6	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	11
解除者数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	7	9

(2)出席状況

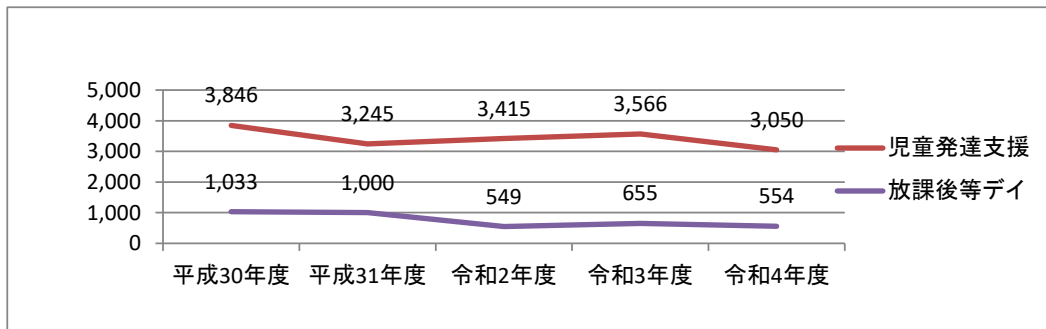
内容

児童発達支援(開所日数229日、1日平均出席者は14.9人) (単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	20	19	22	20	18	20	20	20	19	19	19	19	235
延利用人数	265	256	293	240	219	269	261	276	254	227	241	249	3,050
1日平均利用人数	13.2	13.4	13.3	12.0	12.1	13.4	13.0	13.8	13.1	11.9	12.6	13.1	12.9

放課後等デイサービス(開所日数229日、1日平均出席者は2.3人) (単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	20	19	22	20	18	20	20	20	19	19	19	19	235
延利用人数	41	36	44	37	41	59	48	52	46	49	48	53	554
1日平均利用人数	2.0	1.8	2.0	1.8	2.2	2.9	2.4	2.6	2.4	2.5	2.5	2.7	2.3

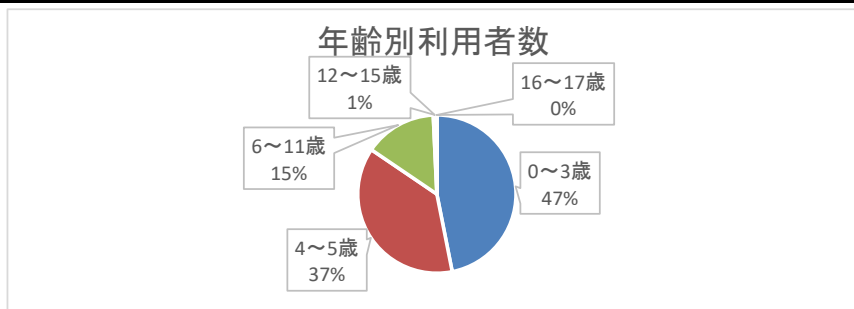


(3)延利用者年齢別・性別状況

内容

	未就学(児童発達支援)		学齢児童以上(放課後等デイサービス)			計
	0~3歳	4~5歳	6~11歳	12~15歳	16~17歳	
男	760	1,123	293	8	8	2,192
女	638	529	228	16	1	1,412
計	1,398	1,652	521	24	9	3,604

内容



(4) 事業所内相談						
内 訳	児童発達支援 (単位:人)					
		個別	グループ	計		
	件数	107	44	151		
	放課後等デイサービス					
	個別	グループ	計			
件数	21	0	21			
(5) 相談別状況						
内 訳	児童発達支援 (単位:人)					
		さくらんぼの 利用について	子どもの対応 について (こども園・幼稚園)	子どもの対応 について (保育所・保育園)	その他	計
	件数	20	12	5	310	347
	放課後等デイサービス					
	さくらんぼの 利用について	子どもの対応 について (学校)	子どもの対応 について (学校以外)	その他	計	
件数	5	0	0	52	57	
(6) 家庭・関係機関連携						
内 訳	児童発達支援 (単位:人)					
		家庭連携	関係機関 (こども園・保育園)	関係機関 (保育所・保育園)	その他	計
	件数	0	12	2	0	14
	放課後等デイサービス					
	家庭連携	関係機関 (学校)	関係機関 (学校以外)	その他	計	
件数	0	0	0	0	0	
(7) 行事報告						
	実施日	行事名	場所(園外)・内容			
	4月1日・4日～7日	保護者説明会(児童発達支援)	講座室			
	4月4日～7日	保護者説明会(放課後等デイサービス)	エレベーター前			
	7月4日～8日	サポートファイル作成・保護者交流会(児童発達支援)	講座室			
	8月3日～5日	陶芸(放課後等デイサービス)	講座室			
	8月23日～26日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン			
	12月5日～9日	事業所評価記入(児童発達支援)	講座室			
	12月5日～9日	事業所評価記入(放課後等デイサービス)	エレベーター前			
	12月9日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室			
	12月12日～16日	お楽しみ会(児童発達支援)	保育室			
	12月15日・19日・20日・23日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン			
	12月19日～23日	親子制作(児童発達支援)	保育室			
	12月23日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室			
	1月13日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室			
	1月23日～27日	アンケート記入(児童発達支援)	講座室			
	1月23日～27日	アンケート記入(放課後等デイサービス)	エレベーター前			
	1月27日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室			
	2月10日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室			
	3月22日～24日	親子制作(児童発達支援)	保育室			
	3月23日・24日・27日・28日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン			
	3月27日・28日	親子制作(児童発達支援)	保育室			

G	満寿荘	決算科目	満寿荘
---	-----	------	-----

主な事業内容・成果
<p>入居者の意志を尊重し1人ひとりの意向に沿った個別支援計画に基づき、いきいきと豊かな生活が送れるように支援した。また、要介護・要支援の認定を受けた入居者に対して、訪問介護・通所介護・福祉用具貸与などの外部サービスを適切に提供した。</p> <p>また、川西市との福祉避難所開設・運営訓練は、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。感染防止対策の徹底と、新型コロナ感染症に係る予防接種を利用者及び職員に適切に実施したことにより施設入所者の新型コロナウイルス感染は無かった。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	165,724,957	172,491,609	6,766,652
受託金収入	70,347,931	86,402,837	16,054,906
介護保険事業収入	22,977,666	22,614,001	△ 363,665
老人福祉事業収入	72,333,340	62,772,877	△ 9,560,463
その他	66,020	701,894	635,874
(支 出)	165,724,957	172,491,609	6,766,652
人件費	94,330,842	101,007,200	6,676,358
事業費	28,583,092	28,505,736	△ 77,356
事務費	42,621,971	42,823,169	201,198
その他	189,052	155,504	△ 33,548

今後の課題
<p>① 高齢化に伴い、介護の重度化や認知症などの利用者への対応が増加している。個別支援計画に基づき、地域の社会資源を活用した主体的な生活の支援が必要である。</p> <p>② 重層的支援体制整備における地域の総合相談窓口としての機能を担うことが必要である。</p> <p>③ 災害時における福祉避難所の円滑な運営のため関係機関との連携及び訓練が必要である。</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	18,889,428	18,889,428	0
当期末支払資金残高	18,889,428	18,889,428	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、措置人数及び介護保険利用者数の減による指定管理料の増</p> <p>② 人件費は、介護職員兼支援員1名の増と、給料月額改定に伴う増</p> <p>③ 事務費は、業務委託費の厨房排気フードファン清掃業務(2年に1回)実施に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>養護老人ホーム(50人定員)/特定施設入居者生活介護事業/訪問介護事業</p> <p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別サービス計画をもとに、入居者の心身の状況、生活習慣や望む生活等を理解し、一人ひとりの自律、自立に配慮した個別支援を行った。要介護・要支援の認定を受けた入居者に対して、個別サービス計画をもとに、訪問介護・通所介護・福祉用具貸与などの外部サービスを適切に提供した。また、入居者の権利擁護のため、1名の成年後見制度等の申し立て支援を行った。 新型コロナウイルス感染防止の観点から、地元幼稚園との交流、自治会との共催による夏祭り、クラブ活動におけるボランティアグループの定期的な交流などが中止または自粛となった。嗜好調査や月1回の行事説明会においては入居者からの意見・要望を聴き取り、感染防止対策を実施しながら、代替としてご当地メニュー・選択食やおやつバイキングなどを行い入居者に喜んでいただいた。 緊急ショートステイとして2名を受け入れ、うち1名が被虐待高齢者だった。セーフティネットとして市や関係機関と連携し支援を行った。 入居者の高齢化とコロナウイルス感染防止対策によりクラブ活動などの地域交流の中止や自粛、外出制限を実施したことで、身体機能が低下し転倒事故が多く発生したため、介護保険課の指導のもと個別サービス計画の見直しと、新たに福祉用具貸与の外部サービスを提供することで転倒事故が減少した。また、昭和60年に開所した施設で、施設内にスロープや段差があり、入居者の身体状況等に適合していないため改修が必要となっている。 入所相談時より関係機関との調整を行い、自立に向けた支援に努めた。 			

(2)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域ボランティアの受け入れや、教育機関の福祉体験学習などの交流ができなかった。しかしながら、感染防止対策上可能な範囲でテニスコートを地域活動に提供することで、地域とのつながりを維持することができた。 			
(3)	福祉避難所としての役割	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に福祉避難所としての開設要請はなかった。要請があった場合は、市と協議し作成した福祉避難所開設マニュアルに沿って、円滑な運営に取り組む。 新型コロナウイルス感染防止の観点から、関係機関との福祉避難所の運営訓練が開催されなかった。 			

(1)入退所状況 (定員：50人)																																																																																																													
内容	<p>川西市及び他市町より、1人の入所があったが、長期入院や施設入所による退所者数が8人となり、3月末現在で男性8人、女性17人、計25人となった。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">入所者数</td> <td>男</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">退所者数</td> <td>男</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">月末者数</td> <td>男</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>30</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	入所者数	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	退所者数	男	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	女	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	月末者数	男	12	12	12	12	12	12	11	9	9	9	8	—	女	20	20	20	20	18	16	16	16	16	17	17	—	計	32	32	32	32	30	28	28	27	25	25	26	—
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																																																																															
	入所者数	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																															
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0																																																																																															
	退所者数	男	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1																																																																																															
		女	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4																																																																																															
	月末者数	男	12	12	12	12	12	12	11	9	9	9	8	—																																																																																															
		女	20	20	20	20	18	16	16	16	16	17	17	—																																																																																															
		計	32	32	32	32	30	28	28	27	25	25	26	—																																																																																															
	(2)年齢別入所者状況(3月31日現在)																																																																																																												
	内容	<p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>65歳未満</th> <th>65～69歳</th> <th>70～74歳</th> <th>75～79歳</th> <th>80～84歳</th> <th>85～89歳</th> <th>90歳～</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計	男	0	0	1	5	1	1	0	8	女	0	1	2	4	2	4	4	17	計	0	1	3	9	3	5	4	25																																																																							
			65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計																																																																																																			
男		0	0	1	5	1	1	0	8																																																																																																				
女		0	1	2	4	2	4	4	17																																																																																																				
計		0	1	3	9	3	5	4	25																																																																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>男</th> <th>女</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～64歳</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>65～69歳</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>70～74歳</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>75～79歳</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>80～84歳</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>85～89歳</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>90歳～</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	男	女	～64歳	0	0	65～69歳	0	1	70～74歳	1	2	75～79歳	5	4	80～84歳	1	2	85～89歳	1	4	90歳～	0	4																																																																																			
		年齢	男	女																																																																																																									
		～64歳	0	0																																																																																																									
		65～69歳	0	1																																																																																																									
	70～74歳	1	2																																																																																																										
	75～79歳	5	4																																																																																																										
80～84歳	1	2																																																																																																											
85～89歳	1	4																																																																																																											
90歳～	0	4																																																																																																											
<p>男 5</p> <p>女 4</p> <p>女 2</p> <p>女 2</p> <p>女 4</p> <p>女 4</p>																																																																																																													
<p>男 0 女 0</p> <p>男 0</p> <p>女 1</p> <p>男 1</p> <p>女 2</p> <p>男 1</p> <p>女 2</p> <p>男 1</p> <p>女 4</p> <p>男 0</p> <p>女 4</p>																																																																																																													
<p>～64歳</p> <p>65～69歳</p> <p>70～74歳</p> <p>75～79歳</p> <p>80～84歳</p> <p>85～89歳</p> <p>90歳～</p>																																																																																																													
<p>■ 男</p> <p>■ 女</p>																																																																																																													

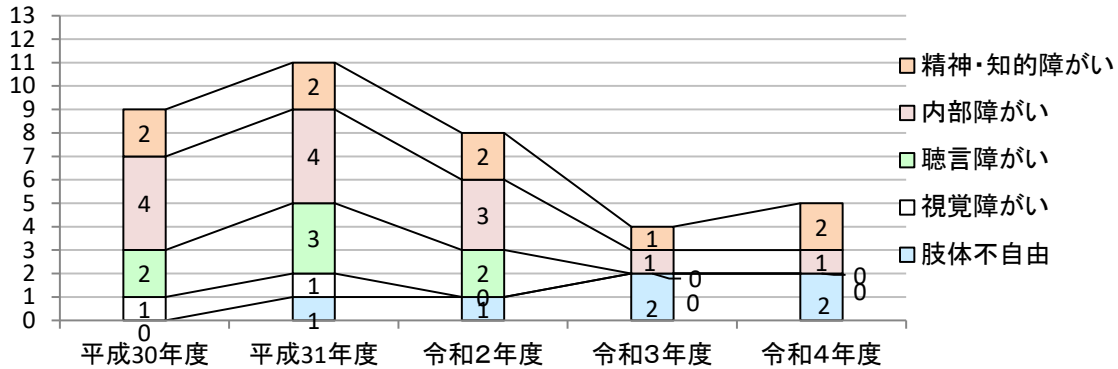
(3) 障がい別入所者状況(3月31日現在)

(単位：人)

	肢体不自由	視覚障がい	聴言障がい	内部障がい	精神・知的障がい	計
男	0	0	0	0	1	1
女	2	0	0	1	1	4
計	2	0	0	1	2	5

(単位：人)

障がい別推移



内容

(4) 理由別退所者状況

(単位：人)

	親族引取	入院治療	特 養	老健施設	死 亡	在 宅	その他	計
男	0	0	1	0	2	0	1	4
女	0	3	1	0	0	0	0	4
計	0	3	2	0	2	0	1	8

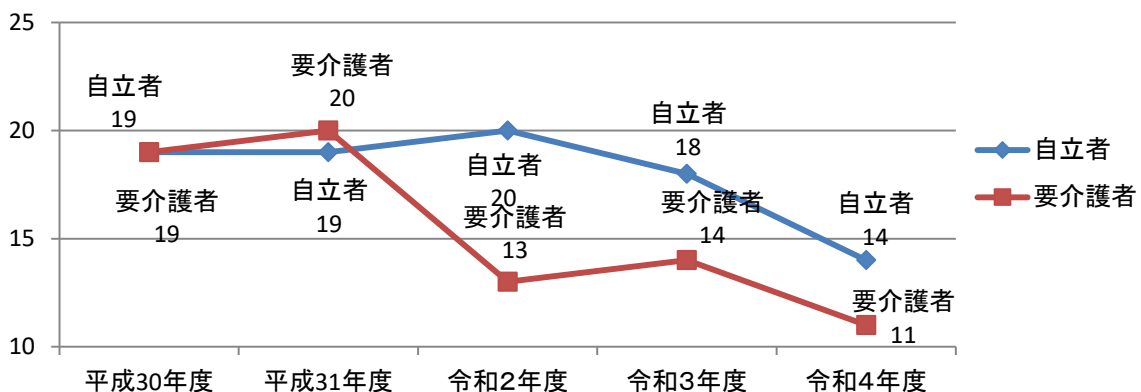
内容

(5) 介護度別入所者状況(3月31日現在)

(単位：人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	1	0	0	0	0	1
女	0	3	3	3	1	0	0	10
計	0	3	4	3	1	0	0	11

要介護者の推移



内容

(6)給食状況

給食数は年間31,500食となり、月別では入院等によって変動した。栄養量は基準どおり。また、糖尿病食、減塩食、腎臓食など身体状況に応じた食事を提供しており、四季折々の行事食、ご当地メニュー、選択食など趣向を凝らした食事が入居者に喜んでいただいた。

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
給食数	3,025	2,948	2,754	2,846	2,840	2,654	2,606	2,415	2,482	2,362	2,222	2,346	2,625
一日当たり平均栄養量	カロリー	1,765	1,744	1,744	1,719	1,723	1,736	1,775	1,766	1,788	1,791	1,756	1,754
	蛋白質 g	59.9	59.9	59.7	59.3	58.2	58.9	60.5	58.9	59.7	61.0	58.4	59.4
	脂肪 g	44.5	44.5	44.6	43.1	43.1	42.1	46.2	45.5	47.3	44.7	44.6	44.5
1人1日当たり材料費(円)	849	821	815	828	820	826	850	822	868	805	845	936	840

内容

(7)保健・診療状況

外来診療は延べ445人が受診した。(主に内科、整形外科)

4月は嘱託医による血圧測定、聴打診を、10月は嘱託医のクリニックへ付添いのもと健康診断を実施した。また、服薬管理が必要な利用者のために、延べ82,322人の薬の確認及び仕分けを行った。

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
科別人数	内科	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	1	2	9
	外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	2	9
	脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5
	泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	皮膚科	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4
	眼科	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	3	10
	腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	5
	嘱託内科	27	25	24	24	25	24	23	23	23	21	21	20	280
嘱託心療内科	8	8	16	8	8	16	8	7	8	16	9	9	121	
合計	35	35	42	32	33	42	31	34	33	50	37	41	445	
病院入院者	1	3	3	3	3	1	4	3	3	0	2	3	29	
医務室業務	投薬準備	8,340	4,427	7,969	6,094	5,975	11,060	8,418	7,652	6,516	5,302	5,269	5,300	82,322
	バイタル測定	136	120	113	102	110	112	94	88	113	104	80	84	1,256
	身体測定	30	31	29	29	27	28	27	26	22	24	23	24	320
	酸素濃度測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	処置	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12
	検査	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	遠赤外線照射	2	11	6	15	1	13	15	4	2	0	0	0	69
	予防接種	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	25
	健康診断	0	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	26
	その他	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	8,508	4,589	8,117	6,241	6,115	11,227	8,580	7,795	6,653	5,430	5,372	5,408	84,035	

内容

(8)年金状況(3月31日現在)

(単位:人)

年金受給者	23
無年金者	2

内容

(9)葬祭等状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
葬儀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

内容

(10) 来訪者状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者親族	7	5	7	0	4	2	8	1	9	3	1	9	56
入所者知人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボランティア	3	4	3	3	3	3	3	3	4	3	3	2	37
行事参加者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	8	3	5	6	7	5	4	11	12	3	4	4	72
合計	18	12	15	9	14	10	15	15	25	9	8	15	165

※その他・・・福祉事務所、後見人

(11) ボランティアの状況

ボランティア名	活動内容
七種清	月1回来所し、理髪を実施
吟睦会	月1回来所し、詩吟・カラオケを指導(感染防止のため休止)
川西市いけばな協会	年2回行事前に来所し、花を生ける(感染防止のため休止)
野田 虚真	月1回来所し、生花を指導(感染防止のため休止)
川西市茶道協会	年1回来所し、お手前・作法の実施(感染防止のため休止)
矢野 啓子	月1回来所し、習字を指導(感染防止のため休止)
レインボー	年1回来所し、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
新井 晋	月1回来所し、俳句を指導(通信添削)
少林寺川西中部支部	年1回来所し、入所者と歌やゲームなどの交流をしたり、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
伊藤 茂代	月1回来所し、茶道を指導(感染防止のため休止)
若曾根 初恵	月3回来所し、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
日赤奉仕団	年1回来所し、健康体操を実施(感染防止のため休止)
尾市 雅子	月1回来所し、コーラスを指導(感染防止のため休止)
写真同好会	園内の写真展示(感染防止のため休止)
小林 洋子	月1回来所し、レクリエーションを実施(感染防止のため休止)
中野 新子	週2回来所し、シーツ交換や洗濯などの生活支援を実施(感染防止のため休止)

(12) 月別行事

- 4月 花見ドライブ、自治会総会
5月 少林寺拳法交流会(感染防止のため休止)
6月 満寿荘まつり(感染防止のため休止)、川西市茶道協会(感染防止のため休止)、川西市いけばな協会(感染防止のため休止)、おでかけイベント
7月 七夕祭(地域の幼稚園児との交流は中止)、グルメツアー(感染防止のため休止)
8月 盆踊り(地域の自治会と共催)(感染防止のため休止)
9月 偲び献花、日赤奉仕団(感染防止のため休止)、敬老行事(感染防止のため休止)
10月 地域の幼稚園児との交流(感染防止のため休止)、バーベキュー大会(感染防止のため休止)
11月 買い物ツアー(感染防止のため休止)
12月 クリスマス喫茶
1月 新年ドライブ(多田神社)(感染防止のため休止)、新年会(感染防止のため休止)
2月 節分祭
3月 ひな祭り茶会(感染防止のため休止)

・その他の行事

- 誕生会・消防避難訓練・注文買物・トライやる・ウィーク(感染防止のため休止)・選択食
・行事説明会・ラジオ体操・介護予防運動・栄養健康教室・おやつイベント

・クラブ活動

- 生花(感染防止のため休止)・茶道(感染防止のため休止)・習字(感染防止のため休止)・コーラス(感染防止のため休止)・農園・俳句(通信添削)・吟睦会(感染防止のため休止)・レクリエーション(感染防止のため休止)・グラウンドゴルフ・カラオケ

H1	老人福祉センター	決算科目	一の鳥居老人福祉センター
----	----------	------	--------------

主な事業内容・成果
<p>市内在住の60歳以上の高齢者を対象に健康の増進、教養の向上を図ることを目的に、老人福祉センターA型の事業を実施した。</p> <p>個人利用者は、健康増進と憩いの場として、入浴や血圧計、電位治療器、マッサージ器などを利用し、趣味の会は教養活動の拠点として利用した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、25人以上の人が集まる自主事業は自粛し、入浴事業は令和5年3月31日をもって終了した。</p> <p>年間延べ利用者数は10,221人となり、前年比152%となった。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	14,928,925	18,807,387	3,878,462
受託金収入	14,928,085	18,806,267	3,878,182
その他	840	1,120	280
(支 出)	14,928,925	18,807,387	3,878,462
人件費	6,908,147	9,581,050	2,672,903
事業費	3,018,774	4,407,237	1,388,463
事務費	4,971,044	4,716,312	△ 254,732
その他	30,960	102,788	71,828

今後の課題
<p>① 感染予防対策として自主事業を自粛してきたが、行動制限撤廃等施策実施のなか感染症対策のもと高齢者の健康や生きがいにつながる事業を実施していく必要がある。</p> <p>② 利用者の高齢化と入浴事業の廃止により、利用人数の大幅な減少へ対応する必要がある。</p> <p>③ 自治会や地区福祉委員会などと連携して、地域活動の拠点としての役割を充実していく必要がある。</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	3,348,267	3,348,267	0
当期末支払資金残高	3,348,267	3,348,267	0

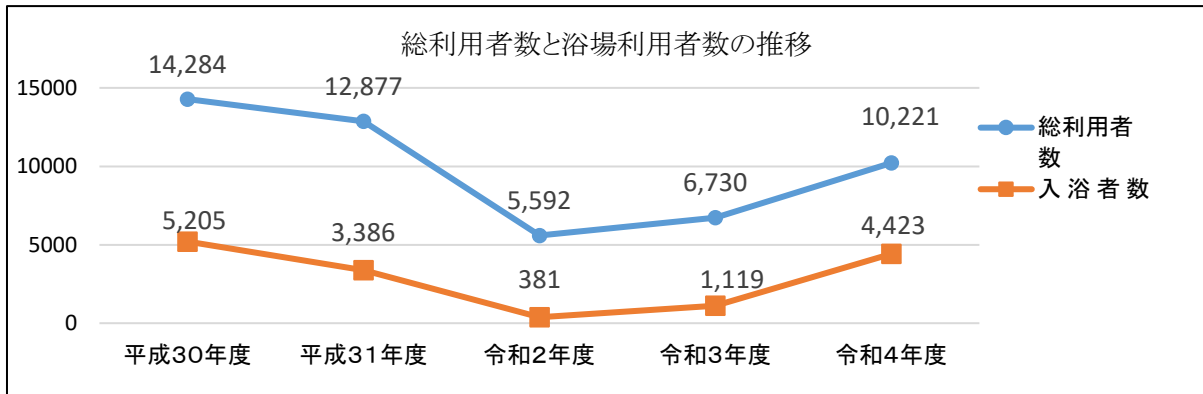
主な増減理由
<p>① 受託金収入は、人事異動に伴う人件費の増</p> <p>② 人件費は、所長(専従)の配置に伴う増</p> <p>③ 事業費は、水道光熱費等物価上昇に伴う増</p> <p>④ 事務費は、修繕費支出の減少に伴う減</p> <p>⑤ その他支出は、ファイナンスリースの計上に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4											
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①											
【実績と成果】														
(1)利用者状況														
個人利用者数		南部地区			中部地区			北部地区			全地区			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	60歳代	0	0	0	25	30	55	197	518	715	222	548	770	
	70歳代	228	103	331	167	111	278	1,010	1,731	2,741	1,405	1,945	3,350	
	80歳代	198	19	217	94	103	197	538	529	1,067	830	651	1,481	
	90歳代	60	0	60	28	0	28	4	0	4	92	0	92	
	計	486	122	608	314	244	558	1,749	2,778	4,527	2,549	3,144	5,693	
	各種教室				219			趣味の会			4,193			
	各種行事				53			定期講座			0			
	貸 館				63									
	総 利 用 人 数											10,221		

個人利用者数(5,693 人)の内、浴場利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入浴実施日数(日)	20	17	22	20	22	20	20	18	19	18	19	22	237
利用者数(人)	311	262	294	264	328	317	365	312	342	426	529	673	4,423



(2) 趣味の会利用状況

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
囲碁1	21	48	582
囲碁2	14	44	497
囲碁3	17	43	238
囲碁研究会	10	35	276
将棋	28	43	409
絵手紙(ミモザ)	12	10	90
自彊術	30	24	517
カラオケ(北摂会)	8	18	129
カラオケ(友愛会)	7	22	146
カラオケ(りんどう)	10	21	98
カラオケ(カトレア)	4	1	4
カラオケ(楽遊)	6	16	74
茶道	8	休会中	休会中
表装	6	19	48
川西シルバー童唱会	13	16	153
漢詩吟詠会	4	24	106
パソコン(ミッキーマウス)	3	19	74
書道(のぎく)	4	17	66
楽しむフラダンス	9	21	166
健康体操(一の会)	29	8	154
グラウンドゴルフ(ことぶき会)	19	32	366
ゲートボール	休会中	休会中	休会中
計	262	481	4,193

(3) 定期講座受講状況

今年度は定期講座の開催はなかった。

(4) その他行事等の開催状況

5月	今日から始める介護予防 歌謡体操	7
6・7月	今日から始める介護予防 歌謡体操	9
5・7月	今日から始める介護予防 フラダンス	12
6・8月	今日から始める介護予防 フレイル予防	9
9月	今日から始める介護予防 歌謡体操	17
9・10月	今日から始める介護予防 フレイル予防	12
10月	今日から始める介護予防 歌謡体操	14
11月	今日から始める介護予防 歌謡体操	12
12月	手作り講座「たまごの殻で干支づくり」	21
12月	今日から始める介護予防 歌謡体操	18
1月	今日から始める介護予防 歌謡体操	21
2月	今日から始める介護予防 歌謡体操	17
3月	今日から始める介護予防 歌謡体操	25
3月	登録グループ説明会(令和5年度について)	13
3月	健康講座「生活習慣病予防と血管年齢測定」	25
7～8月	学びのスペース提供 (貸館)	11
8月	フラダンス見学会 (貸館)	25
4～3月	成年後見カフェ (貸館)	27
計		335

(2) 地域の福祉拠点としての取組み

取組項目 ②

【実績と成果】

- ・ コロナ禍で制限されることも多いが、開かれた施設運営に努めた。福祉拠点としての関係機関との調整機会はなかった。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目 ③

【実績と成果】

- ・ コロナ禍での感染予防対策(マスク着用・定期的換気・手洗・手指消毒・器具等消毒)を実行しつつ、施設スペースを利用して趣味の会の活動を行い、生きがい・交流の場となった。また、東谷地区福祉委員会の依頼による長尾町自治会の高齢者の居場所づくりに月2回、自治会の会合に月1回、別館の活用があった。

H2	老人福祉センター	決算科目	緑台老人福祉センター
----	----------	------	------------

主な事業内容・成果
<p>市内在住の60歳以上の方を対象に生活相談や健康体操・健康講座の開催、趣味の会の活動支援や入浴サービスを実施した。また、囲碁将棋や電位治療器、マッサージ器等の提供を通じて高齢者の生きがいづくりや健康増進、教養等の向上を図ることができた。</p> <p>利用者数は、新型コロナの前の約半数、昨年より1万人増加の累計約2万人であった。事業実施日数は、昨年とほぼ同じの243日、入浴事業は、昨年より132日多く183日であった。また、利用者など5人の高齢者を福祉関係機関等と連携して支援し、地域の総合相談窓口の役割を果たすことができた。</p>

今後の課題
<p>① 入浴事業終了等により利用者が減少することから、高齢者にとって関心のある事業を増やし利用者増に取り組むことが必要である。</p> <p>② 地域福祉活動の拠点として、福祉委員会等と連携し、相談支援や共同事業の実施、施設運営に取り組むことが重要である。</p> <p>③ 趣味の会の活動展や施設内の掲示板を活用し、利用者を増やすことや地域に根差した福祉施設として機能を発揮させることが重要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	21,467,583	24,262,305	2,794,722
受託金収入	21,460,213	24,253,395	2,793,182
その他	7,370	8,910	1,540
(支 出)	21,467,583	24,262,305	2,794,722
人件費	9,649,561	9,907,385	257,824
事業費	5,182,753	8,320,878	3,138,125
事務費	6,604,309	5,930,734	△ 673,575
その他	30,960	103,308	72,348
当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,092,023	4,092,023	0
当期末支払資金残高	4,092,023	4,092,023	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、職員の給与改定等に伴う増</p> <p>② 事業費は、水道光熱費等物価上昇に伴う増</p> <p>③ 事務費は、入浴設備等における修繕費減に伴う減</p> <p>④ その他支出は、ファイナンスリース計上に伴う増</p>

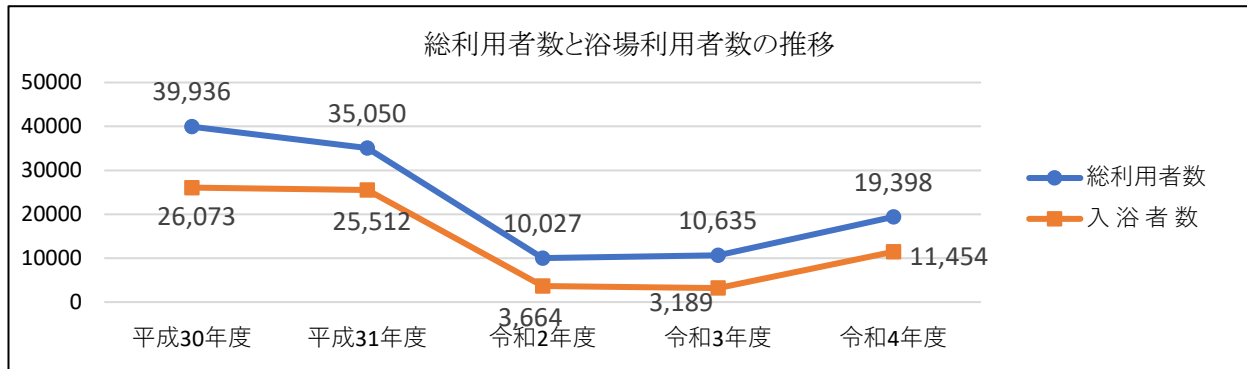
令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4										
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①										
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数は、新型コロナ感染拡大前の約半数の2万人であったが、ほぼ例年通りの事業が行われ、高齢者の健康増進や生きがいづくり、孤立の防止や居場所としての役割を果たすことができた。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、月1回の健康体操や健幸測定会、認知症予防体操、ハンドマッサージなどの講座を開催し健康増進が図られた。入浴事業は、設備の故障のため事業終了前の約3ヶ月間実施できなかったが、昨年より132日多く183日実施した。衛生面の維持向上や交流の場のひとつとして実施し、利用者からは好評であった。 													
(1)利用者状況 (単位:人)													
個人利用者数	南部地区			中部地区			北部地区			全地区			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	60歳代	0	1	1	455	395	850	25	3	28	480	399	879
	70歳代	106	210	316	3,390	2,231	5,621	412	418	830	3,908	2,859	6,767
	80歳代	222	11	233	3,062	2,996	6,058	204	62	266	3,488	3,069	6,557
	90歳代	1	0	1	658	44	702	0	0	0	659	44	703
	計	329	222	551	7,565	5,666	13,231	641	483	1,124	8,535	6,371	14,906
	貸し室				84			趣味の会			4,114		
	各種行事				0			定期講座			0		
	各種教室				294								
	総利用人数	19,398											

個人利用者数(14,906 人)の内、浴場利用者数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1,285	1,264	1,396	1,259	1,344	1,234	1,220	1,205	1,190	57	0	0	11,454



(2) 趣味の会利用人数

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
俳句	14	22	256
生け花	10	19	81
GH盆踊り連	29	0	0
書道	9	21	153
卓球 福祉	20	22	274
卓球 りんどう	34	22	481
社交ダンス 福祉	16	24	320
フォークダンス	23	23	466
墨彩画	6	16	78
健康麻雀の会	68	17	588
ハッピー	18	21	291
社交ダンス アンジェリカ	13	24	213
懐メロと軽体操の会	21	19	252
ぴんとぼん	11	22	91
健康体操えがお	17	22	238
気功体操B	11	19	257
パソコン教室(ミニテーブル)	5	21	75
計	325	334	4,114

(3) 定期講座・教室等受講状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
健康体操	18	20	21	16	15	18	22	24	22	23	24	24	247
健康講座	—	—	—	23	—	14	—	—	—	—	—	10	47
計	18	20	21	39	15	32	22	24	22	23	24	34	294

(4) その他行事等の開催状況

新型コロナウイルスの影響により未実施である。

(2)	地域の福祉拠点としての取り組み	取組項目 ②
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者や近隣エリアの方5名について、関係機関等と連携して悩みの相談や安否確認などの支援を行い、安全と安心を提供し、日常生活での困りごとを気軽に相談できる窓口としての役割を担った。 		
(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目 ③
<p>①【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が作成された作品の発表の場であり、地域住民との交流などを目的として開催する趣味の会の活動展は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ中止した。 当センターには、11名が入室できる図書室があり、小説やエッセイ、健康本など約3,200冊の本がある。静かに読書を楽しむ方や本を借りられる方など図書室が活用されている。読書を通じて脳が活性化され、認知症予防や記憶力、集中力の向上、ストレス解消など健康の維持や増進につながった。年間の図書貸出延べ人数は716人、貸出延べ冊数は1,781冊であった。 		

H3	老人福祉センター	決算科目	久代老人福祉センター
----	----------	------	------------

資金収支計算書決算額 (単位:円)

主な事業内容・成果
<p>市内在住の60歳以上の老人を対象に健康の増進、教養の向上を図ることを目的に、老人福祉センターB型の事業を実施した。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による利用制限もない中、感染予防対策を講じながら年度を通して各種講座の開催や趣味の会活動が行われ、総利用者数は、令和3年度と比較して7.7%の増となった。</p>

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	11,929,426	11,046,130	△ 883,296
受託金収入	11,928,796	11,044,310	△ 884,486
その他	630	1,820	1,190
(支 出)	11,929,426	11,046,130	△ 883,296
人件費	9,228,623	8,150,310	△ 1,078,313
事業費	1,073,717	1,187,065	113,348
事務費	1,608,994	1,647,695	38,701
その他	18,092	61,060	42,968

今後の課題
<p>① 利用者の高齢化等により利用人数は、引き続き減少傾向にあるため、ニーズを反映した講座の開催や趣味の会への継続した支援が必要である。</p> <p>② 広報誌やホームページなどを活用した講座や趣味の会の周知が必要である。</p> <p>③ 地域の福祉拠点としての役割の確立が必要である。</p>

当期末支払資金残高	0	0	0
前期末資金収支残高	1,662,257	1,662,257	0
当期末支払資金残高	1,662,257	1,662,257	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、人事異動に伴う給与差額等による減</p> <p>② 事業費は、水道光熱費支出の増</p> <p>③ 事務費は、研修研究費支出等の増</p> <p>④ その他支出は、ファイナンスリース計上に伴う増</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4											
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①											
【実績と成果】														
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による利用制限もない中、高齢者の方々が安心して利用できるよう日々の消毒などの感染防止対策を計りながら事業を実施し、総利用者数は増加した。 個人利用で卓球をされていた利用者へ声掛け、支援を行った結果、新たに趣味の会(Tクラブ)の立ち上げができた。 コロナ禍や利用者の高齢化等により従来のような世代間交流事業の開催は困難であるが、実施方法を検討し、児童センターの季節のイベントに趣味の会利用者等の参加協力を得て世代間交流が図れた。 														
(1)利用者状況 (単位:人)														
個人利用者数	南部地区			中部地区			北部地区			全地区				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	60歳代	2	357	359	0	0	0	0	0	0	2	357	359	
	70歳代	447	1,532	1,979	0	0	0	0	0	0	447	1,532	1,979	
	80歳代	436	600	1,036	0	0	0	0	0	0	436	600	1,036	
	90歳代	0	15	15	0	0	0	0	0	0	0	15	15	
	計	885	2,504	3,389	0	0	0	0	0	0	885	2,504	3,389	
	定期講座				256			世代間交流			13			
	趣味の会				4,016			各種行事			0			
	各種教室				163			その他(貸し部屋等)			94			
	総利用人数											7,931		



(2) 趣味の会利用人数

グループ名	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
碁友会(囲碁)	6	41	123
囲碁同好会	7	39	117
将棋同好会	13	47	301
銀唱会(カラオケ)	11	18	152
ファインクラブカラオケ	10	21	151
すみれ会(ハーモニカ)	10	24	162
エコの会(エコクラフト)	10	20	117
ダーツ愛好会	15	23	252
MTC(卓球)	14	47	461
南りんどう同好会(卓球)	13	44	267
歌謡ダンス同好会	11	39	248
楽しむフラの会(フラダンス)	9	23	140
いきいき百歳体操	15	46	554
はつらつ会(体操)	10	24	213
骨盤体操「ひまわり」	17	24	311
シニアヨガ	14	22	288
Tクラブ(卓球)	6	32	159
計	191	534	4,016

(3) 定期講座等受講状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ピラティス	28	29	26	—	—	26	29	29	—	29	31	29	256
健康体操	16	13	14	14	11	14	14	11	12	14	15	15	163
計	44	42	40	14	11	40	43	40	12	43	46	44	419

(4) 世代間交流状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
クリスマス会	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—	—	11
節分の会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
計	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	2	0	13

(5) その他行事等の開催状況

(単位：人)

開催月	開催内容	参加人数
4月	趣味の会(はつらつ会)総会	5
	成年後見相談会	3
5月	成年後見相談会	4
	地域福祉課主催利用者説明会(老人福祉センターのあり方について)	17
	市広報広聴課 利用者インタビュー(第6次川西市総合計画特集記事)	2
6月	成年後見相談会	2
	趣味の会(生き生き百歳体操)レクリエーション	11
7月	成年後見相談会	3
8月	成年後見相談会	2
9月	成年後見相談会	3
10月	成年後見相談会	1
11月	成年後見相談会	3
12月	成年後見相談会	5
1月	成年後見相談会	3
	趣味の会(ダーツ愛好会)懇親会	14
2月	成年後見相談会	2
3月	成年後見相談会	2
	趣味の会(MTC卓球) 総会	12
計		94

(2) 地域の福祉拠点としての取組み

取組項目： ②

【実績と成果】

- ・ 地域における福祉の相談窓口として、関係機関等と調整する相談などはなかった。
- ・ 地域活動の拠点機能としてフードドライブを実施し、2件受入れがあった。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目： ③

【実績と成果】

- ・ 施設スペースを活用し、利用者の培ってこられた経験や趣味を発表する機会である「敬老のつどい」等は、新型コロナウイルス感染症の状況等を検討の上、実施を見送った。

II	子育て支援事業	決算科目	久代児童センター
----	---------	------	----------

主な事業内容・成果
<p>児童福祉法及び川西市条例に基づき、市内の児童を対象に健全な遊びを通して体力増進を図り、社会適応能力を高め、情操を豊かにするための支援を行った。</p> <p>事業参加やプレイルーム利用の保護者の方には積極的に声をかけ、子育ての様子や悩み事などを伺い、孤立した子育てにならないよう寄り添う支援を行った。</p> <p>事業の案内や募集の申込状況等の情報を、LINE配信(計22回)し、利用者へ迅速に伝えることができた。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	19,472,920	16,491,850	△ 2,981,070
受託収入	15,286,632	16,491,850	1,205,218
その他	4,186,288	0	△ 4,186,288
(支 出)	19,472,920	16,491,850	△ 2,981,070
人件費	16,220,267	13,125,162	△ 3,095,105
事業費	1,575,358	1,696,170	120,812
事務費	1,509,103	1,606,334	97,231
その他	168,192	64,184	△ 104,008

今後の課題
<p>① 引き続き、保護者が不安を抱え「孤育て」にならないためにも気軽に相談できる体制づくりが必要である。</p> <p>② オンラインでの事業や参加申し込みができる環境整備の検討が必要である。</p> <p>③ 小学生対象の事業実施や、中高生の長期休みに学習ができる場所の提供を推進する必要がある。</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	1,694,241	1,694,241	0
当期末支払資金残高	1,694,241	1,694,241	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、人事異動に伴う減</p> <p>② 事業費は、水道光熱費支出の増</p> <p>③ 事務費は、事務用消耗品支出等の増</p> <p>④ その他支出は、前年度の雑支出がなくなったことに伴う減</p>

令和4年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

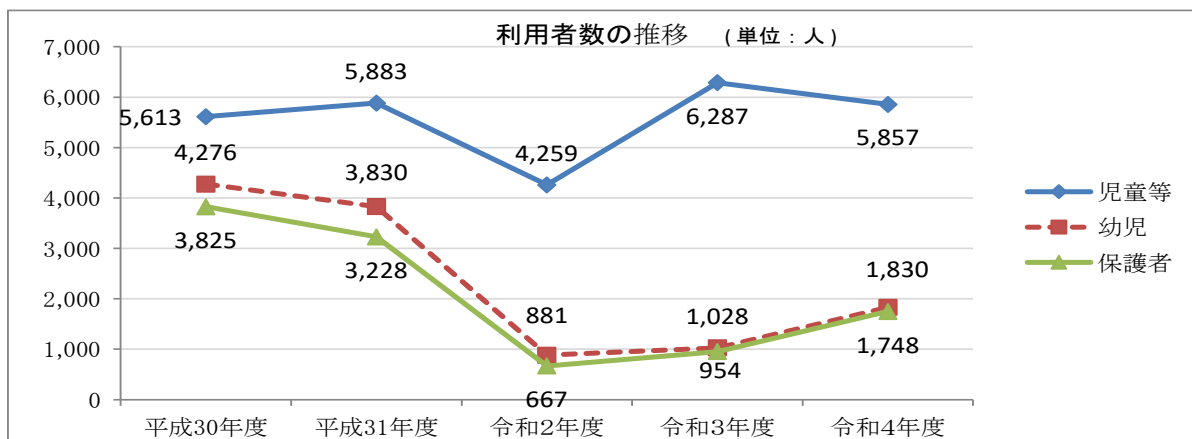
【実績と成果】
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度もコロナ禍ではあったが、年間総利用人数は、9,435人となり、令和3年度よりも増加した。特に幼児向けに工夫した事業実施ができたため、幼児の利用者数が802人の増となった。 児童クラブは、次のとおり開催した。 工作教室(年3回 参加人数 35人)、小学生カプラ(年10回 参加人数 162人)、夏、冬・春休みカプラ遊び(年6回 参加人数 54人)、料理教室(年1回 参加人数 10人) 幼児クラブは、次のとおり開催した。 赤ちゃん交流会(手遊び、ふれあい遊び、グループトークなど 年18回 参加人数 186人) いっしょにあそぼう(ふれあい遊び、サーキット、制作、グループトークなど 年14回 参加人数 199人) のびのびクラブ(制作、サーキット、ボール遊びなど 年17回 参加人数 419人) げんきっこクラブ(制作、運動遊び、楽器遊びなど 年18回 参加人数 163人) みんなであそぼう!(制作、フープ遊び、リトミックなど 年3回 参加人数 50人) 水遊び(年1回 参加人数 14人)

- 令和4年度の幼児クラブの事業は1クール5～6回の連続制で開催した。それにより毎回同じ顔ぶれの利用者が集まることで事業を通して繋がりを深め、情報交換等ができる場を作ることができた。
- クリスマス会などの季節行事において、老人福祉センターの利用者や地域ボランティアの方の協力を得て、世代間交流を図ることができた。
- LINEの登録者数は、240人を超えた。行事の参加申し込みや定員に満たない事業の再配信をすることで参加者の増に繋がっている。利用者にとって各種の発信情報が有効に機能しており、今後も細やかな情報を迅速に届けていく必要がある。

利用者状況

(単位:人)

		男	女	計			男	女	計	
児 童 等	1年生	85	83	168	幼 児		929	901	1,830	
	2年生	203	394	597						
	3年生	200	302	502	保 護 者		119	1,629	1,748	
	4年生	533	578	1,111						
	5年生	586	619	1,205						
	6年生	961	473	1,434						
	中学・高校	563	277	840						
	小計	3,131	2,726	5,857	合 計		4,179	5,256	9,435	



(2) 地域の福祉拠点としての取組み

取組項目 ②

【実績と成果】

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策で密集を避けるため人数制限を行いながらではあったが、子育てフェスティバルが開催され、参加することができた。
- 令和3年度に引き続き、久代小学校及び加茂小学校と連携を図ることで学校行事が把握できたため、それに基づき施設の行事予定を組むことができた。
- 子育て支援に関する相談については、延べ73人の保護者等から相談を受けた。相談内容は、保護者自身の相談が15件、子どもに関する相談が88件あり、子どもの発育に関する相談が25件で最も多かった。
- 子ども支援課主催の「子育て支援拠点連絡会」へ参加し、グループワークを通して課題に向き合い、それぞれ抱えている状況を把握すると共に、日頃の業務に関する思いや悩みなどを共有することができ、事業を推進するうえでの情報交換ができた。

(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目 ③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボランティア体験、高校生のインターンシップ受入れは実施できなかったが、トライやるウィークで2校の受入れを行うことができた。事業を通して絵本の読み聞かせや壁面制作などを体験し、利用者に関わりを持つことができた。 • 令和3年度に引き続いて川西児童館と連携を図り、共催事業を2回開催することができた。各施設の職員が相手施設へ行き事業を実施することで、各施設の事業内容や遊具等を利用者に認知してもらうことができ、相互利用に繋がる事業が実施できた。 • 隣接するアソシア・ジョブ川西の職員や利用者、ハロウィンでの子ども達の仮装をお披露目したり、節分の会に鬼役で参加してもらうなど連携した行事を開催することができた。 		

I2	子育て支援事業	決算科目	ファミリーサポートセンター事業
----	---------	------	-----------------

主な事業内容・成果
<p>「子育ての応援をしてほしい」(依頼会員)、「子育ての応援をしたい」(協力会員)、「子育ての応援をしてほしいし、応援もしたい」(両方会員)という地域住民が会員として登録し、保育所への送迎や学童終了後の預かり等、地域の中で育児の相互援助活動を行う会員制の組織である。</p> <p>会員同士のつながりが深まるよう、交流会や講習会を開催し、啓発グッズ作成で啓発活動に取り組んだ。また、川西市内の新一年生対象の小学校説明会でリーフレット配布、連絡網アプリ「ミマモルメ」でのPR配信などを行った。</p>

今後の課題
<p>①地域の関係機関や団体等へ説明会を行うなど制度を周知し、会員の拡充に努める。</p> <p>②YouTubeやインスタなどのSNS、動画を使って、新たに協力会員の増加に向けた啓発PR活動を行う必要がある。</p> <p>③複合的課題に対応できるよう、職員の資質向上に取り組む、依頼会員の相談への対応をスキルアップする。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和3年度	令和4年度	増減
(収 入)	7,484,355	7,553,634	69,279
受託金収入	7,484,355	7,553,634	69,279
その他			
(支 出)	7,484,355	7,553,634	69,279
人件費	6,159,289	6,229,610	70,321
事業費	607,972	264,361	△ 343,611
事務費	658,338	944,315	285,977
その他	58,756	115,348	56,592

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 人件費支出は、職員の勤務日数に伴う増</p> <p>② 事業費支出は、諸謝金支出等の減</p>

令和4年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1																																																		
(1)	幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目	③																																																		
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 猪名川町広報紙への特集記事の掲載、川西市内新一年生向けの小学校説明会時のリーフレット配布により、人材の発掘に取り組んだ結果、依頼会員数が増加した。 新たな協力会員や未受講者への安全講習を開催し、リスクマネジメントの徹底を図った。 サブリーダーを中心に協力会員同士のつながりを深めるためのサポーター座談会の開催、外部講師を呼んでサブリーダー研修の実施など、幅広く会員の資質向上に取り組んだ。 <p>① 地域別会員登録者数(令和5年3月31日現在)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>地 区</th> <th>依頼会員</th> <th>協力会員</th> <th>両方会員</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>久代小</td><td>29</td><td>6</td><td>10</td><td>45</td></tr> <tr><td>加茂小</td><td>47</td><td>12</td><td>10</td><td>69</td></tr> <tr><td>川西小</td><td>91</td><td>19</td><td>18</td><td>128</td></tr> <tr><td>桜が丘小</td><td>44</td><td>12</td><td>5</td><td>61</td></tr> <tr><td>川西北小</td><td>52</td><td>9</td><td>11</td><td>72</td></tr> <tr><td>明峰小</td><td>62</td><td>23</td><td>20</td><td>105</td></tr> <tr><td>けやき坂小</td><td>31</td><td>16</td><td>14</td><td>61</td></tr> <tr><td>多田小</td><td>33</td><td>18</td><td>13</td><td>64</td></tr> <tr><td>多田東小</td><td>41</td><td>5</td><td>6</td><td>52</td></tr> </tbody> </table>				地 区	依頼会員	協力会員	両方会員	合 計	久代小	29	6	10	45	加茂小	47	12	10	69	川西小	91	19	18	128	桜が丘小	44	12	5	61	川西北小	52	9	11	72	明峰小	62	23	20	105	けやき坂小	31	16	14	61	多田小	33	18	13	64	多田東小	41	5	6	52
地 区	依頼会員	協力会員	両方会員	合 計																																																	
久代小	29	6	10	45																																																	
加茂小	47	12	10	69																																																	
川西小	91	19	18	128																																																	
桜が丘小	44	12	5	61																																																	
川西北小	52	9	11	72																																																	
明峰小	62	23	20	105																																																	
けやき坂小	31	16	14	61																																																	
多田小	33	18	13	64																																																	
多田東小	41	5	6	52																																																	

緑台小・陽明小	44	14	17	75
清和台小・清和台南小	28	23	9	60
東谷小	46	20	7	73
牧の台小	49	19	12	80
北陵小	16	5	4	25
猪名川町	78	28	29	135
宝塚市・伊丹市	12	6	3	21
合 計	703	235	188	1,126
入 会	74	7	3	84
退 会	65	16	7	88

② 会員確保に向けた取り組み

開催日	内 容	参加者(人)
4月11日	子育て自主グループ、主任児童委員のまちの子育てひろば交流会でのPR①	5
4月19日	子育て自主グループ、主任児童委員のまちの子育てひろば交流会でのPR②	11
4月21日	川西青年会議所主催のオンライン講習会でのPR	50
7月1日	猪名川町広報紙「広報いながわ」掲載(見開き2ページの特集)	0
1月31日	川西市内小学校校長会でのPR	16
2月24日	新一年生入学説明会でのリーフレット配布 ※1	0
3月1日	広報紙「社協かわにし」掲載(取材記事掲載)※2	0
3月2日	登下校メール・メール連絡網アプリ「ミマモルメ」でのPR ※3	0

※1 新一年生約1,100人配布。 ※2 川西市市内の全戸配布。

※3 川西市内幼保小中の保護者、地域の方など登録している方に向けて配信。

③ 講習会の開催

開催日	内 容	参加者(人)
5月25日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習1回目	4
6月7日	ステップアップ研修 1回目「救命救急講習」	3
6月28日	第1回講習会「傾聴・共感を学ぼう!!」	35
7月13日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習2回目	0
7月27日	第2回講習会「大人も子どもも食と育つ」	22
10月18日	第3回講習会「サポート中の腰痛を防ごう！」	25
10月26日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習3回目	0
11月21日	第4回講習会「子どもを一人の主体として受け止める」	34
11月28日	ステップアップ研修 2回目「救命救急講習」	10
11月30日	サブリーダー宝塚研修(宝塚ファミリーサポートセンターにて)	11
12月6日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習4回目	2
2月14日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習5回目	4
2月20日	サブリーダー研修会「旧会員さんの発表と討論会」	13
3月10日	子育て支援講座	20
3月15日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習6回目	0
随 時	入会時の入会登録と制度説明会	84

④ 交流会の開催

開催日	内 容	参加者(人)
12月19日	サポーター座談会2022	20

※ 協力会員が講師となり、保湿クリームを手作りした。その後、サブリーダーが司会、進行をしてテーマにグループワークを実施した。「協力会員になって良かったこと」や「活動中に困ったこと」などを共有し、会員相互の意見交換が活動の安心感につながった。

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③

【実績と成果】

- 社協LINEや市の広報紙を活用し、ファミサポ通信(情報誌)や講習会開催の情報発信を行うことで、会員以外の地域住民に対しても、幅広くセンターの情報発信や啓発の推進に取り組んだ。また、ウェットティッシュ等啓発グッズの作成、川西市幼保小中の連絡網アプリ「ミマモルメ」での配信など、幅広い世代へ周知を図るとともに包括的な情報発信に取り組んだ。特に「ミマモルメ」での発信は依頼会員の増加につながった。

① 広報紙(ファミリーサポート通信)の発行

号数	発行月	部数
第55号	7月(夏発行)	2,000
第56号	2月(春発行)	4,000

3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

【実績と成果】

- サポートの依頼に対し、当センターのサポートだけでなく、依頼会員が暮らす地域の訪問型たすけあい活動や子ども食堂などとのコーディネートを行うことで、依頼世帯の地域とのつながりを構築した。

① サブリーダー会、各種研修会、講習会、イベントへの職員の参画

開催日	内 容	参加者(人)
毎月第3月曜	サブリーダー会(原則、8月を除く毎月開催)	106
9月17日	地域の支援者・学生のための子育て支援研修講座	2
10月14日	アドバイザー全国交流会・講習会	2
11月14日	川西市子育てフェスティバル	3
11月24日	ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議	3
12月21日	リスクマネジメント講習会	2
1月26日	兵庫県アドバイザー等研修会	2
2月24日	福祉従事者中堅職員研修(子ども家庭支援)	1

※猪名川キッズフェスティバルは新型コロナウイルスのため中止

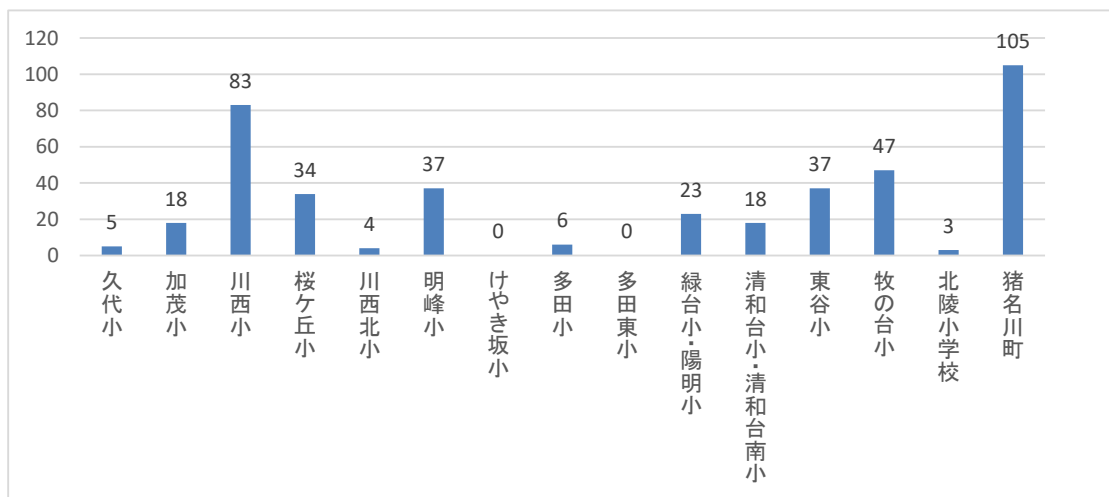
4	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①

【実績と成果】

- ・ 以前に川西さくら園を利用していた依頼会員へのサポート調整では、同園の相談支援事業担当者との情報共有により、詳細な子どもの状況を把握することで協力会員及び依頼会員双方にとって安心して活動となるようなコーディネートを行った。
- ・ 川西市子育てフェスティバルの参画を通して、各関係団体との連携を深めた。

① 地域別依頼受付数と活動件数

地域区分	依頼受付数			活動件数	依頼会員 世帯	協力会員 世帯
	受付	キャンセル	不成立			
久代小	6	0	1	5	2	2
加茂小	23	3	2	18	3	1
川西小	101	14	4	83	5	3
桜ヶ丘小	47	11	2	34	3	2
川西北小	5	1	0	4	1	1
明峰小	51	13	1	37	7	3
けやき坂小	0	0	0	0	0	1
多田小	8	2	0	6	2	1
多田東小	0	0	0	0	0	0
緑台小・陽明小	40	12	5	23	4	2
清和台小・清和台南小	28	10	0	18	2	1
東谷小	98	31	30	37	3	2
牧の台小	66	17	2	47	5	6
北陵小	5	2	0	3	1	1
猪名川町	142	34	3	105	4	4
宝塚市・伊丹市	0	0	0	0	0	0
合 計	620	150	50	420	42	30



※ キャンセルの主な理由

- ・ 家族で対応
- ・ 行事そのものの中止
(新型コロナウイルス感染症拡大による休校・学級閉鎖含む)

※ 不成立の主な理由

- ・ 協力会員の都合が合わない、体調が悪い

② 依頼内容別援助活動件数

活 動 内 容	件 数
保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり	50
保育施設までの送迎	45
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	34
放課後児童クラブの送迎	14
学校の放課後の子どもの預かり	3
学校の放課後の送迎	0
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	0
買い物等の外出の際の子どもの預かり	1
障がい児の送迎(療育施設、習い事等)	13
障害児の預かり	4
小学校の登校前の子どもの預かり	5
放課後児童クラブの開始前の子どもの預かり	0
習い事等への子どもの送迎	200
保育所・学校等が休み時の子どもの預かり	0
依頼会員宅での預かり	6
保護者が兄弟・姉妹の習い事等の送迎を行う際の子どもの預かり	8
保護者の病気、その他急用の場合の子どもの預かり	1
保護者等の求職活動中の子どもの預かり	0
保護者等の自宅就労、短時間、臨時的就労の場合の子どもの預かり	2
保護者の趣味、リフレッシュの際の子どもの預かり	18
慣らし保育	9
その他 (母の健康診断時の兄弟の預かり)	7
合 計	420